

令和元年度第4回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議

日時 令和2年1月30日（木）13：30～15：30

場所 一関保健センター2階 栄養指導室

次 第

1 開 会

2 協 議

- (1) 改訂人口ビジョンにおける人口の現状分析及び将来人口の推計について
- (2) 高校生ワークショップの結果について
- (3) 総合戦略に係るアンケートのクロス集計結果について

3 閉 会

一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員名簿

No.	分野	団体等	職名等	氏名	ふりがな	備考
1	金	日本政策金融公庫	一関支店長	金沢 修治	かなざわ しゅうじ	
2	官	一関公共職業安定所	上席職業指導官	金成 風太	かねなり ふうた	
3	産	ヒラサワ・エフ・マーケット		熊谷 志江	くまがい ゆきえ	
4	学	修紅短期大学	食物栄養学科助手	佐藤 佳織	さとう かおり	欠席
5	金	一関信用金庫	理事	佐藤 一也	さとう かずや	
6	学	一関工業高等専門学校	副校長 地域共同テクノセンター長	鈴木 明宏	すずき あきひろ	欠席
7	市民	一関市子ども・子育て会議	委員	滝上 亜寿香	たきがみ あすか	
8	言	岩手日日新聞社	編集局報道部	千葉 順子	ちば じゅんこ	
9	市民	緑のふるさと協力隊員経験者		中芝 浩美	なかしば ひろみ	欠席
10	官	岩手県南広域振興局	経営企画部 企画推進課主査	中机 純子	なかつくえ じゅんこ	
11	労	連合岩手一関地域協議会	事務局長	野村 勉	のむら つとむ	
12	市民	ファンスポルト一関	代表理事	橋本 真由美	はしもと まゆみ	
13	産	いわて平泉農業協同組合	営農部長	藤野 秀一	ふじの しゅういち	欠席
14	産	一関商工会議所	事務局長	船山 賢治	ふなやま けんじ	
15	学	岩手県立大学	総合政策学部 准教授	堀籠 義裕	ほりごめ よしひろ	
16	産	有限会社かさい農産		町田 彩花	まちだ あやか	
17	学	岩手県立千厩高等学校	生産技術科 教諭	三浦 孝浩	みうら たかひろ	

■市側出席者

役職	氏名
市長公室長	石川 隆明
市長公室次長兼政策企画課長	佐藤 正幸
市長公室政策企画課長補佐兼未来戦略係長	阿部 繁樹
市長公室政策企画課政策推進係長	鈴木 敏宏
市長公室政策企画課 主査	小野寺 知之
市長公室政策企画課 主事	佐藤 真央

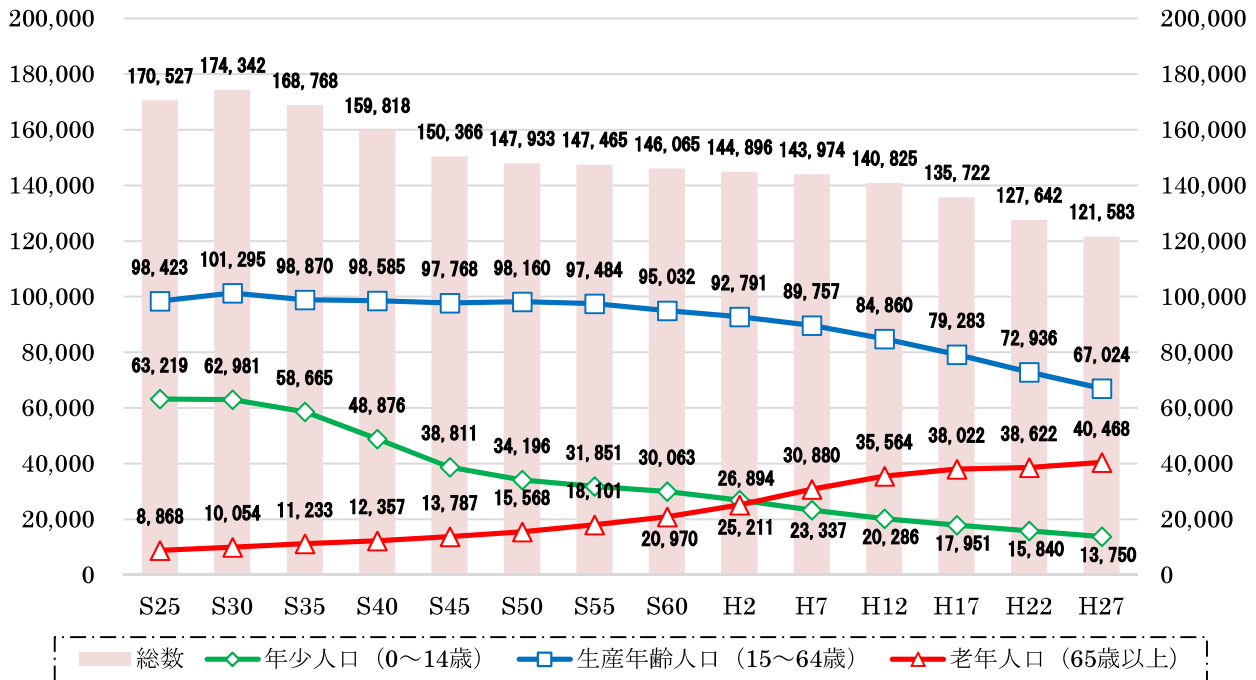
1 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

① 人口の推移

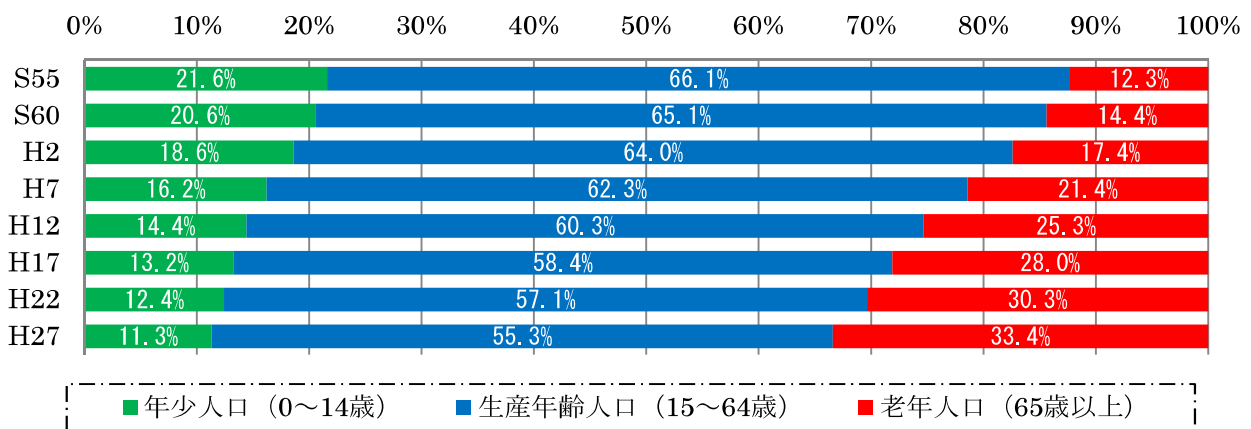
■ 国勢調査における総人口、年齢3区分別人口の推移

総人口・年齢3区分別人口の推移



国勢調査より

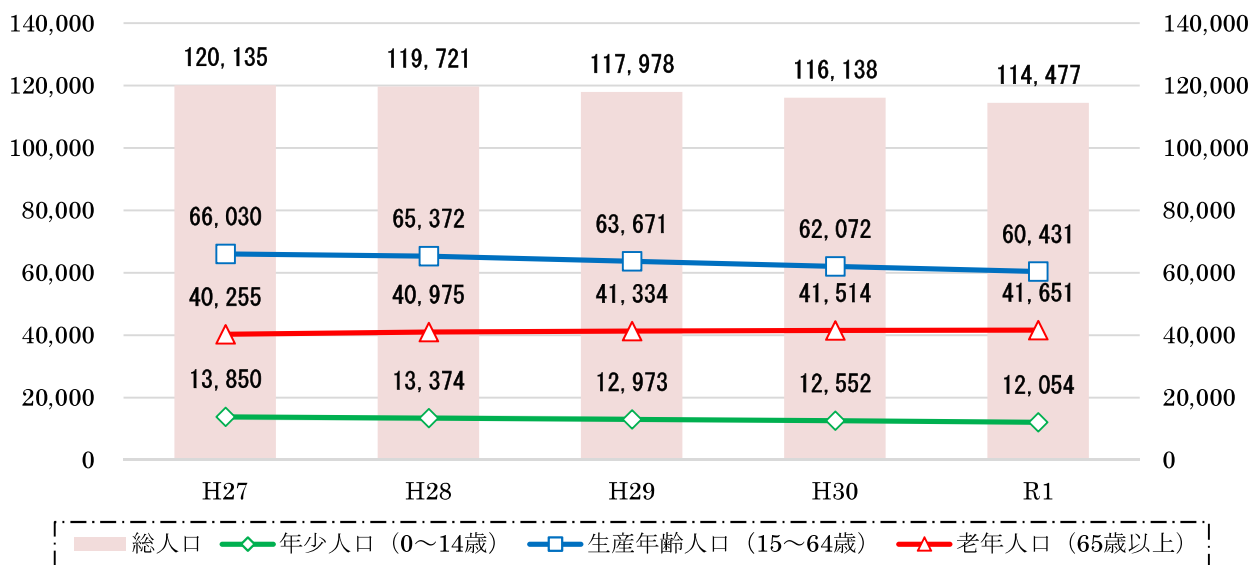
年齢3区分人口の割合の推移



国勢調査より

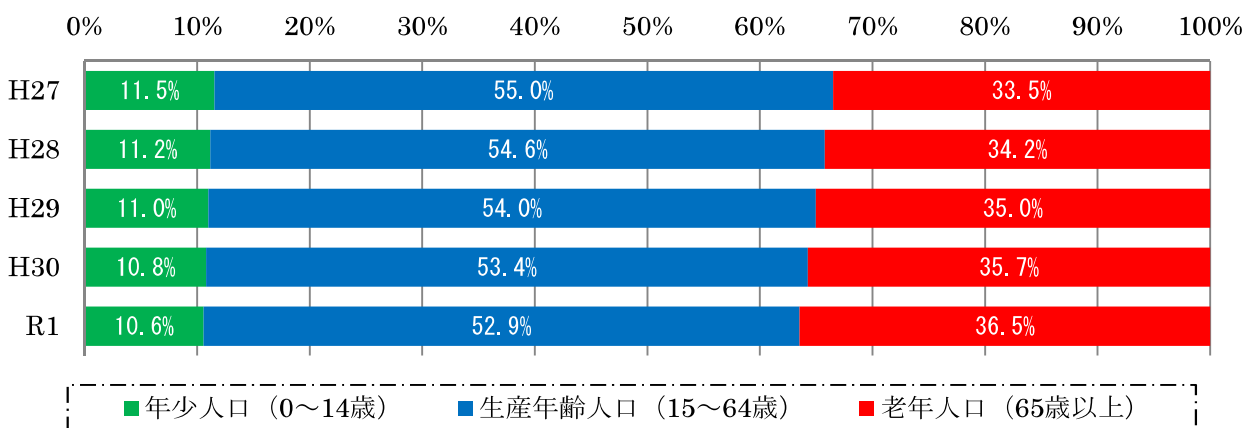
■近年の総人口、年齢3区分別人口の推移

総人口・年齢3区分別人口の推移



岩手県人口移動報告年報より

近年の年齢3区分人口の割合の推移



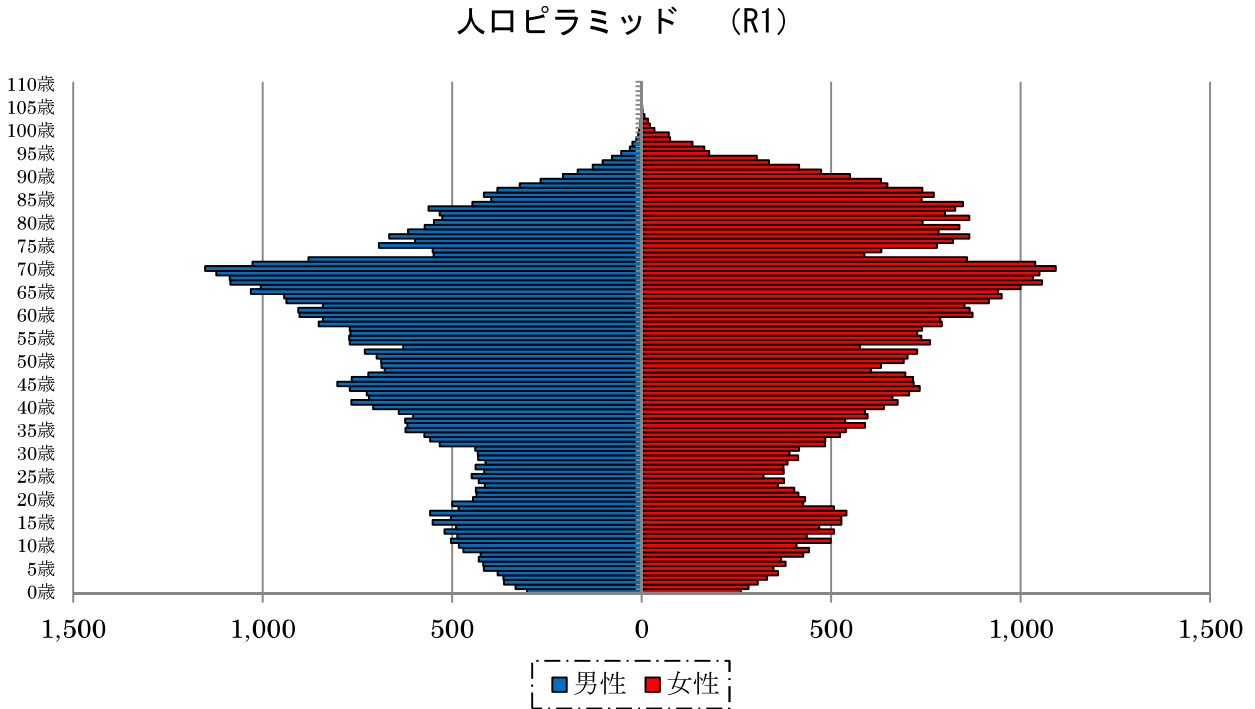
岩手県人口移動報告年報より

総人口は減少傾向。平成7年（1995年）には老年人口が年少人口を上回る

- 総人口は、昭和30年（1955年）をピークに、以後、令和元年（2019年）まで減少が続いています。
- 生産年齢人口及び年少人口も減少傾向にある一方で、老年人口は増加傾向にあります。
- 平成7年（1995年）には老年人口が年少人口を上回り、以降、老年人口と年少人口との差は拡大しています。

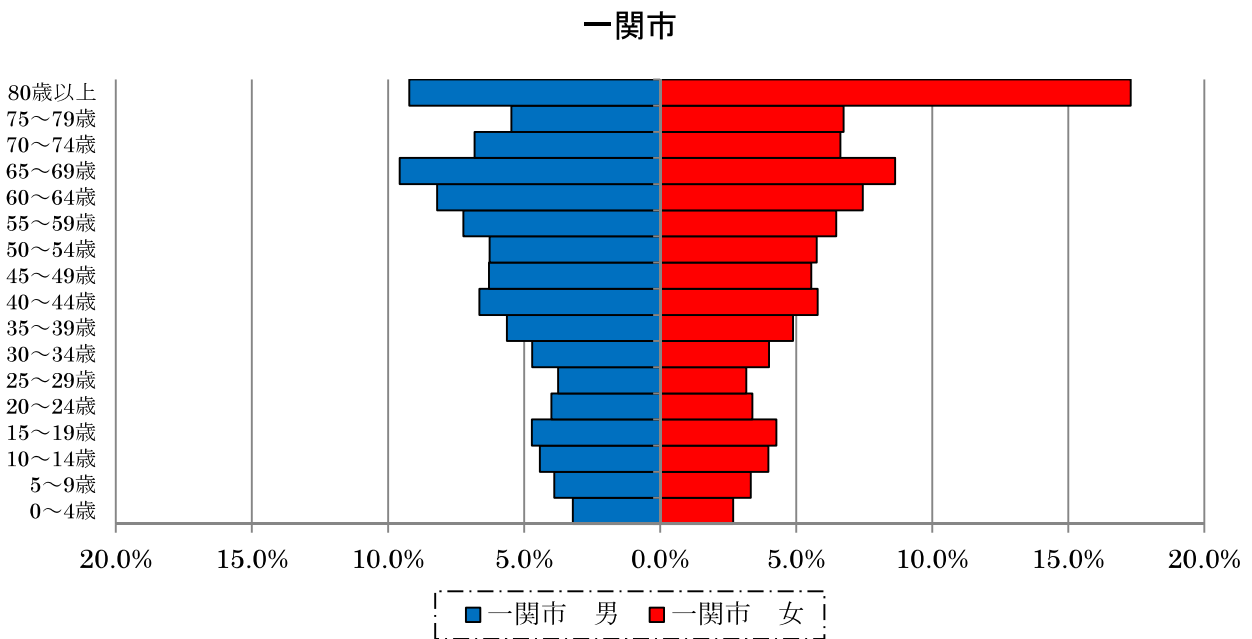
② 人口構造、人口動態

■一関市の人口構造

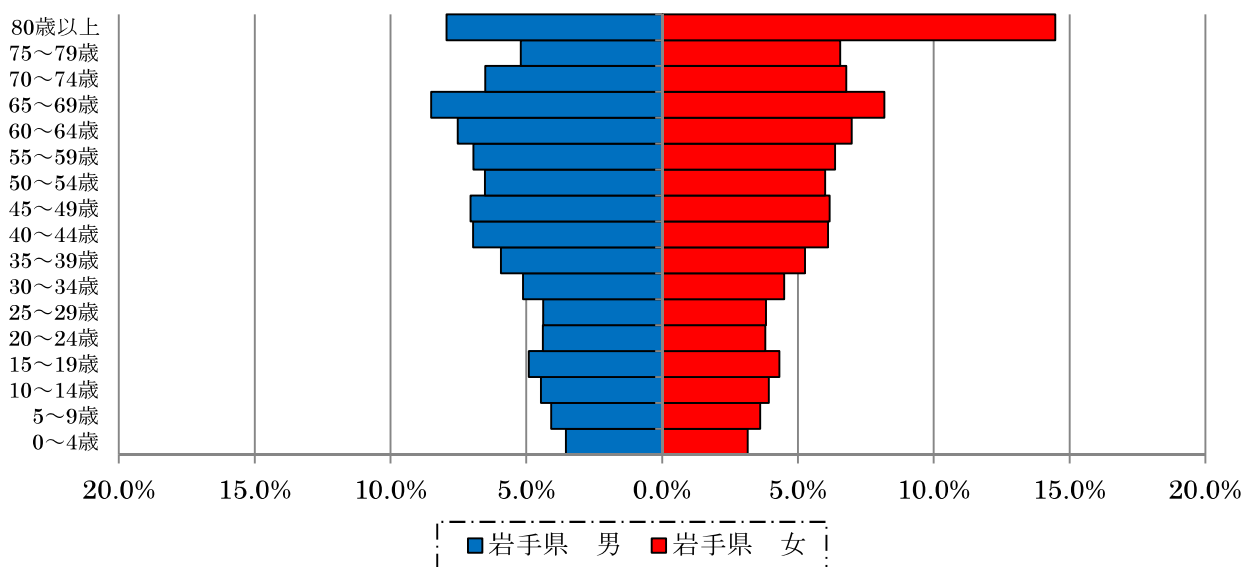


住民基本台帳より

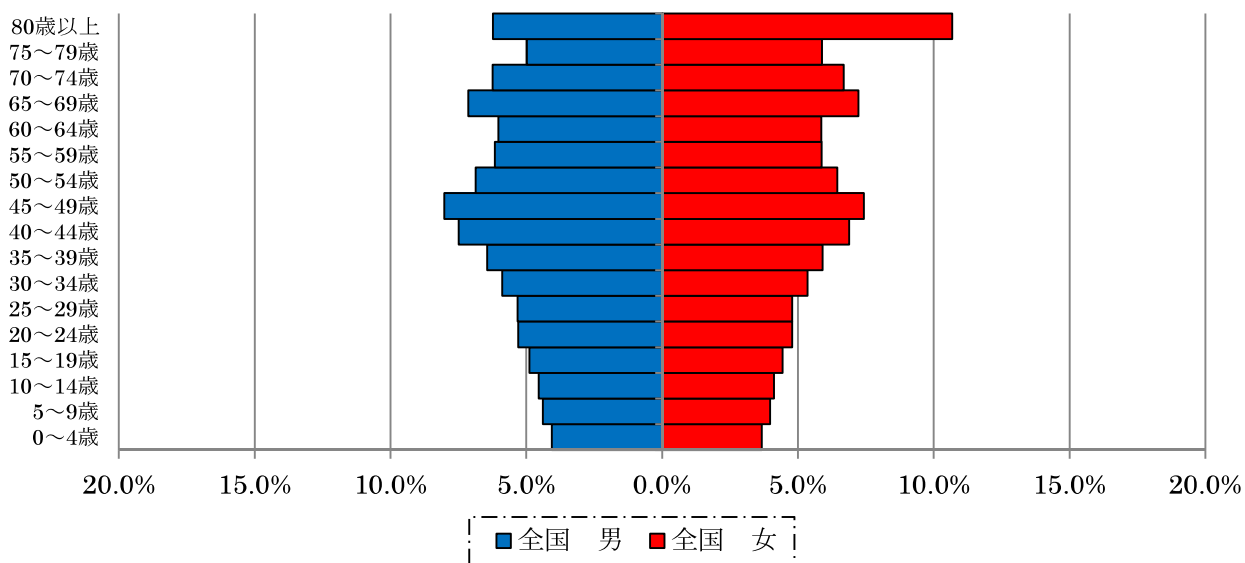
■一関市、岩手県、全国の人口構造の比較（人口に占める各年齢層の構成比）



岩手県



全国



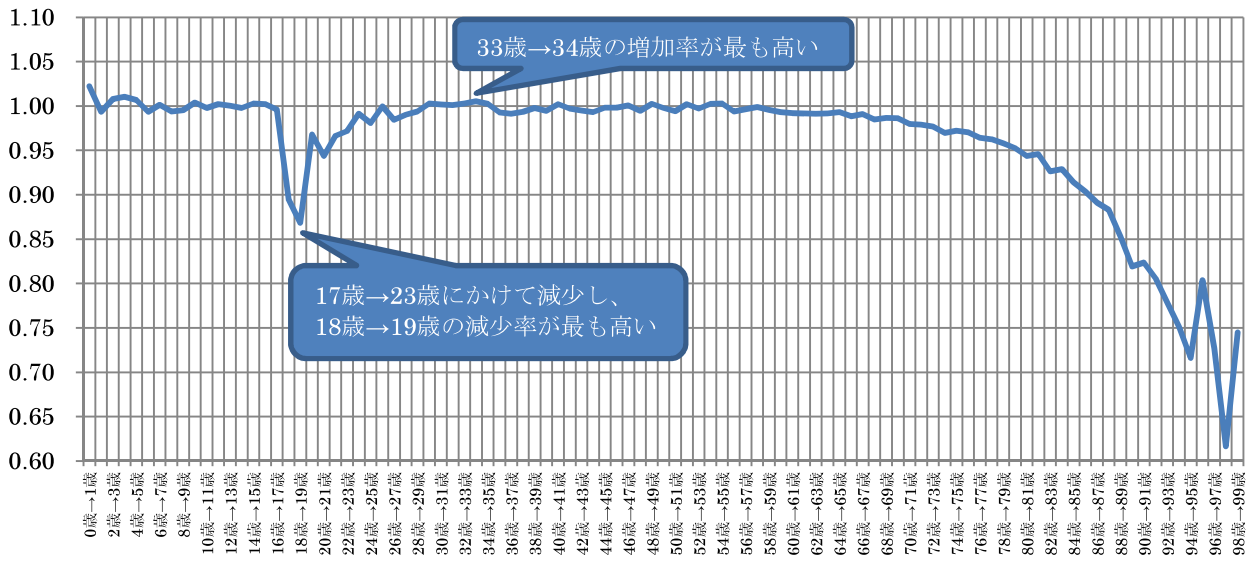
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 (H31) より

子育て世代の割合が低く、高齢者の割合が高い

- 全国や岩手県の人口構造と比較すると、20代から40代までの子育て世代の割合が低くなっています。
- 男女ともに、生産年人口の中では25歳から29歳の人口が最も少なくなっています。
- 高齢者の割合は高く、特に80歳以上の女性の割合は全国に比べて高くなっています。

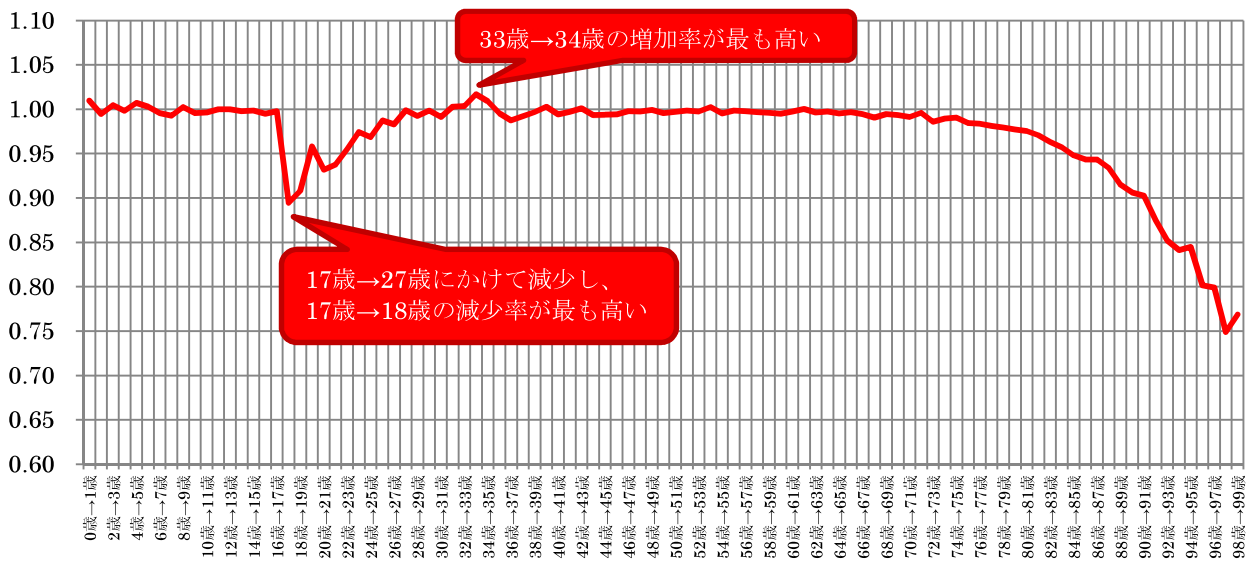
■近年の人口動態（男女別、1歳区分）

人口変化率（男）（H27～R1の平均）



住民基本台帳より

人口変化率（女）（H27～R1の平均）



住民基本台帳より

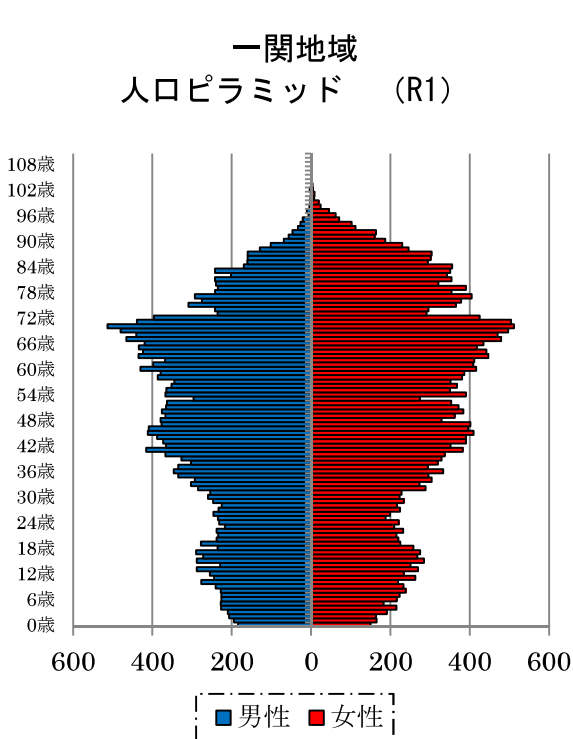
男女ともに 20 歳前後の減少が著しい

- 年齢ごとの変化率をみると、男性は 18 歳から 19 歳、女性は 17 歳から 18 歳の減少率が最も高いなど、20 歳前後で減少がみられ、ほとんどが転出超過によるものと考えられます。

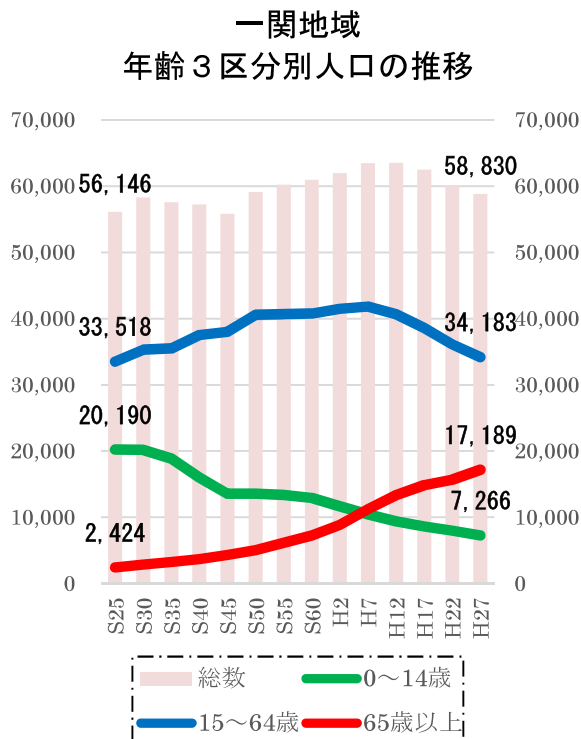
③ 地域別の人口推移、人口構造、人口動態

一関地域

■一関地域の人口構造、人口動態

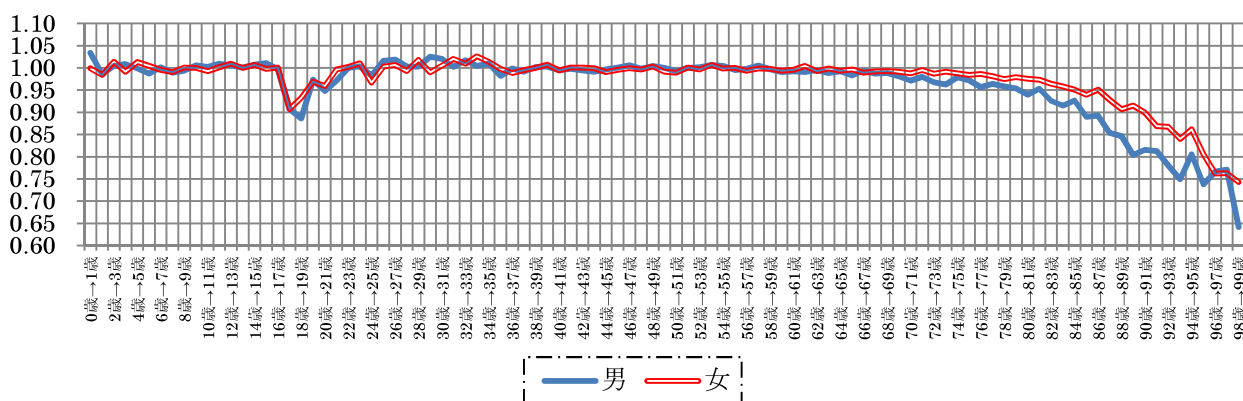


住民基本台帳より



国勢調査より

一関地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



住民基本台帳より

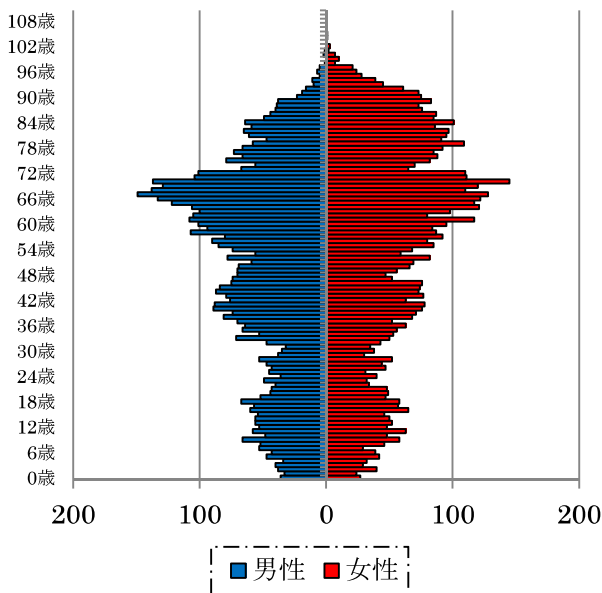
男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向

- 地域別では、一関地域のみ、総人口及び生産年齢人口が平成7年まで増加しています。
- 生産年齢人口のうち、男性は23歳、女性は25歳が最も少なくなっています。
- 年齢ごとの変化率をみると、男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向にあります。

花泉地域

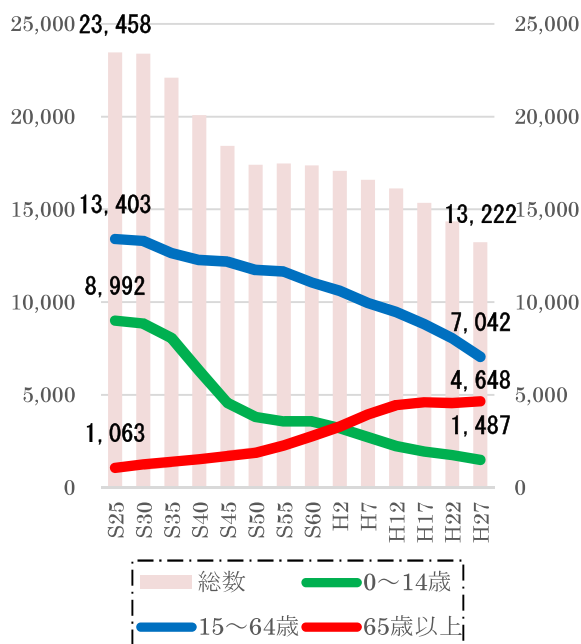
■花泉地域の人口構造、人口動態

花泉地域
人口ピラミッド (R1)



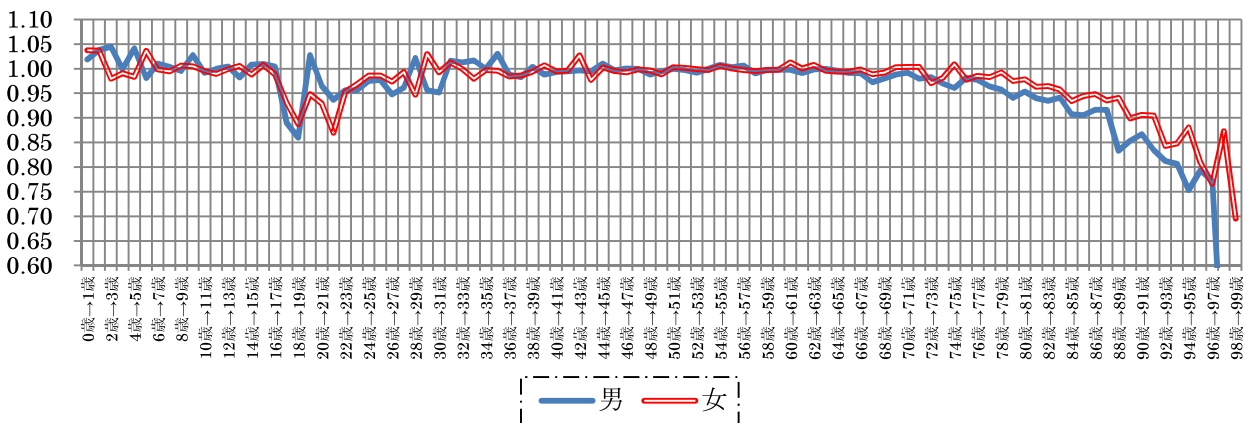
住民基本台帳より

花泉地域
年齢3区分別人口の推移



国勢調査より

花泉地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



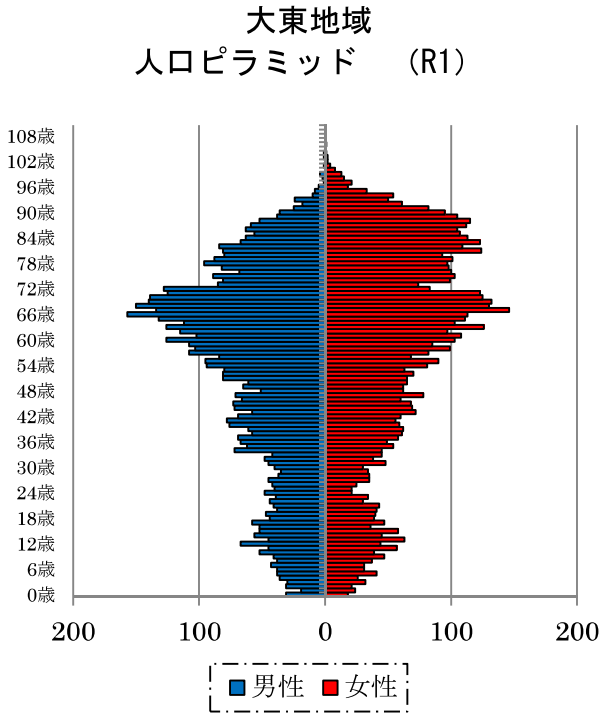
住民基本台帳より

男女ともに10代後半から20代後半で減少傾向

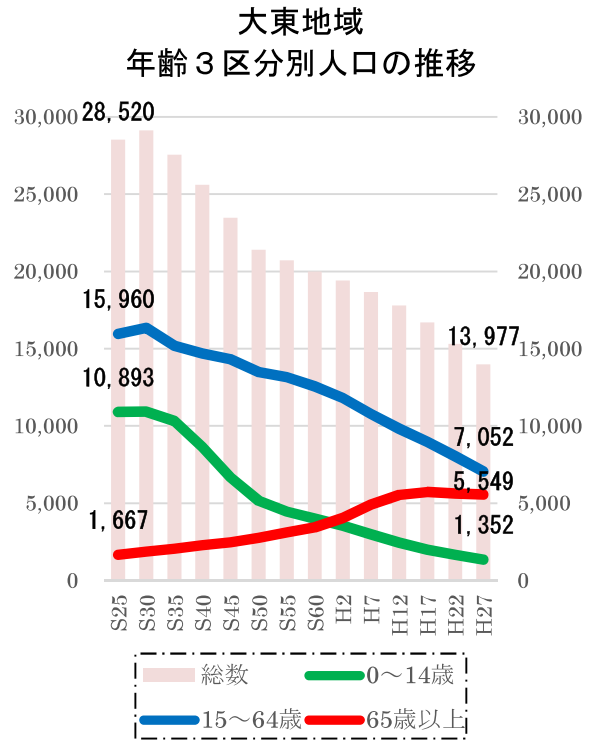
- 生産年齢人口のうち、男性は31歳、女性は29歳が最も少なくなっています。
- 年齢ごとの変化率をみると、男女ともに10代後半から20代後半で減少傾向にあります。

大東地域

■大東地域の人口構造、人口動態

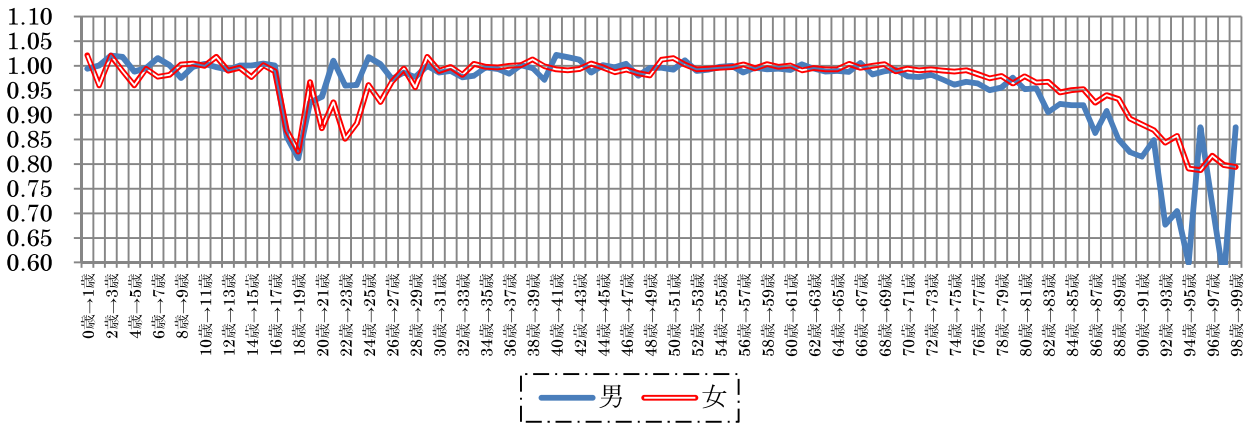


住民基本台帳より



国勢調査より

大東地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



住民基本台帳より

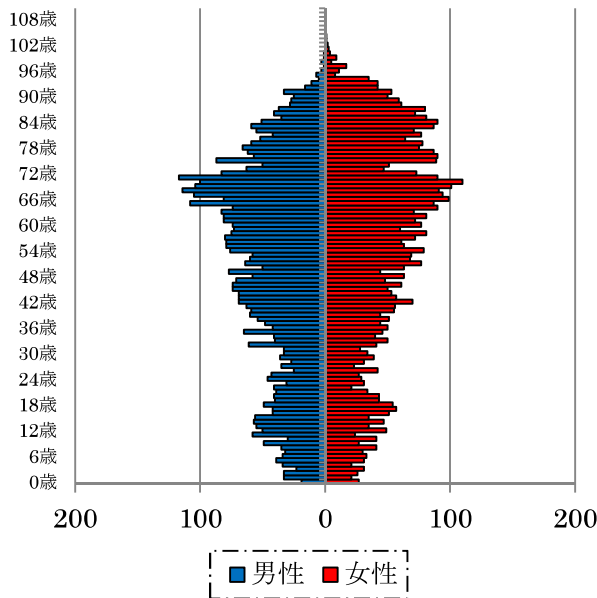
男性は10代後半から20代前半、女性は10代後半から20代後半で減少傾向

- 生産年齢人口のうち、男性は29歳、女性は24歳、25歳が最も少なくなっています。
- 年齢ごとの変化率をみると、男性は10代後半から20代前半、女性は10代後半から20代後半で減少傾向にあります。

千厩地域

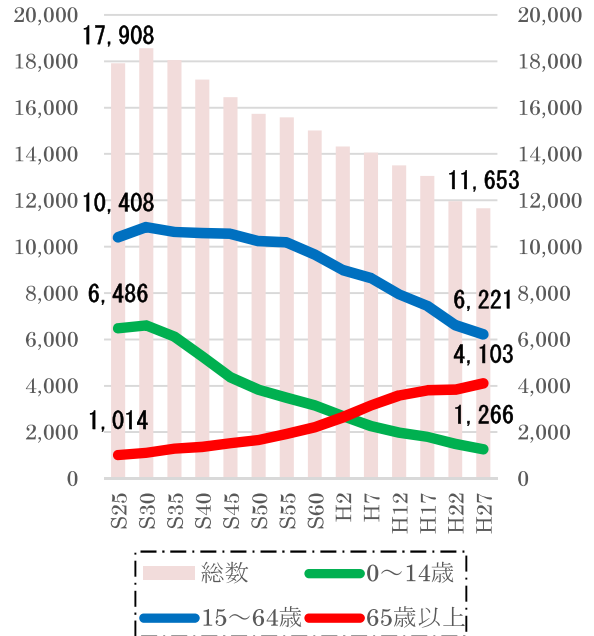
■千厩地域の人口構造、人口動態

千厩地域
人口ピラミッド (R1)



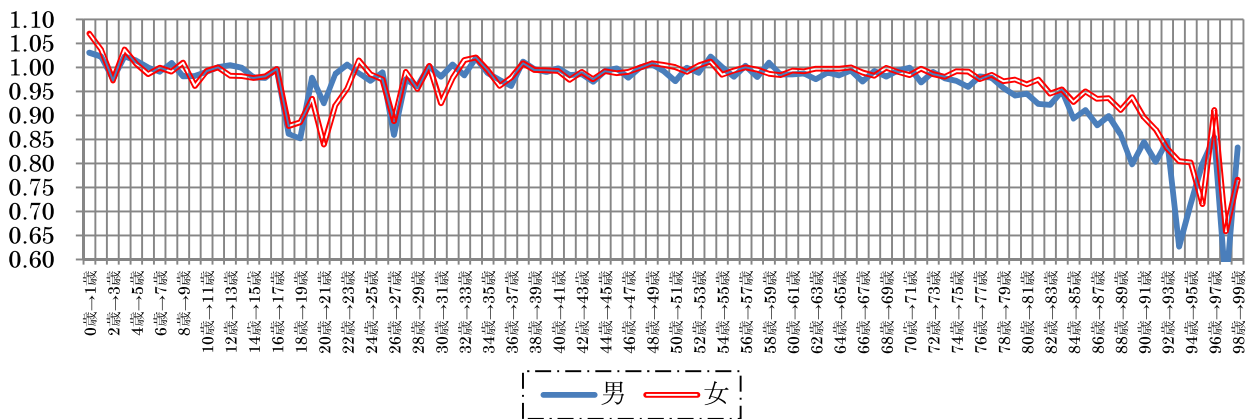
住民基本台帳より

千厩地域
年齢3区分別人口の推移



国勢調査より

千厩地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



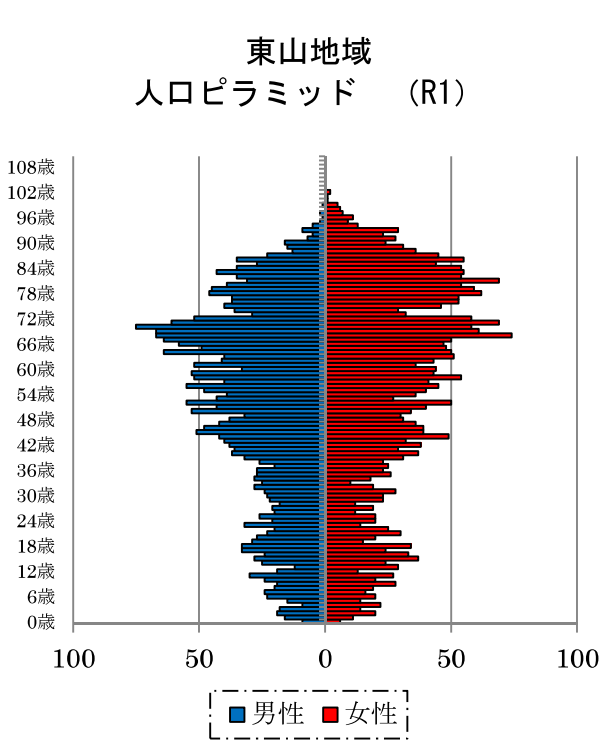
住民基本台帳より

男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向

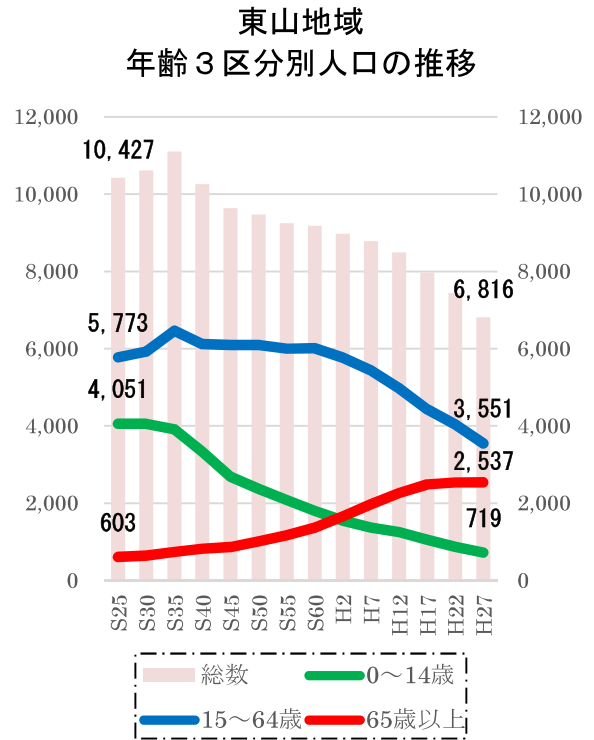
- 生産年齢人口のうち、男性は26歳、女性は22歳が最も少なくなっています。
- 年齢ごとの変化率をみると、男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向にあります。

東山地域

■東山地域の人口構造、人口動態

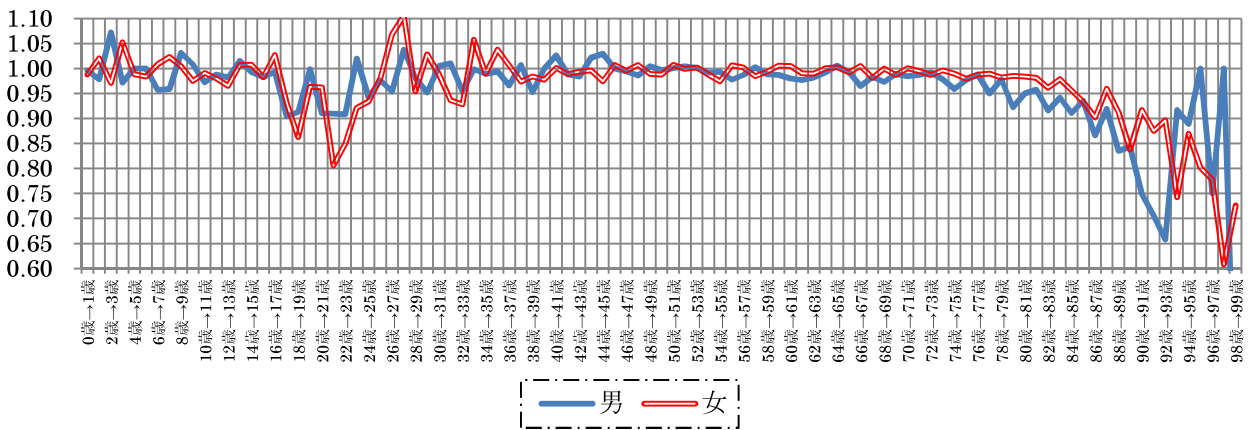


住民基本台帳より



国勢調査より

東山地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



住民基本台帳より

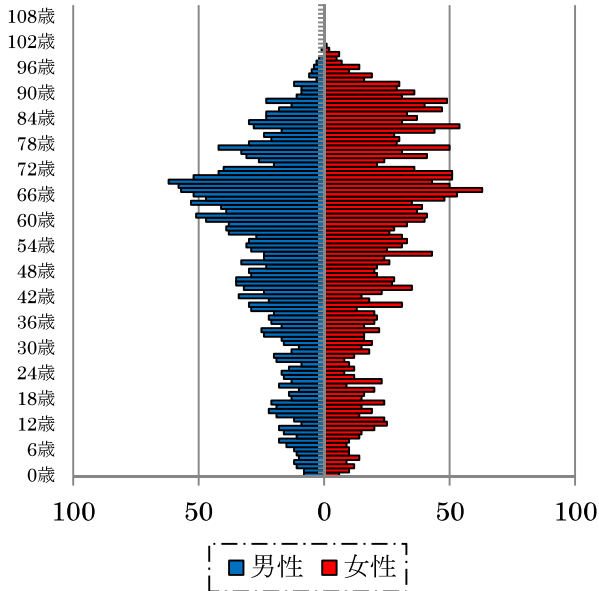
男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向

- 生産年齢人口のうち、男性は28歳、女性は33歳が最も少なくなっています。
- 年齢ごとの変化率をみると、男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向にあります。

室根地域

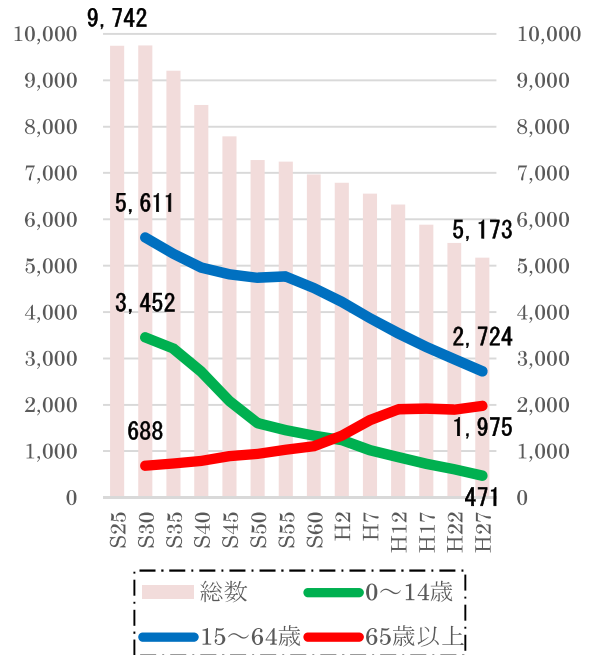
■ 室根地域の人口構造、人口動態

室根地域
人口ピラミッド (R1)



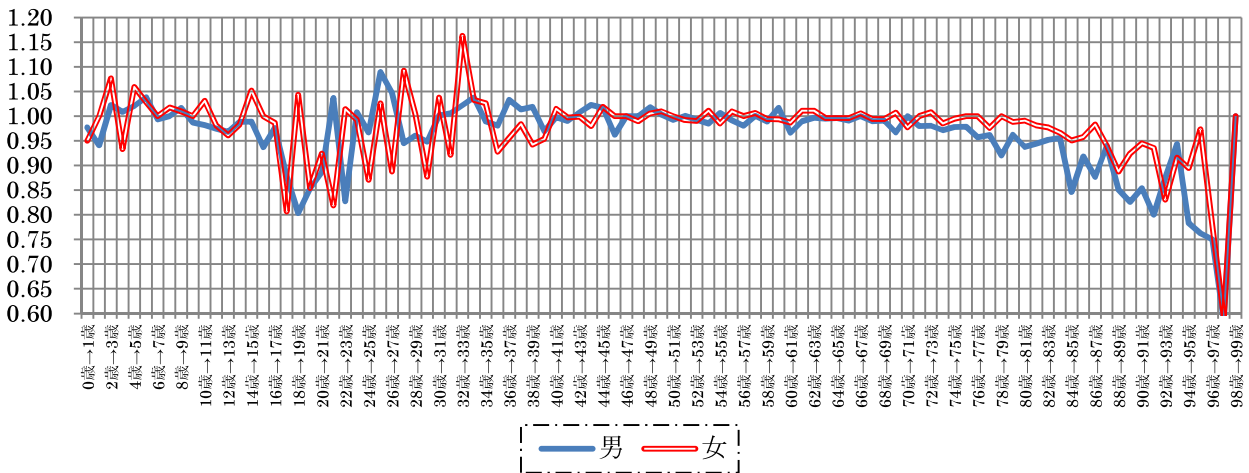
住民基本台帳より

室根地域
年齢3区分別人口の推移



国勢調査より

室根地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



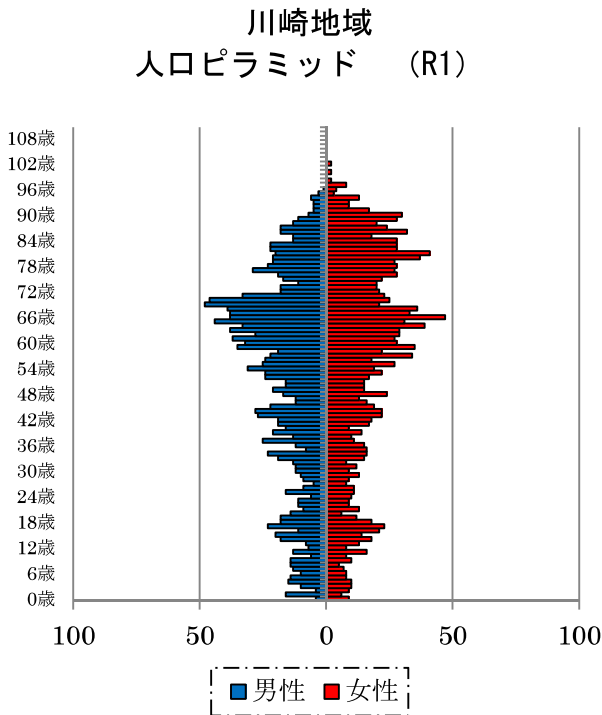
住民基本台帳より

男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向

- 生産年齢人口のうち、男性は26歳、女性は24歳、27歳が最も少なくなっています。
- 年齢ごとの変化率をみると、男女ともに10代後半から20代前半で減少傾向にあります。

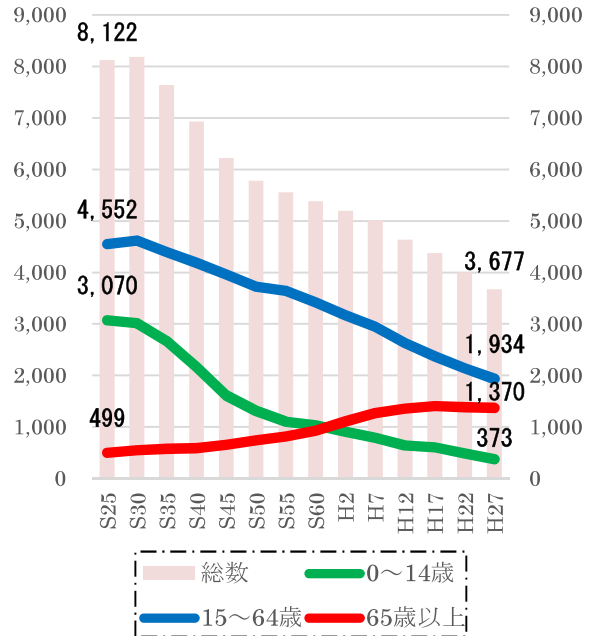
川崎地域

■川崎地域の人口構造、人口動態



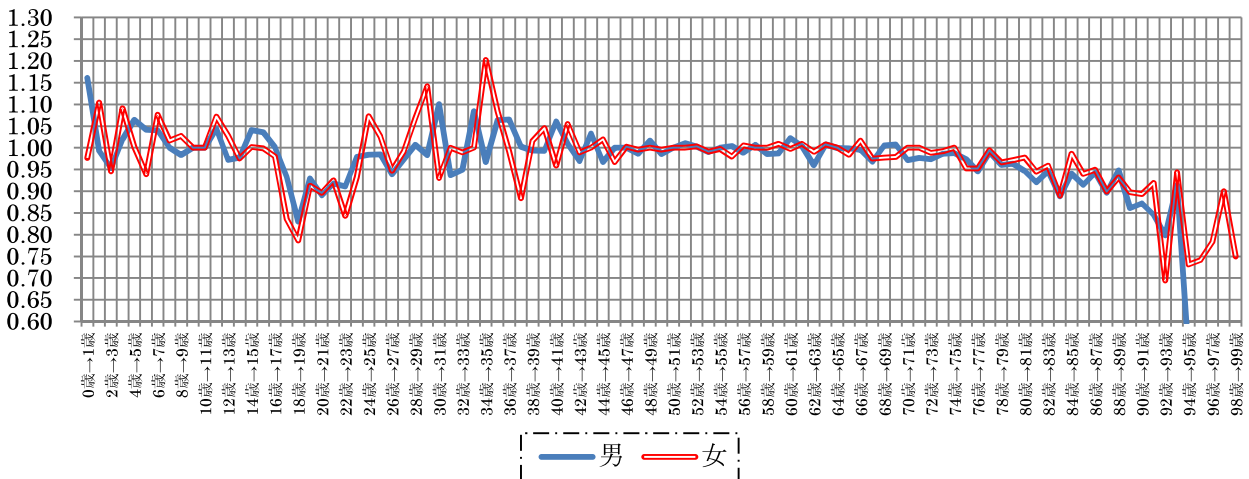
住民基本台帳より

川崎地域 年齢3区分別人口の推移



国勢調査より

川崎地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



住民基本台帳より

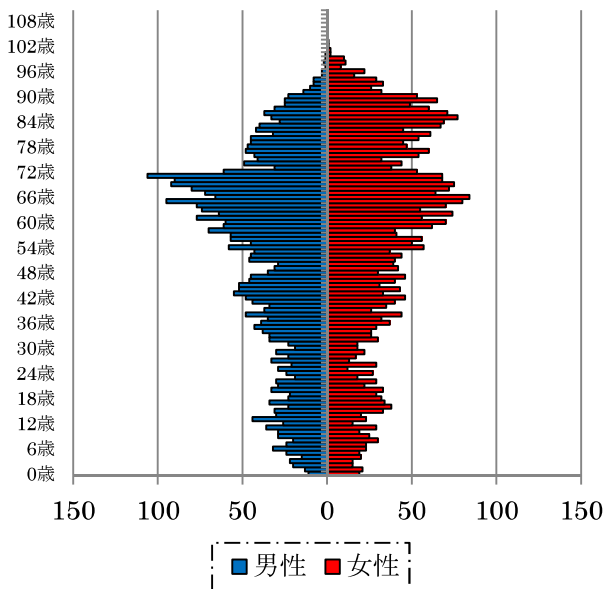
男性は10代後半から20代後半、女性は10代後半から20代前半で減少傾向

- ・生産年齢人口のうち、男性は27歳、女性は20歳が最も少なくなっています。
- ・年齢ごとの変化率をみると、男性は10代後半から20代後半、女性は10代後半から20代前半で減少傾向にあります。

藤沢地域

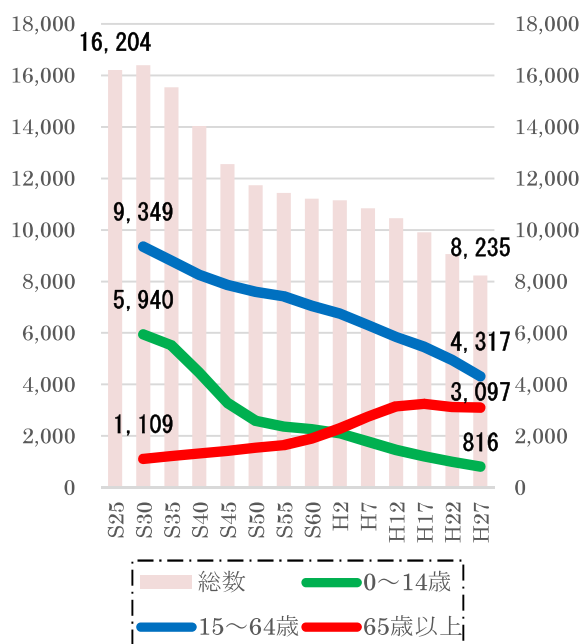
■ 藤沢地域の人口構造、人口動態

藤沢地域
人口ピラミッド (R1)



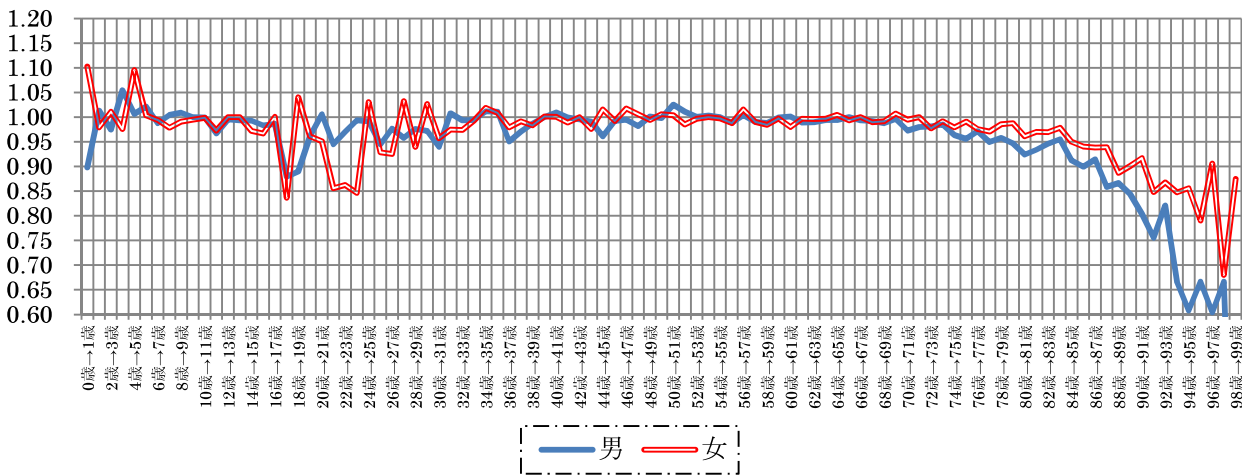
住民基本台帳より

藤沢地域
年齢3区分別人口の推移



国勢調査より

藤沢地域 人口変化率 (H27~R1の平均)



住民基本台帳より

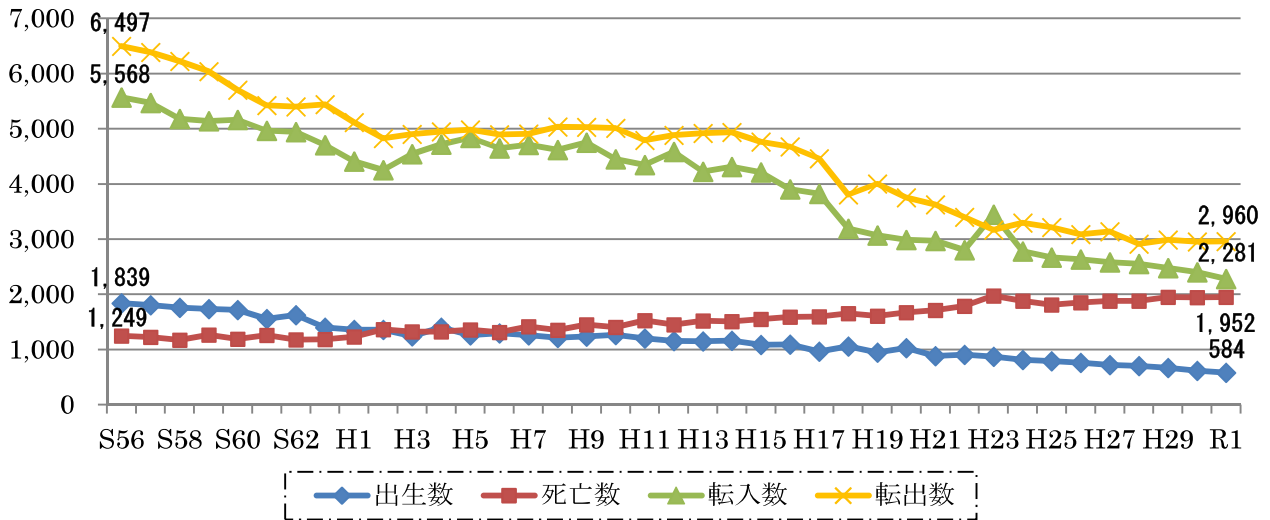
男性は10代後半から20代前半、女性は10代後半から20代後半で減少傾向

- 生産年齢人口のうち、男性は23歳、30歳、女性は25歳が最も少なくなっています。
- 年齢ごとの変化率をみると、男性は10代後半から20代前半、女性は10代後半から20代後半で減少傾向にあります。

④ 自然増減と社会増減

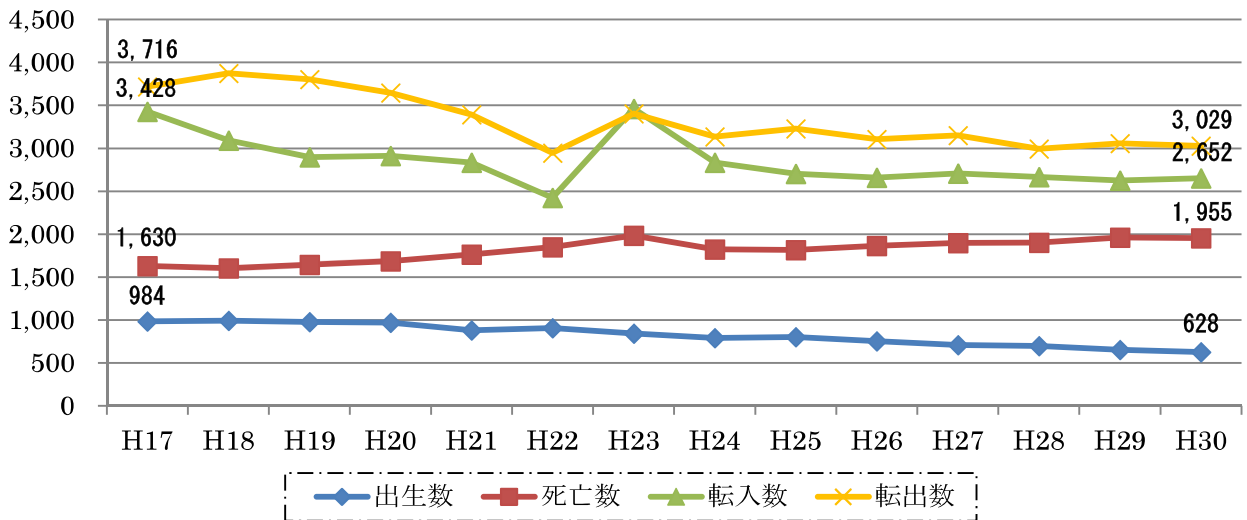
■自然増減と社会増減の推移

自然増減と社会増減の推移（長期）



岩手県人口移動報告年報より

自然増減と社会増減の推移（短期）



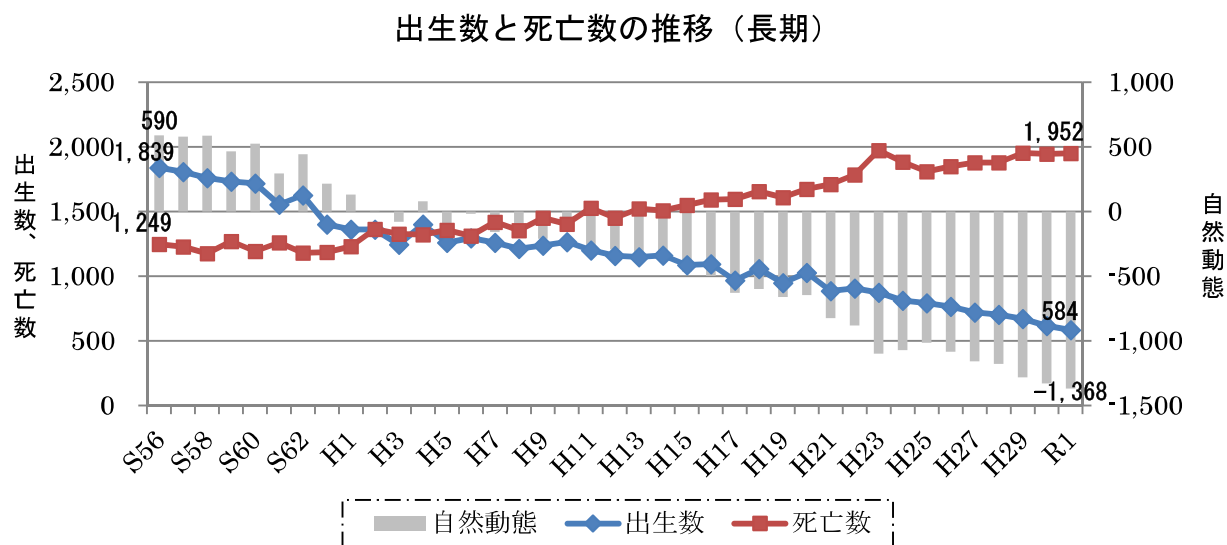
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より

自然減と社会減が続く

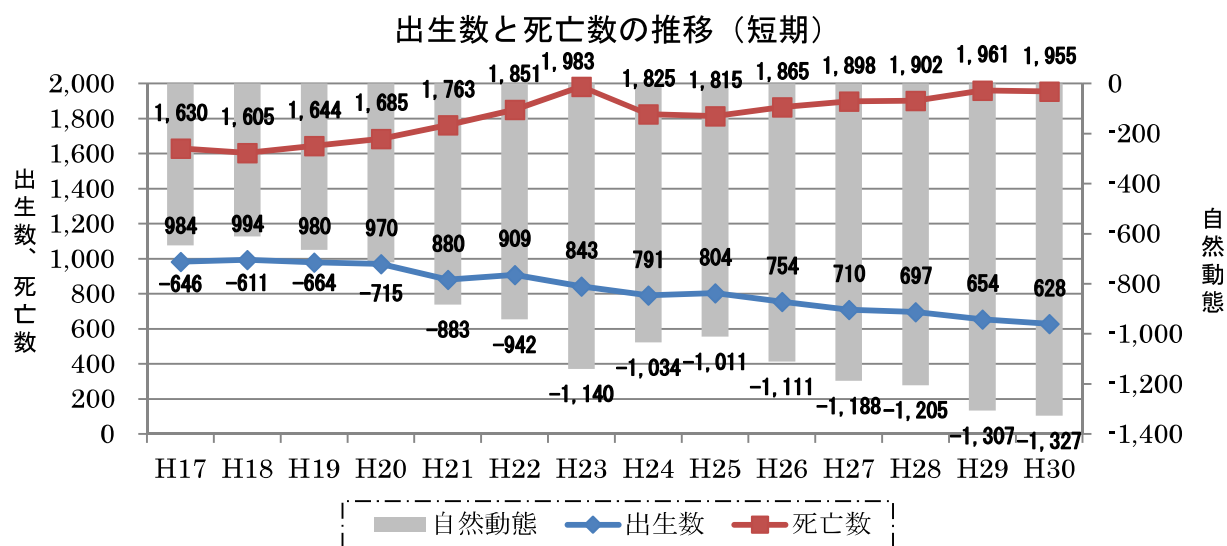
- 死亡数が出生数を上回る自然減と、転出数が転入数を上回る社会減が続いています。
- 近年の人口減少は、社会減に比べ、自然減の影響が大きくなっています。

⑤ 自然増減

■ 出生数と死亡数の推移



岩手県人口移動報告年報より



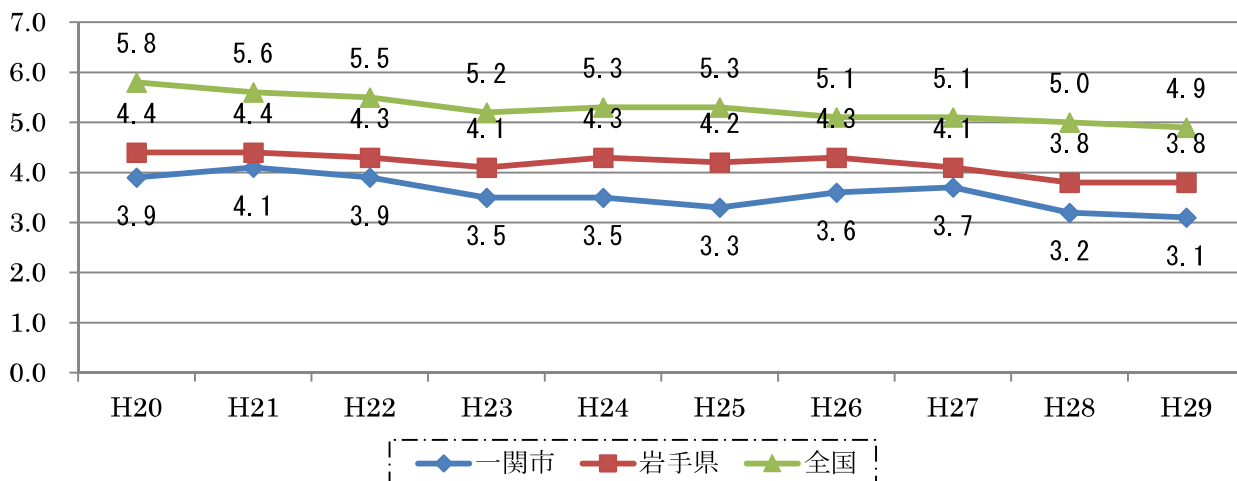
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より

死亡数が出生数を上回る自然減が続く

- 出生数は減少傾向にあり、令和元年（2019年）の出生数は昭和56年（1981年）の3割程度となっています。
- 死亡数は増加傾向にありましたが、平成23年（2011年）をピークとして、以降は横ばいとなっています。

■ 婚姻率

婚姻率(人口千対)の推移の比較



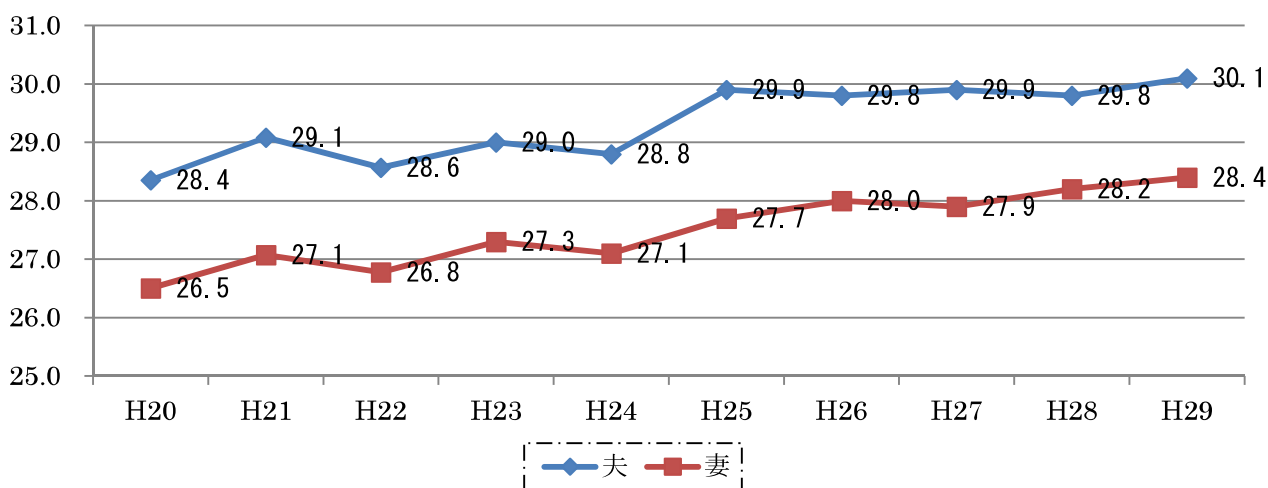
岩手県保健福祉年報より

婚姻率は全国や県を下回る

- 婚姻率は、全国や岩手県と比較して低い水準で推移しています。

■ 婚姻の平均年齢

婚姻の平均年齢（夫婦とも初婚）



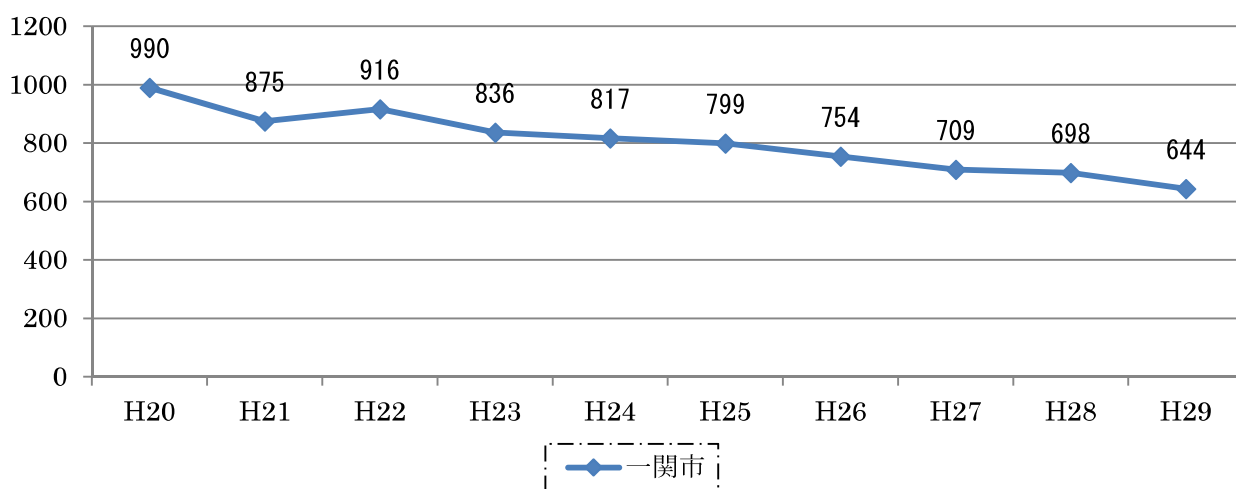
岩手県保健福祉年報より

婚姻の平均年齢は上昇傾向

- 婚姻の平均年齢（夫婦とも初婚）は夫、妻ともに上昇傾向で推移しています。

■ 出生数

出生数の推移

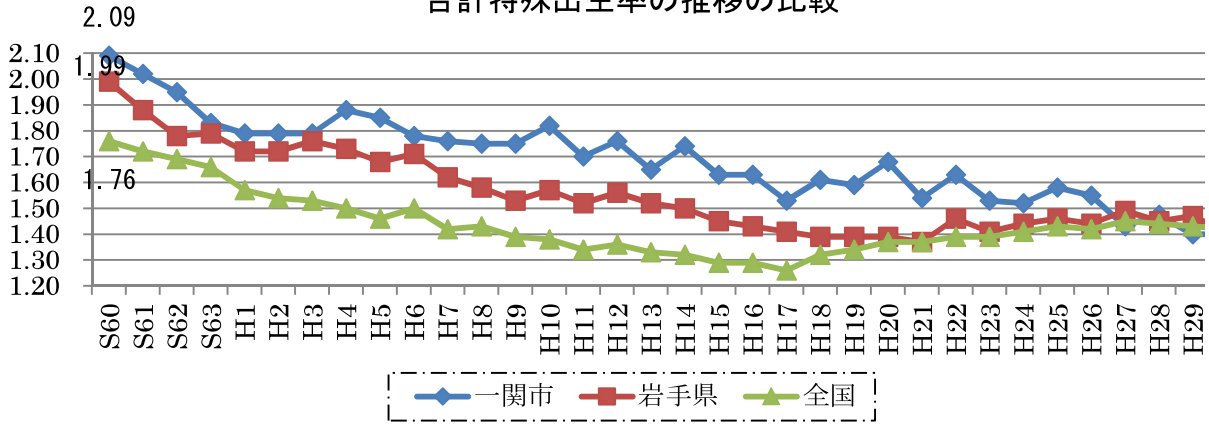


岩手県保健福祉年報より

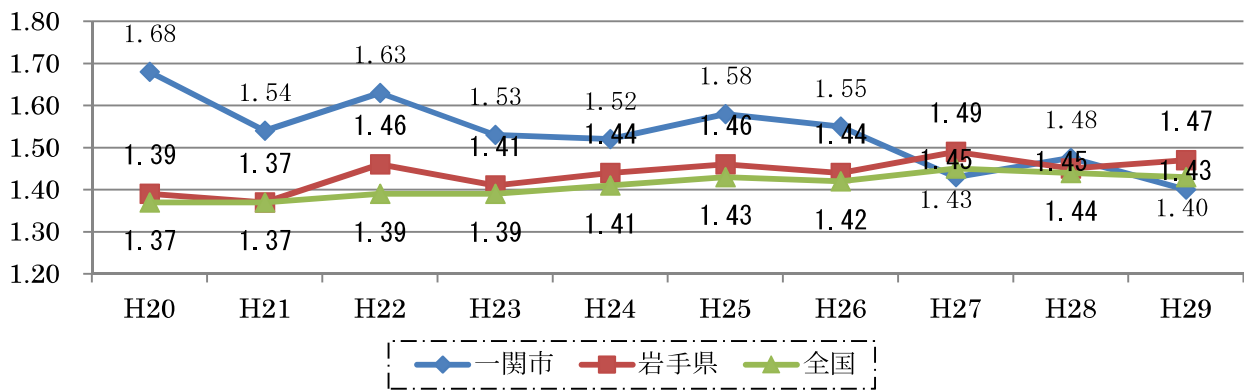
出生数は減少傾向で推移

- 出生数は減少傾向で推移しており、平成 29 年（2017 年）の出生数は平成 20 年（2008 年）の 2/3 程度となっています。

合計特殊出生率の推移の比較

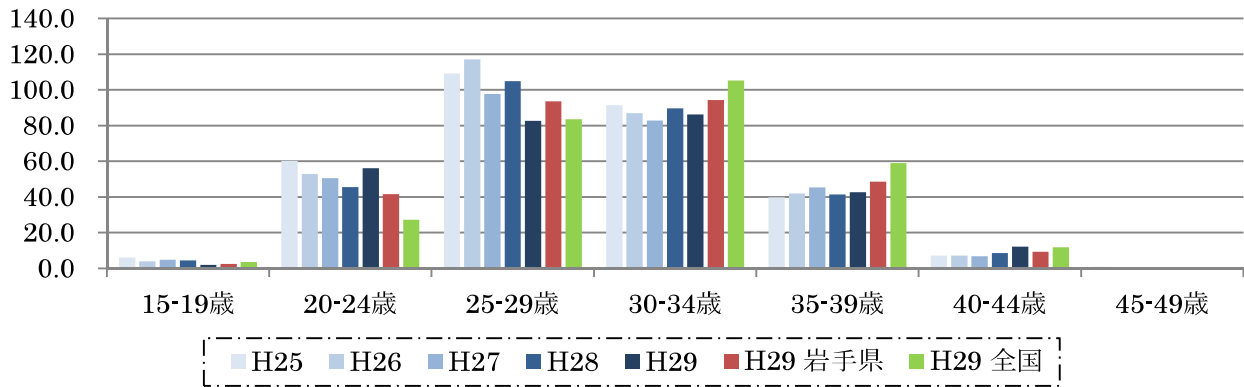


合計特殊出生率の推移の比較（短期）



人口動態統計より

年代別女性千人当たりの出生率の推移

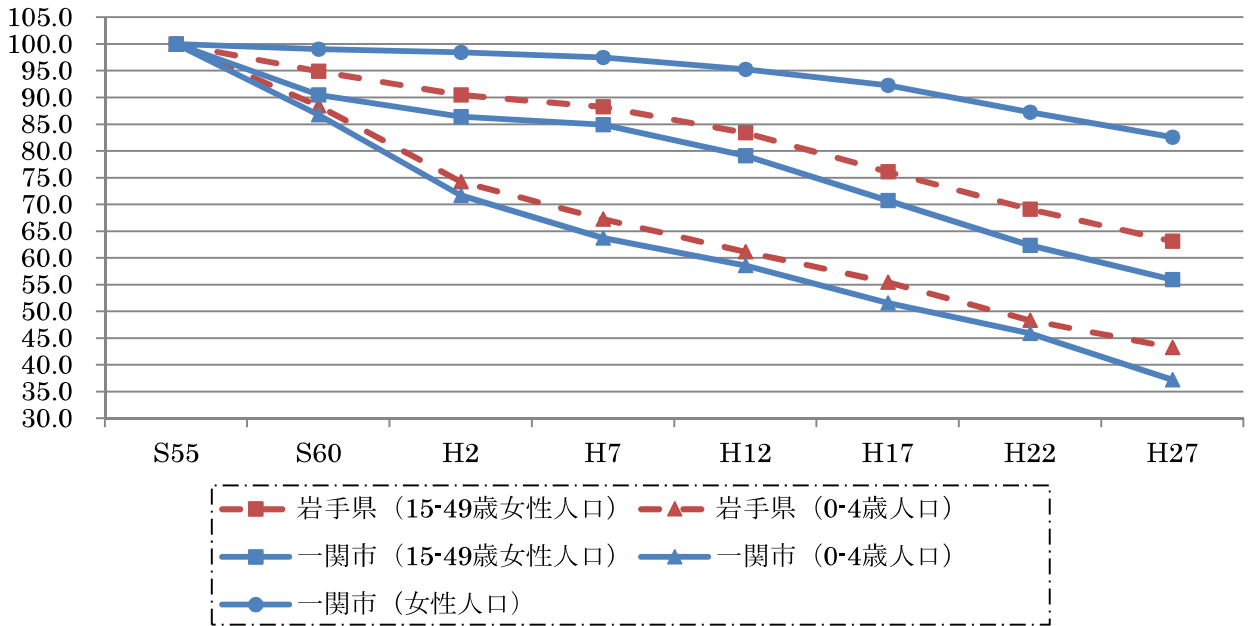


岩手県保健福祉年報（全国値は人口動態統計）より

合計特殊出生率は全国や岩手県と同水準、出生率は下回る年代もあり

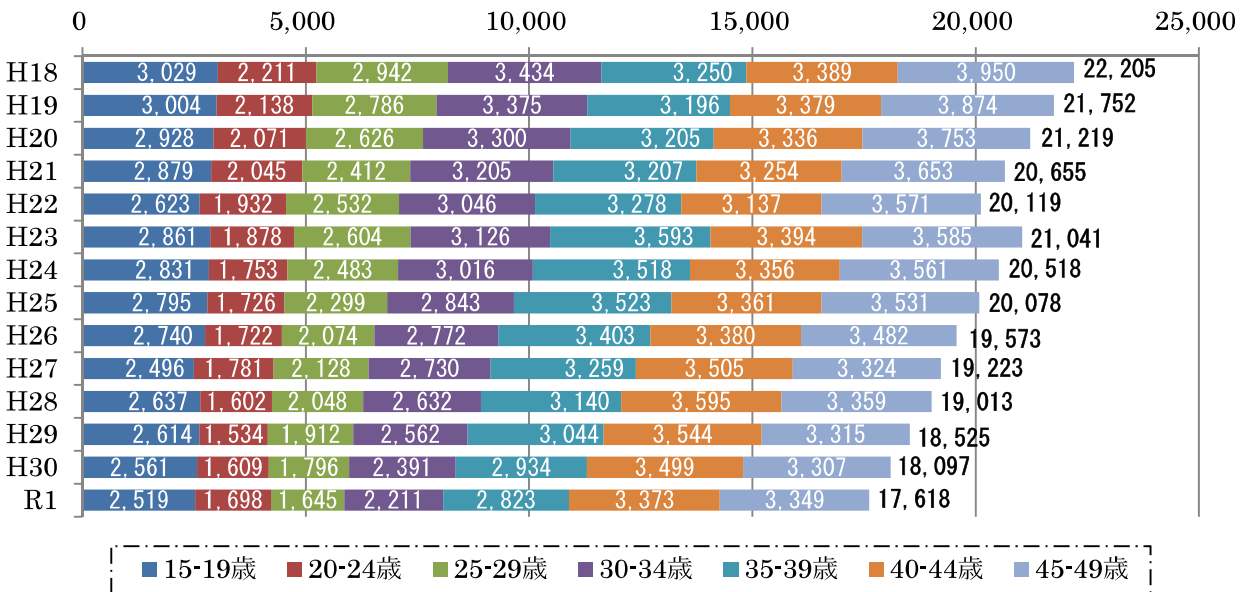
- 合計特殊出生率は、かつては全国や岩手県と比較して高い水準を保っていましたが、近年では同水準となっています。
- 年代別の出生率をみると、30歳～34歳の出生率が最も高くなっていますが、25歳～29歳、30歳～34歳、35歳～39歳の出生率は全国や岩手県を下回っています。

15～49歳女性人口、0～4歳人口の推移（S55を100とする）



国勢調査より

15～49歳女性人口の推移



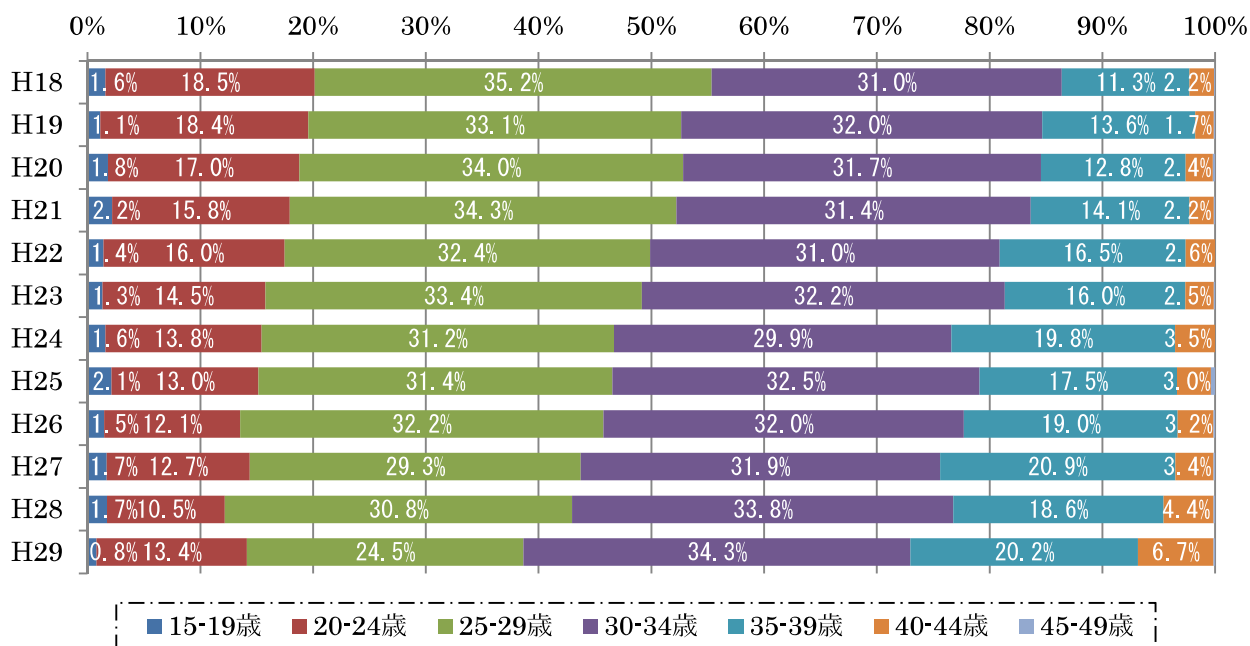
岩手県人口移動報告年報より

15歳～49歳の女性人口は減少傾向

- 15歳～49歳の女性人口は減少傾向にあり、特に25歳～29歳、30歳～34歳で著しく減少しています。

■ 母の年齢

出産時の母の年齢（5歳階級）の割合の推移



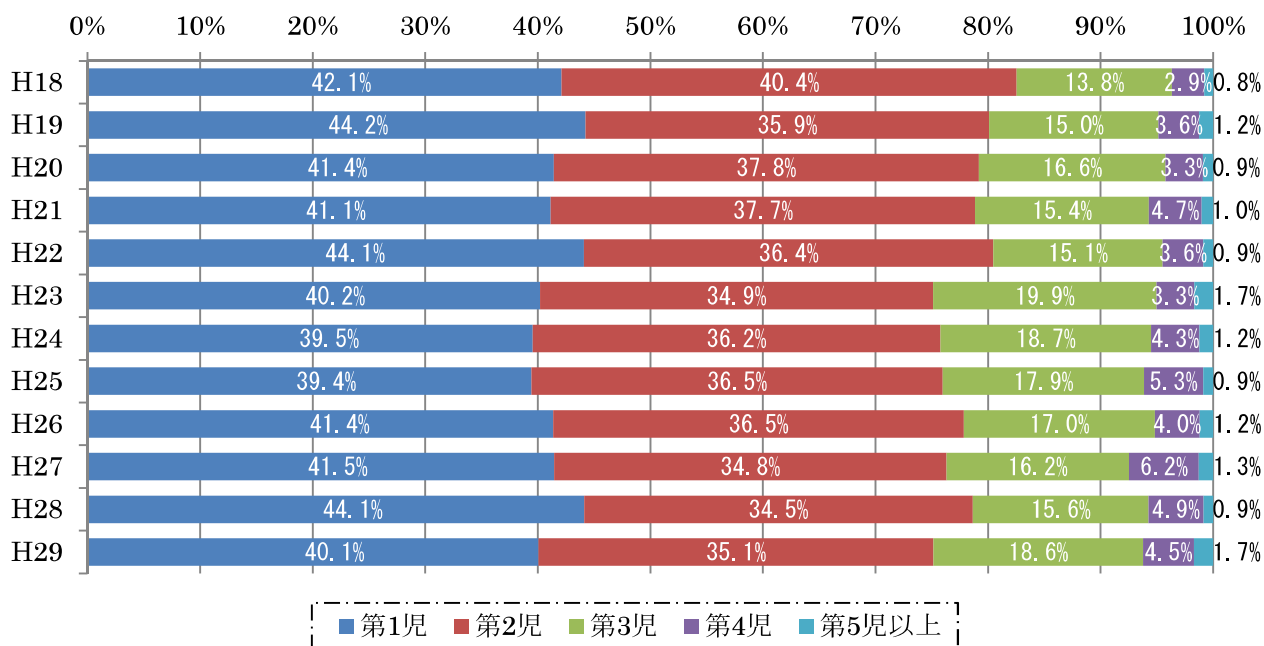
岩手県保健福祉年報より

出産時の母の年齢は上昇傾向

- 出産時の母の年齢の割合の推移をみると、20歳～24歳、25歳～29歳が減少傾向、35歳～39歳、40歳～44歳が増加傾向にあり、出産年齢の高齢化が進んでいます。

■ 出産順位

出産順位の割合の推移



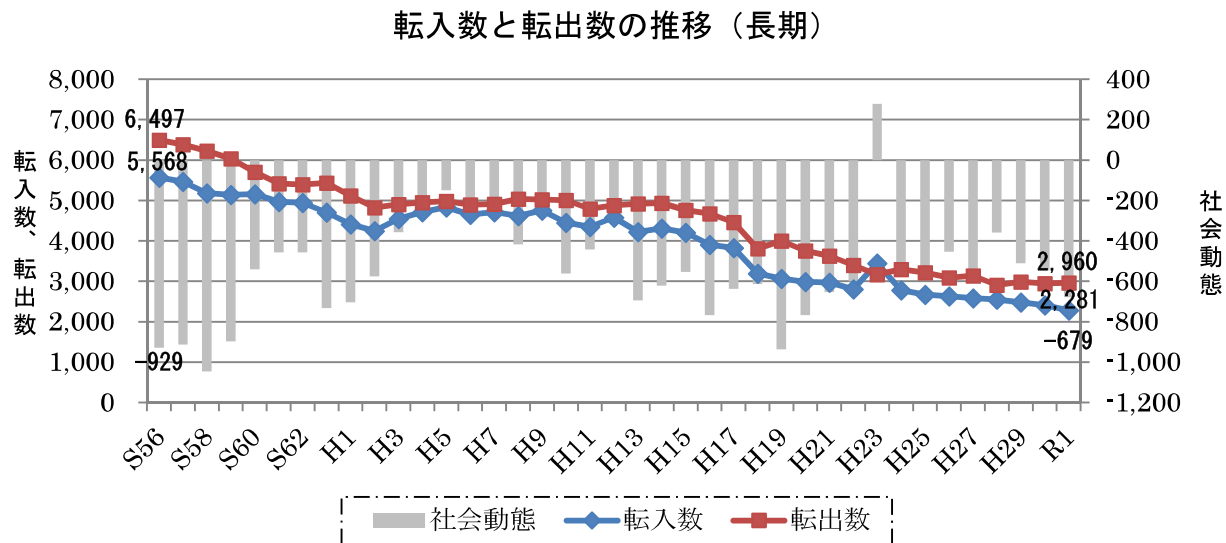
岩手県保健福祉年報より

出産順位の推移に大きな変化なし

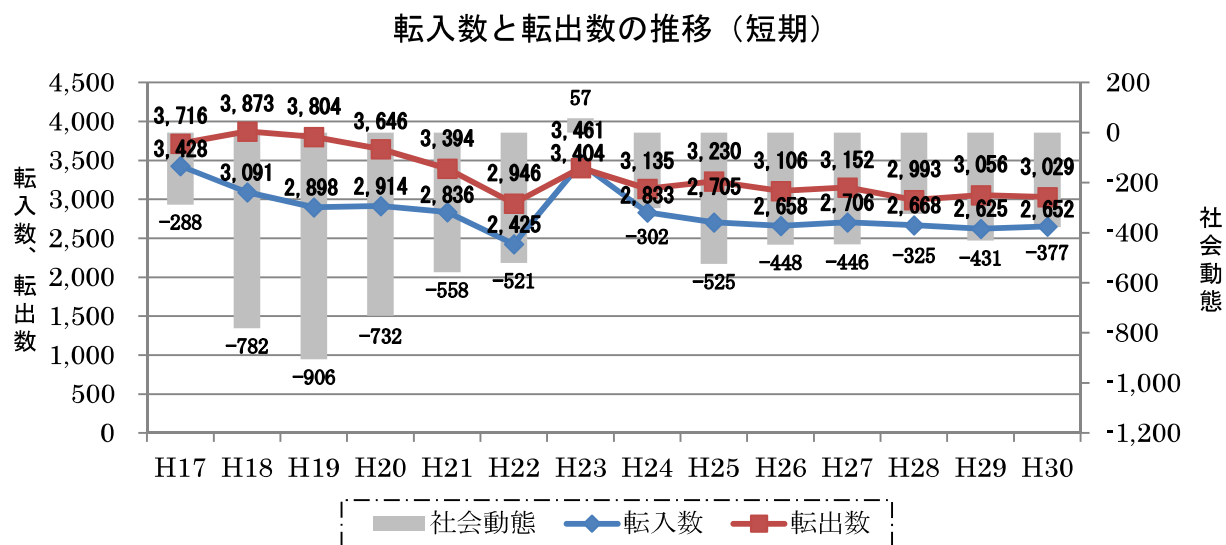
- 出産順位の割合の推移では、大きな変化はみられませんでした。

⑥ 社会増減

■ 転入数、転出数の推移



岩手県人口移動報告年報より



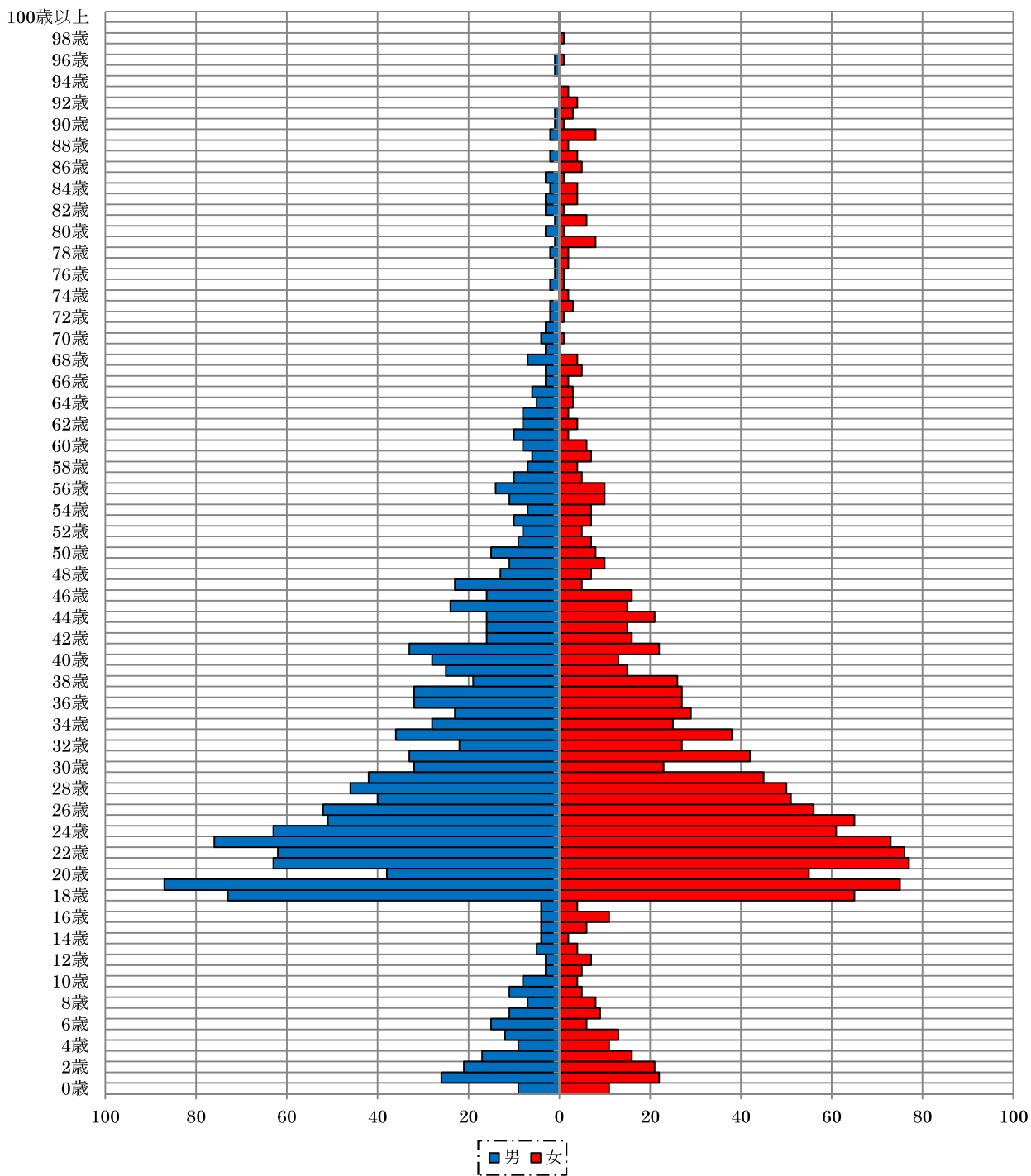
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より

著しい転出超過傾向が続く

- 昭和56年（1981年）以降では、転入、転出とも減少傾向にあり、平成23年（2011年）を除く全ての年で転出超過となっています。
- 平成19年（2007年）以降、転出超過数は若干減少して推移しています。

■ 転入者、転出者の年齢構造

転出者の年齢構造 (H30)

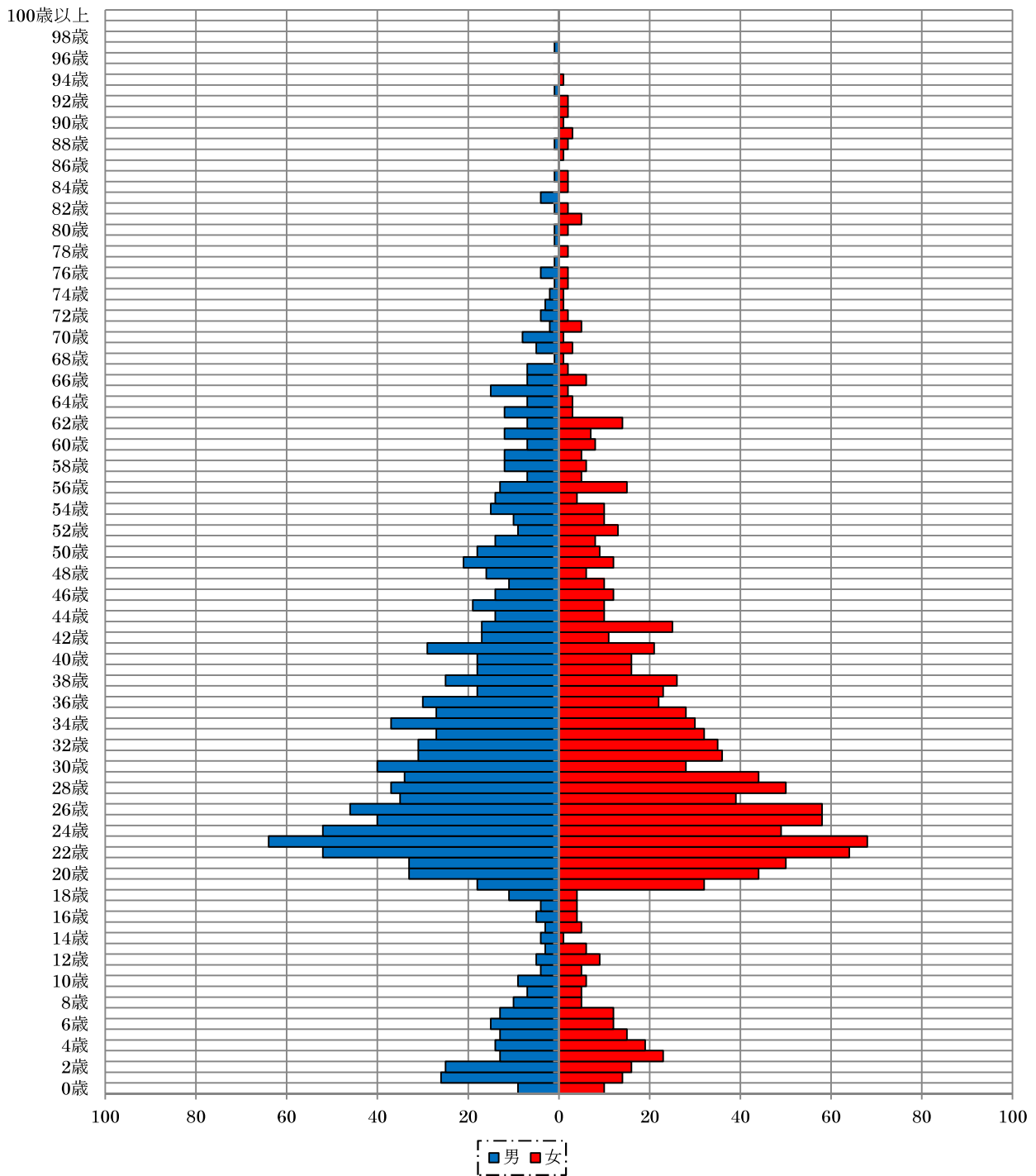


住民基本台帳より

男女ともに 10 代後半から 20 代後半での転出が著しい

- 男性は 19 歳、女性は 21 歳で最も転出が多くなっています。
- 男女ともに 10 代後半から 20 代後半での転出が多くなっています。

転入者の年齢構造 (H30)



住民基本台帳より

男女ともに10代後半から20代後半での転入が多い

- 男女ともに23歳で最も転入が多くなっています。
- 男女ともに20代前半から30代前半での転入が多くなっています。

■転入、転出の状況（H30：都道府県別）

	転入前都道府県	転出先都道府県	差
総計(全都道府県)	2,457	2,929	▲ 472
うち岩手県	962	1,011	▲ 49
うち宮城県	546	693	▲ 147
うち東京圏	432	614	▲ 182
東京都	181	258	▲ 77
埼玉県	82	145	▲ 63
千葉県	74	62	12
神奈川県	95	149	▲ 54

(うち男)

	転入前	転出先	差
総計(全都道府県)	1,271	1,491	▲ 220
うち岩手県	461	551	▲ 90
うち宮城県	270	329	▲ 59
うち東京圏	243	301	▲ 58
東京都	95	114	▲ 19
埼玉県	48	74	▲ 26
千葉県	42	28	14
神奈川県	58	85	▲ 27

(うち女)

	転入前	転出先	差
総計(全都道府県)	1,186	1,438	▲ 252
うち岩手県	501	460	41
うち宮城県	276	364	▲ 88
うち東京圏	189	313	▲ 124
東京都	86	144	▲ 58
埼玉県	34	71	▲ 37
千葉県	32	34	▲ 2
神奈川県	37	64	▲ 27

住民基本台帳人口移動報告より

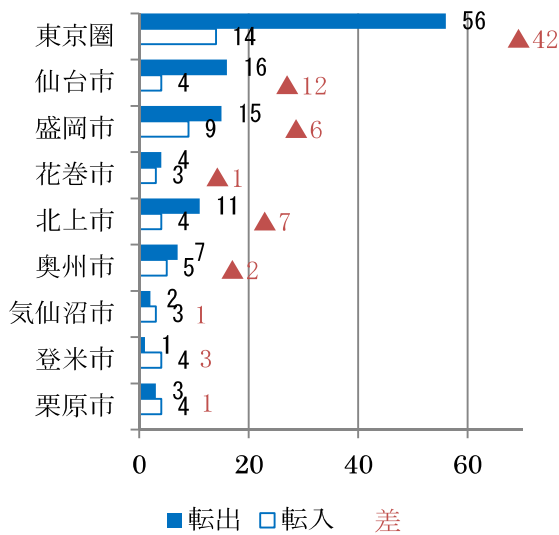
宮城県、東京圏への転出超過が多い

- 都道府県別にみると、県内での転出入が多く、県外では宮城県や東京圏との間の転出入が多くなっています。また、男女別にみると、宮城県や東京圏への女性の転出超過が多くなっています。

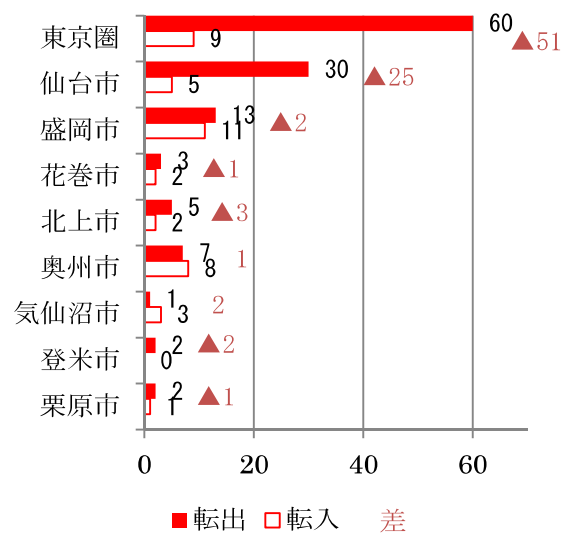
■転入、転出の状況（H30：市区町村別）

	転入前市町村	転出先市町村	差
東京圏	432	614	▲ 182
仙台市	217	352	▲ 135
盛岡市	251	301	▲ 50
花巻市	55	63	▲ 8
北上市	66	93	▲ 27
奥州市	200	190	10
気仙沼市	90	57	33
登米市	36	44	▲ 8
栗原市	70	68	2

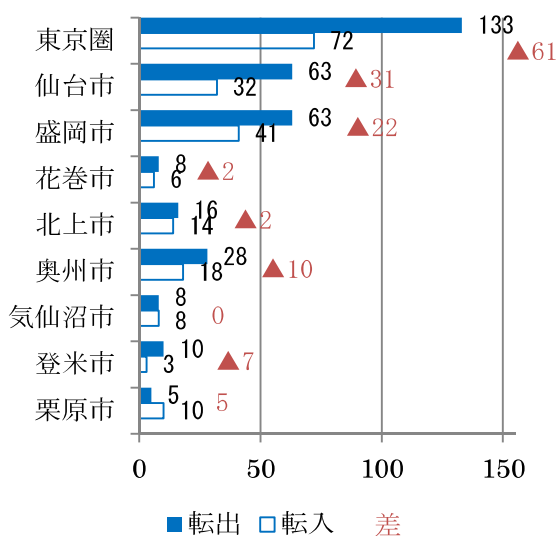
（うち 10 代男）



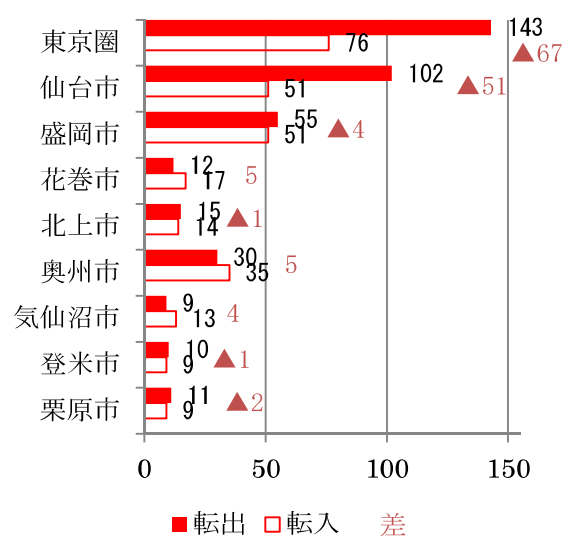
（うち 10 代女）



（うち 20 代男）

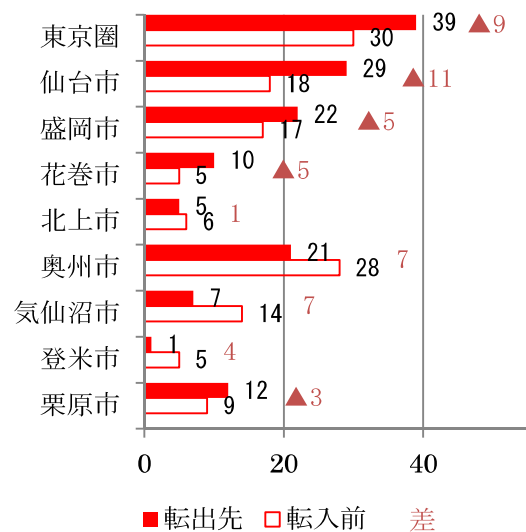
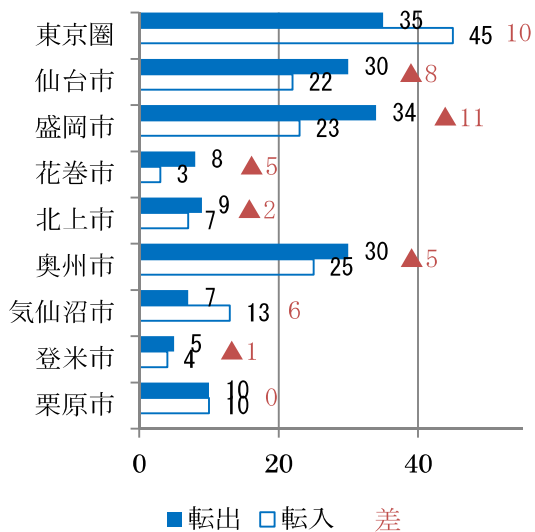


（うち 20 代女）



（うち 30 代男）

（うち 30 代女）



住民基本台帳人口移動報告より

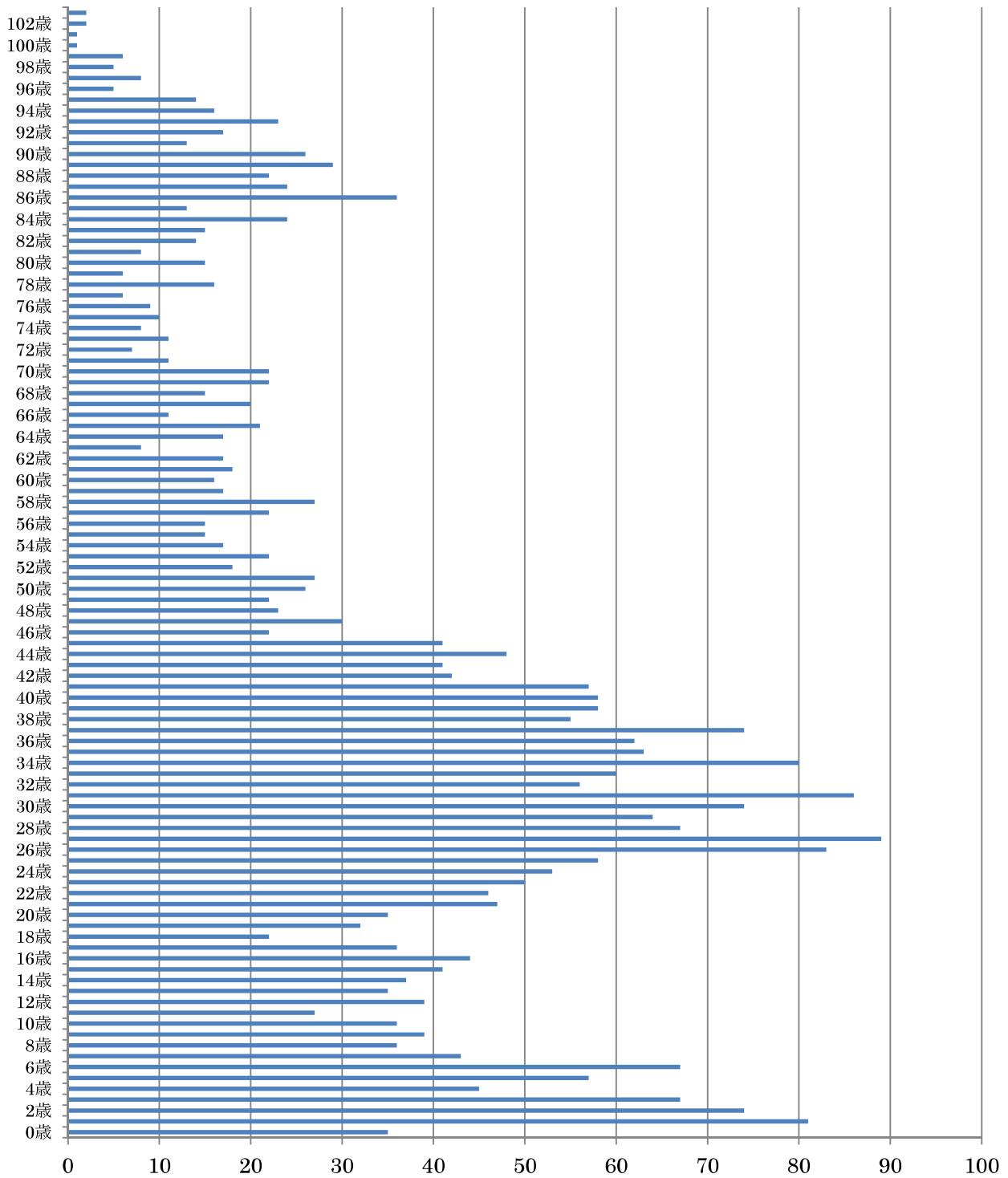
仙台市、東京圏への転出超過が多い

- 市区町村別では、仙台市や東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 of 各市町村の合計）への転出入が多く、県内では盛岡市や奥州市への転出入が多くなっています。
- 10代、20代では仙台市や東京圏への転出が多く、30代では仙台市、盛岡市、花巻市への転出が多く、気仙沼市からの転入が多くなっています。
- 男女ともに仙台市や東京圏への転出が多くなっていますが、仙台市への転出は女性の方が多くなっています。

■市内転居の状況（H30）

転居前／転居先	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢	計
一関地域	1,757	67	25	31	34	3	25	12	1,954
花泉地域	78	242	0	0	2	1	0	8	331
大東地域	49	3	153	16	26	1	3	2	253
千厩地域	88	4	16	198	3	10	15	7	341
東山地域	57	2	3	4	74	4	4	7	155
室根地域	24	1	4	26	0	48	0	1	104
川崎地域	28	1	1	7	1	1	20	1	60
藤沢地域	32	3	3	14	2	1	6	94	155
計	2,113	323	205	296	142	69	73	132	3,353

市内転居者の年齢構造 (H30)



住民基本台帳より

同一地域内、一関地域への転居が多く、子ども、子育て世代が多い

- ・市内転居では、同一地域内、一関地域への転居が多くなっています。
- ・年齢別にみると、6歳未満の子どもと、20代前半から40代前半の子育て世代が多くなっています。

■人口の流入・流出状況（通勤・通学）

流出人口	総数	県内他市町村に通勤	県外に通勤	県内他市町村に通学	県外に通学
総数	7,879	3,881	3,262	300	436
男	5,372	2,769	2,261	157	185
女	2,507	1,112	1,001	143	251

流入人口	総数	県内他市町村から通勤	県外から通勤	県内他市町村から通学	県外から通学
総数	7,697	4,131	2,334	981	251
男	4,940	2,588	1,630	568	154
女	2,757	1,543	704	413	97

	常住地による人口(夜間人口)	従業地・通学地による人口(昼間人口)
総数	121,583	121,401
男	58,804	58,372
女	62,779	63,029

(昼夜間人口比率:99.9%)

	流出人口			流入人口		
	総数	通勤	通学	総数	通勤	通学
総数	7,879	7,143	736	7,697	6,465	1,232
県内	4,181	3,881	300	5,112	4,131	981
うち盛岡市	393	276	117	322	269	53
うち花巻市	112	80	32	198	133	65
うち北上市	327	288	39	312	185	127
うち陸前高田市	119	116	3	66	60	6
うち奥州市	1,888	1,815	73	2,227	1,808	419
うち金ケ崎町	165	165	0	122	81	41
うち平泉町	964	961	3	1,605	1,429	176
県外	3,698	3,262	436	2,585	2,334	251
うち宮城県	3,381	3,027	354	2,416	2,172	244
うち仙台市	522	300	222	160	148	12
うち気仙沼市	1,088	1,052	36	435	408	27
うち登米市	493	477	16	446	397	49
うち栗原市	958	910	48	1,197	1,075	122
うち大崎市	93	83	10	72	52	20

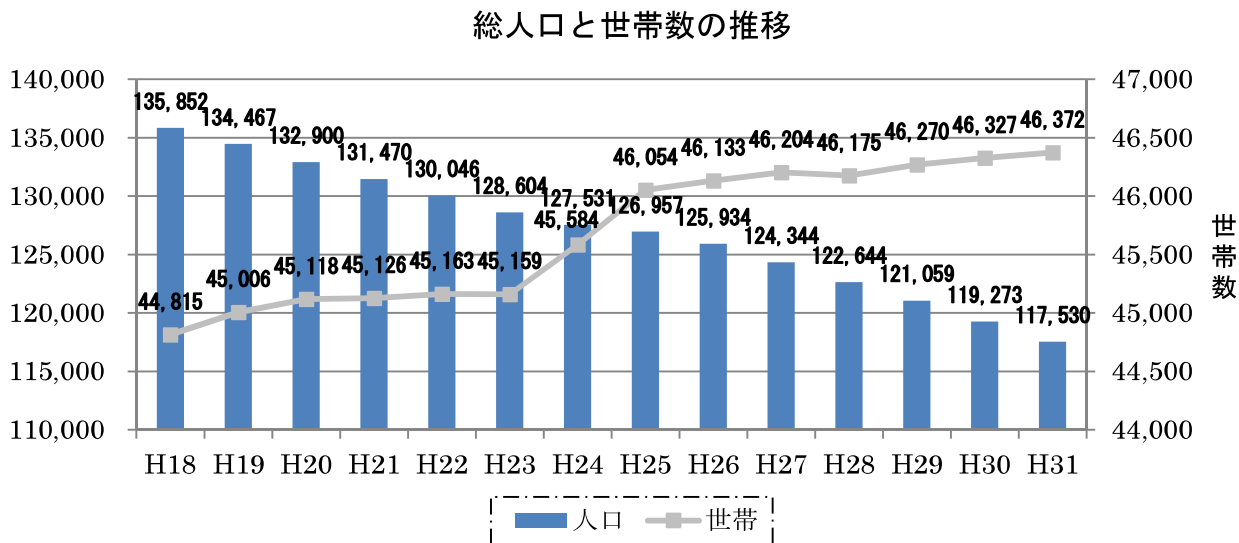
国勢調査（H27）より

昼間人口は流出・流入が均衡

- ・昼夜間人口比率は99.9%であり、通勤・通学による昼間人口の流出・流入が均衡しています。
- ・男女別にみると、流出・流入ともに男性が多く、通勤ではおよそ7割が男性となっています。
- ・流出先・流入元ともに県内では奥州市、平泉町が多く、県外では宮城県が9割を超えています。

⑦ 世帯

■ 世帯数の推移



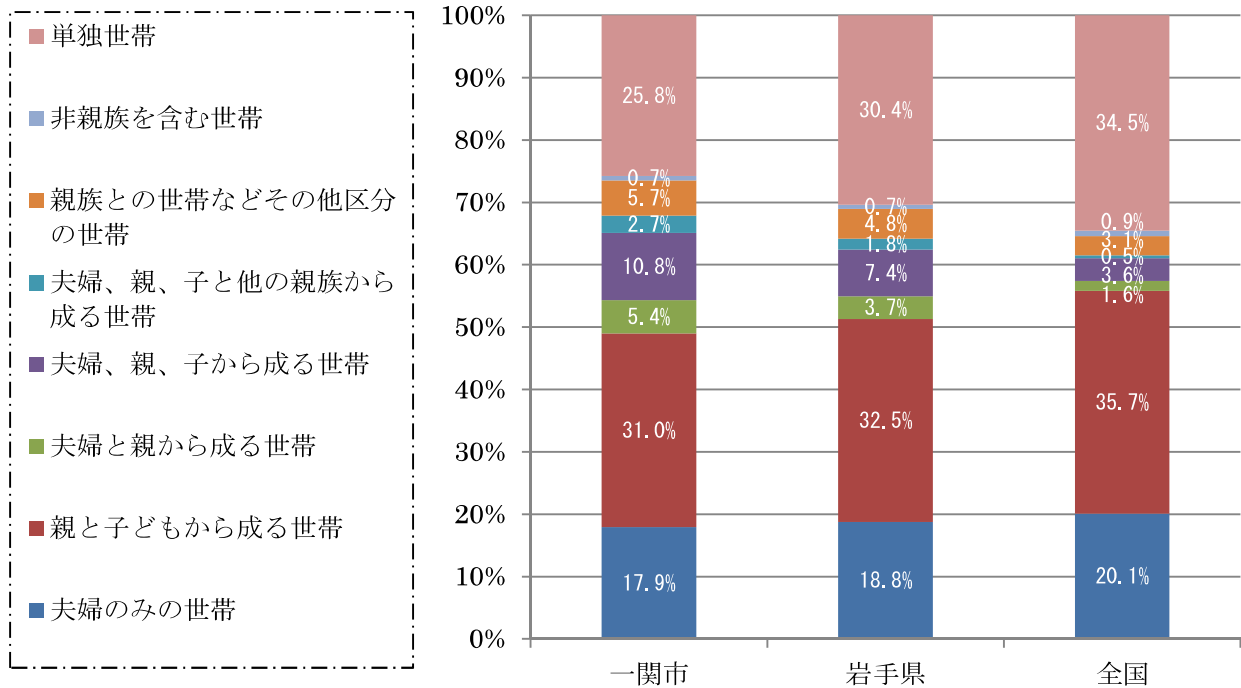
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数より

世帯当たりの人員は減少傾向

- 総人口は減少傾向にある一方で世帯数は増加傾向にあることから、総人口を世帯数で割った世帯当たりの人員は減少しており、平成31年（2019年）には2.53となっています。

■ 世帯構成

世帯構成の比較 (H27)



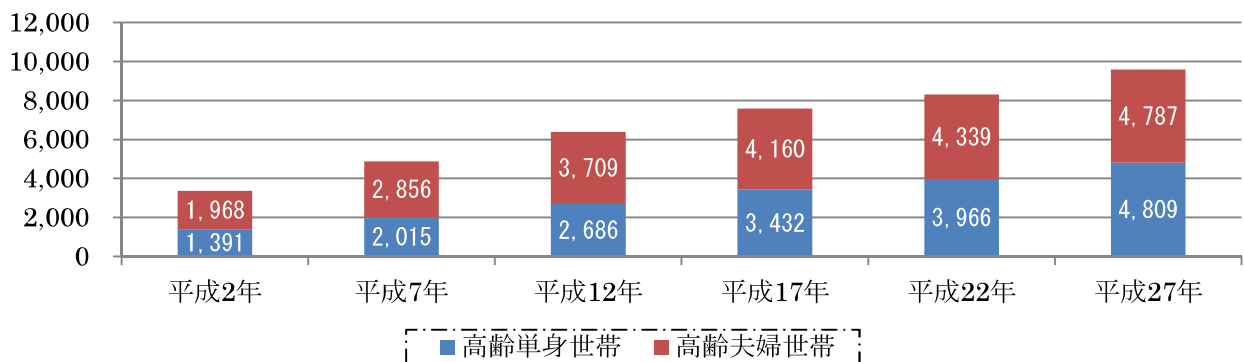
国勢調査 (H27) より

全国や県と比べ、3世代世帯の構成の割合が高い

- 全国や岩手県と比較して、単独世帯の割合が低く、3世代世帯の割合が高くなっています。

■ 高齢単身世帯と高齢夫婦世帯数の推移

高齢単身世帯と高齢夫婦世帯数の推移



国勢調査より

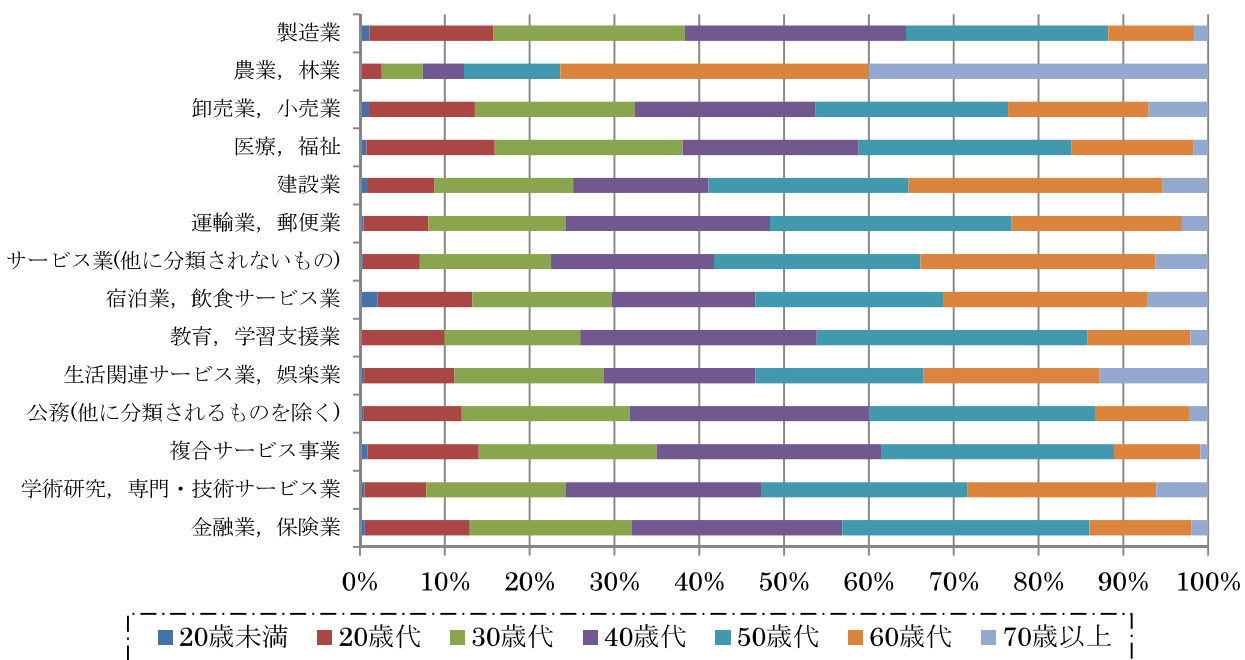
25年間で高齢単身世帯は約3.5倍、高齢夫婦世帯は約2.4倍に増加

- 高齢者世帯が増加しており、25年間で高齢単身世帯は約3.5倍、高齢夫婦世帯は約2.4倍に増加しています。

⑧ 就労

■産業別・年齢別就業者の割合

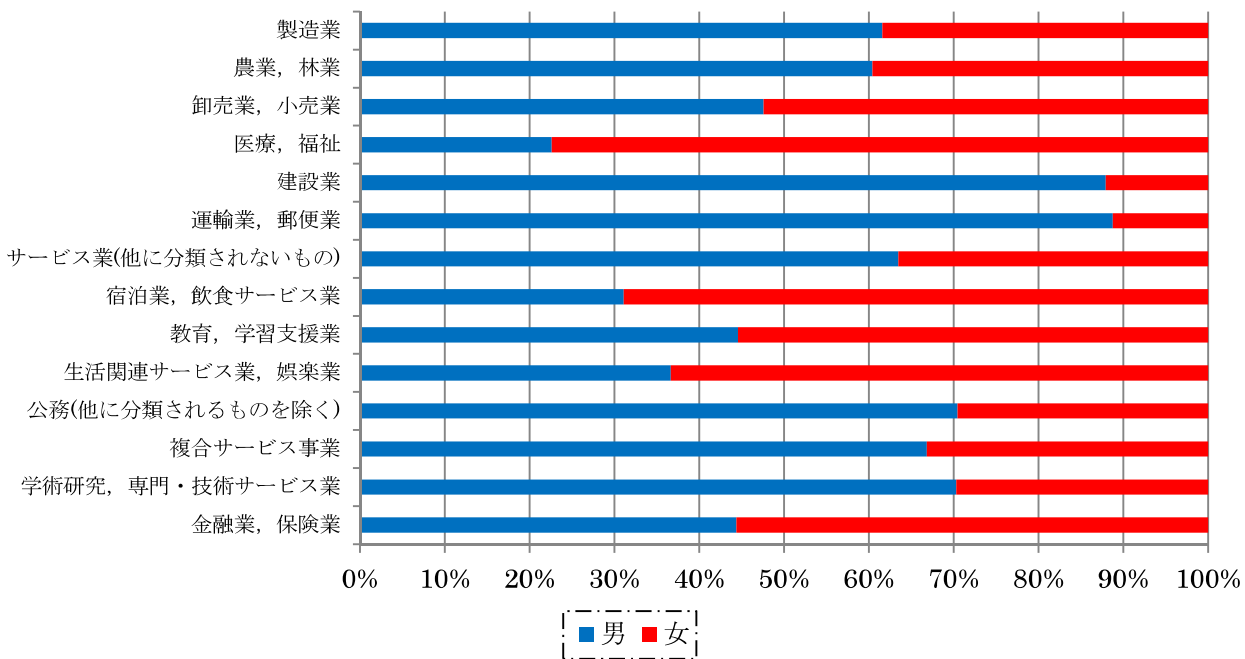
産業別・年齢別就業者の割合



国勢調査 (H27) より

■産業別・男女別就業者の割合

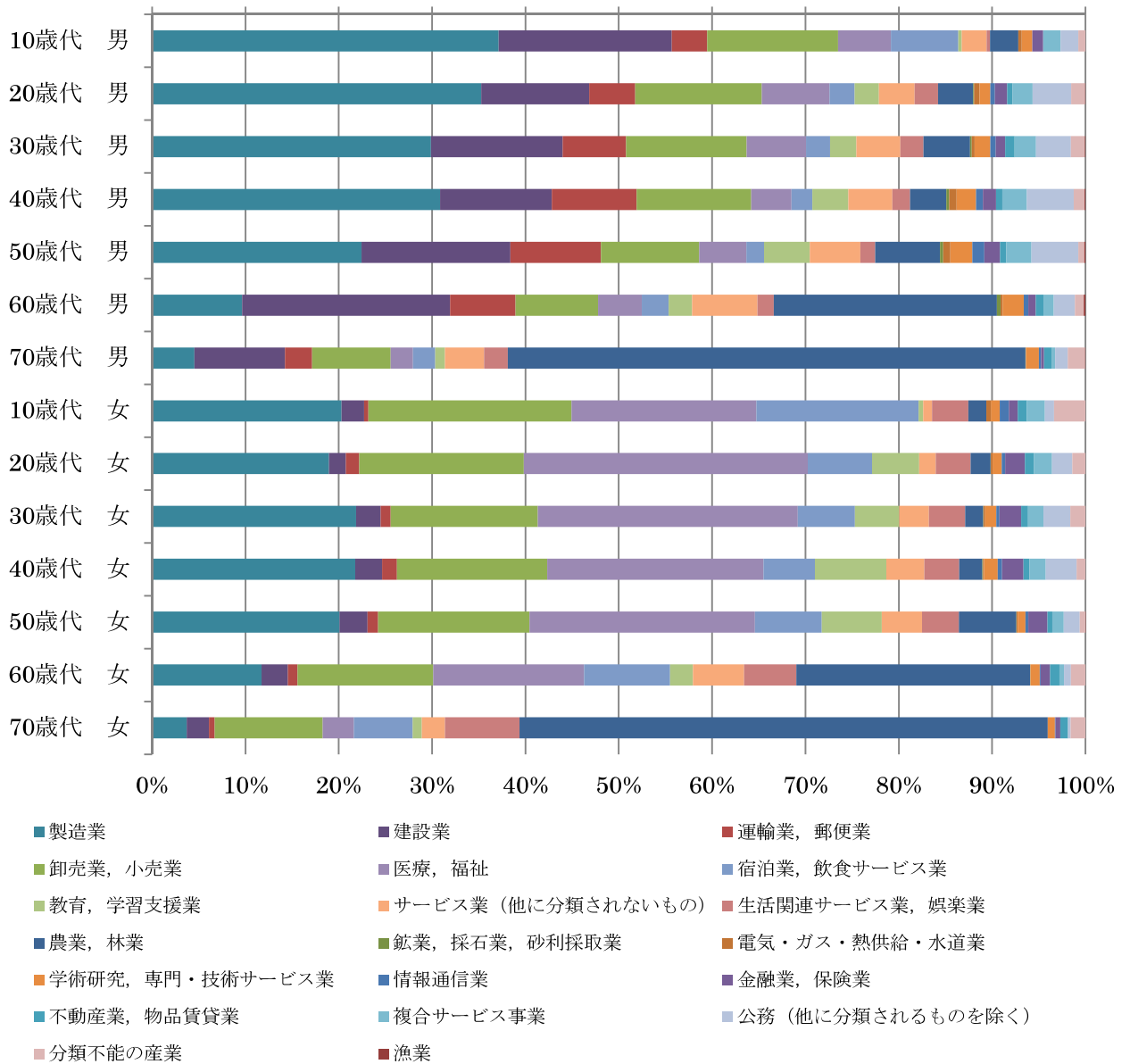
産業別・男女別就業者の割合



国勢調査 (H27) より

■産業別・年齢別・男女別就業者の割合

産業別・年齢別・男女別就業者の割合 (H27)



国勢調査 (H27) より

若年層は製造業が多く、高齢者は農業が多い 男性は製造業、建設業、女性は医療・

- 年齢別にみると、若年層では製造業、医療・福祉の割合が高く、高齢者では農業・林業の割合が高くなっています。
- 男女別にみると、男性では運輸業・郵便業、建設業が、女性では医療・福祉業、宿泊業・飲食サービス業の割合がそれぞれ高くなっています。

1. 将来人口の推計と分析

本市の将来人口については、既に国立社会保障・人口問題研究所により推計されているところですが、これらの推計結果を踏まえつつ独自の将来人口推計も行い、分析することとします。

① 総人口、年齢区分別人口の推移（国立社会保障・人口問題研究所）

■推計期間、推計方法について

ア 推計期間

- ・令和42年（2060年）までの5年ごと

イ 推計方法

- ・5歳以上の年齢階級の推計においては、コーホート要因法を使用。
- ・コーホート要因法は、ある年の男女別、年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法。
- ・推計には、基準人口、将来の生残率、将来の純移動率、将来の子ども女性比及び将来の0-4歳性比が必要。

[基準人口]

- ・平成27年国勢調査人口

[将来の生存率]

- ・55-59歳→60-64歳以下の生残率については、「日本の将来推計人口（平成30（2018）年1月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）による国の男女別、年齢別生残率と、全国の生残率との較差から得られる岩手県の将来の生残率を利用。
- ・60-64歳→65-69歳以上の生残率については、上記計算による岩手県の将来の生残率と、岩手県と一関市の生残率の較差から得られる一関市の生残率を利用。

[将来の純移動率]

- ・原則として、平成22年（2010年）～平成27年（2015年）に観察された一関市の男女年齢別純移動率を令和2年（2020年）～令和7年（2025年）にかけて定率で縮小させ、令和2年（2020年）～令和7年（2025年）以降の期間については縮小させた値を一定とする仮定の下に設定。

[将来の子ども女性比]

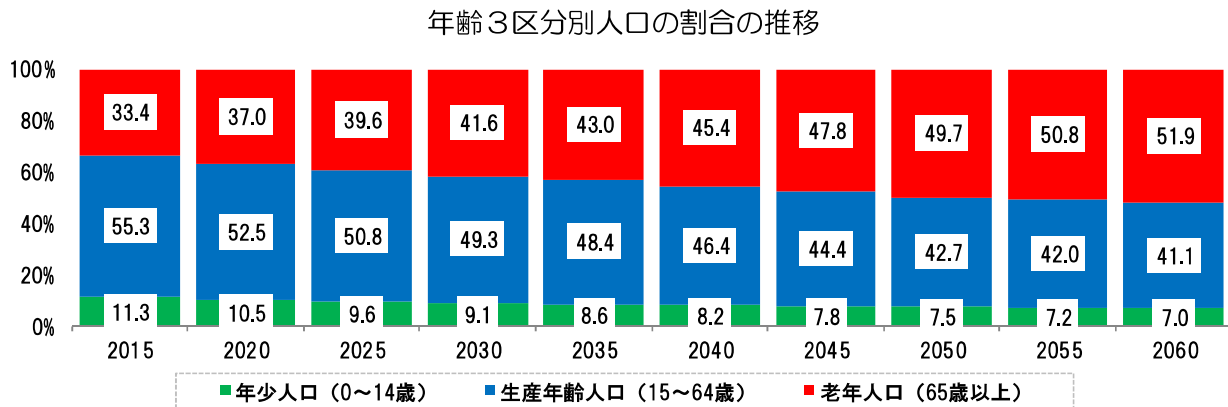
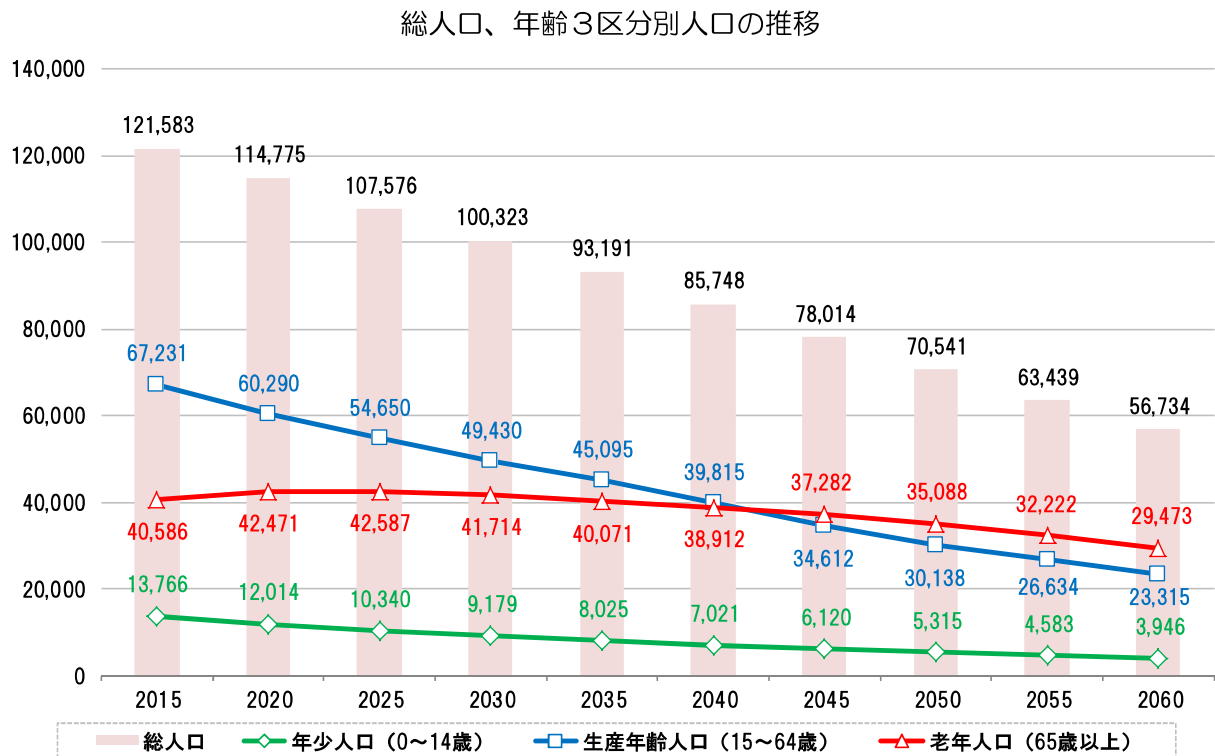
- ・平成27年（2015年）の全国の子ども女性比と一関市の子ども女性比との較差をとり、その値を令和2年（2020年）以降令和42年（2060年）まで一定として仮定値を設定。

[将来の0-4歳性比]

- ・「日本の将来推計人口（平成30年6月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）により算出された全国の

令和2年（2020年）以降令和42年（2060年）までの0-4歳性比を各年次の仮定値として設定。

■総人口、年齢3区分別人口の推移（平成30年6月国立社会保障・人口問題研究所推計）



令和42年（2060年）の総人口は56,734人と推計

- ・総人口は減少を続け、令和42年（2060年）に56,734人となります。
- ・年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- ・老年人口は令和5年（2025年）をピークに減少に転じますが、総人口に占める構成比は増加し、令和42年（2060年）には51.9%となります。
- ・生産年齢人口と老年人口を見ると、令和27年（2045年）に老年人口が生産年齢人口を上回ります。

② 総人口、年齢区分別人口の推移（独自推計、岩手県人口移動報告年報を使用）

■人口推計について

ア 推計期間

- ・令和 42 年（2060 年）までの1年ごと

イ 推計方法

- ・1歳以上の年齢階級の推計においては、コーホート変化率法を使用。
- ・コーホート変化率法は、各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。
- ・1歳以上の人口については、前年の人口に各歳のコーホート変化率を乗じて算出。
- ・平成 27 年の A 歳の人口と翌年の人口（平成 28 年の A + 1 歳の人口）を把握し、その変化率を算出する。同様に、平成 28 年の A 歳、平成 29 年の A 歳、平成 30 年の A 歳の変化率を算出し、その平均を「A 歳のコーホート変化率」と設定。
- ・推計には1歳階級別人口の実績値が必要。
また0歳人口の推計においては出生率と出生数の男女按分比率が必要。

[実績人口]

- ・平成 27 年（2015 年）～令和 1 年（2019 年）岩手県人口移動報告年報

[合計特殊出生率]

- ・平成 29 年（2017 年）人口動態統計 （1.40）

[将来出生数]

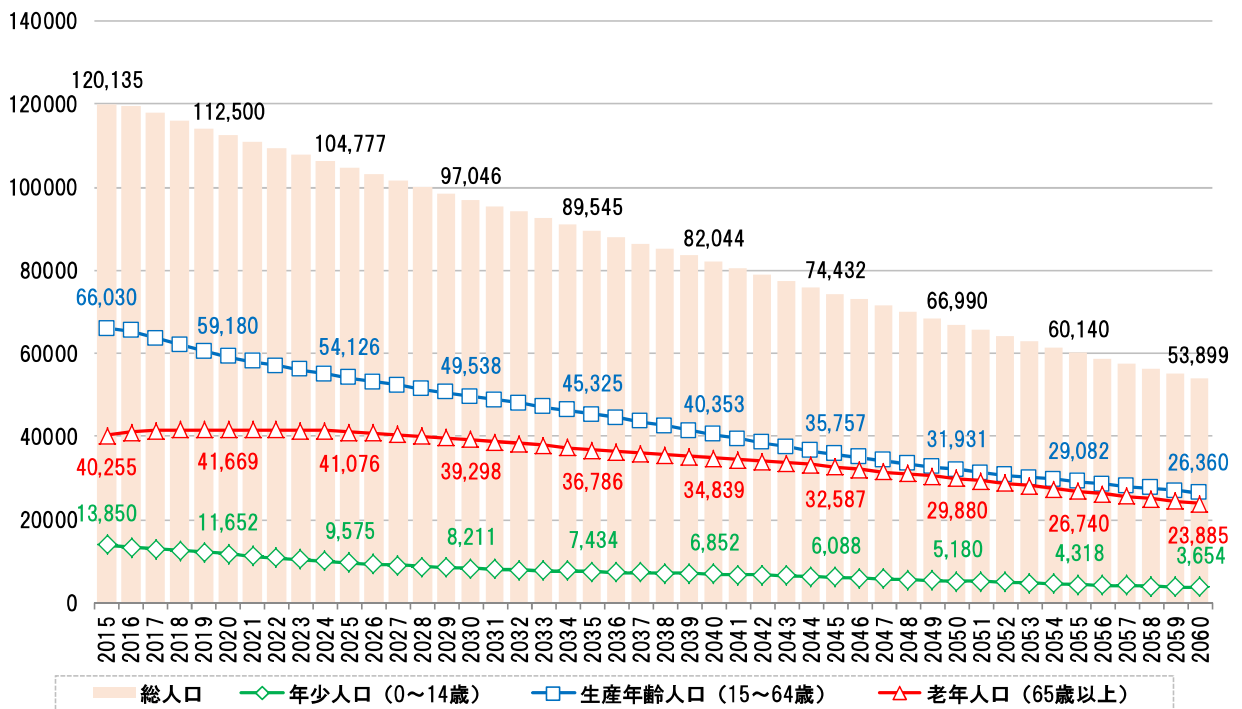
- ・女性年齢別人口の推計値に年齢別の出生率を乗じて出生数を算出。

[出生数の男女按分比率]

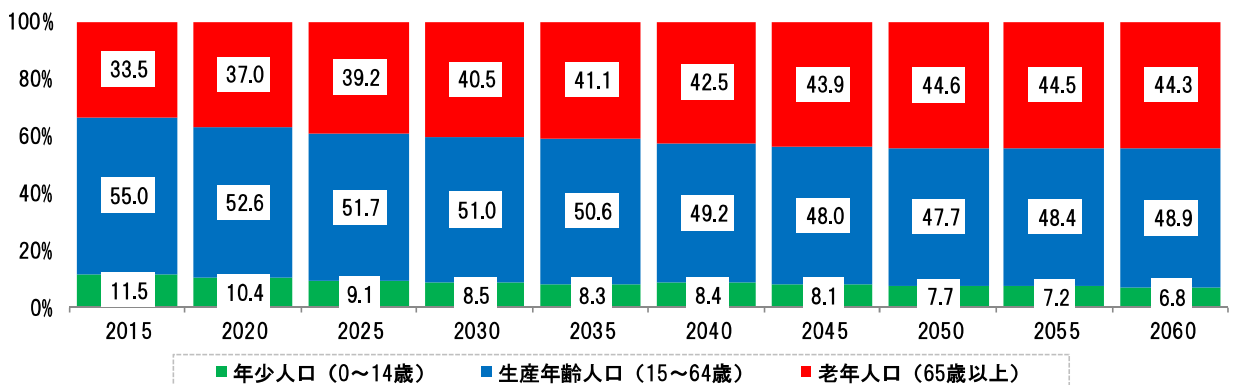
- ・出生男女比は、平成 27 年（2015 年）から令和 1 年（2019 年）の0歳児の男女比の平均値として設定。

■総人口、年齢3区分別人口の推移（独自推計、岩手県人口移動報告年報を使用）

総人口・年齢3区分別人口



年齢3区分別人口の割合



令和 42 年（2060 年）の総人口は 53,899 人と推計

- 総人口は減少を続け、令和 42 年（2060 年）に 53,899 人となります。
- 年少人口と生産年齢人口は年々減少し続けます。
- 老年人口は、2025 年頃にピークとなりますが、その後は減少し続けます。
- 総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和 42 年（2060 年）には 44.3%となります。

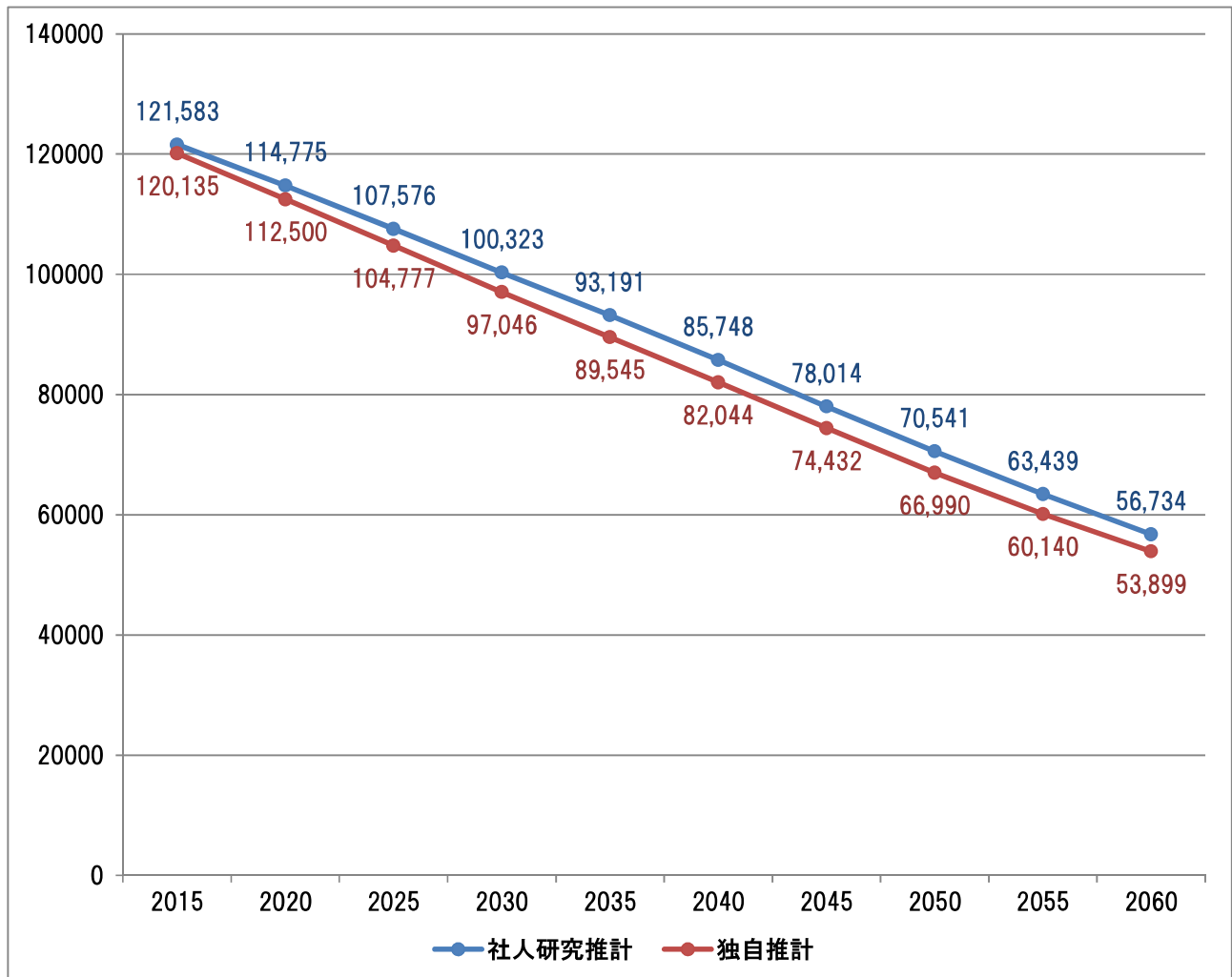
③将来人口推計結果の比較

1 国立社会保障・人口問題研究所推計

(転出入による人口移動が縮小していくと仮定した推計値)

2 独自推計 (岩手県人口動態年報を使用)

(転出入による人口移動がほぼ同水準で推移していくと仮定した推計値)



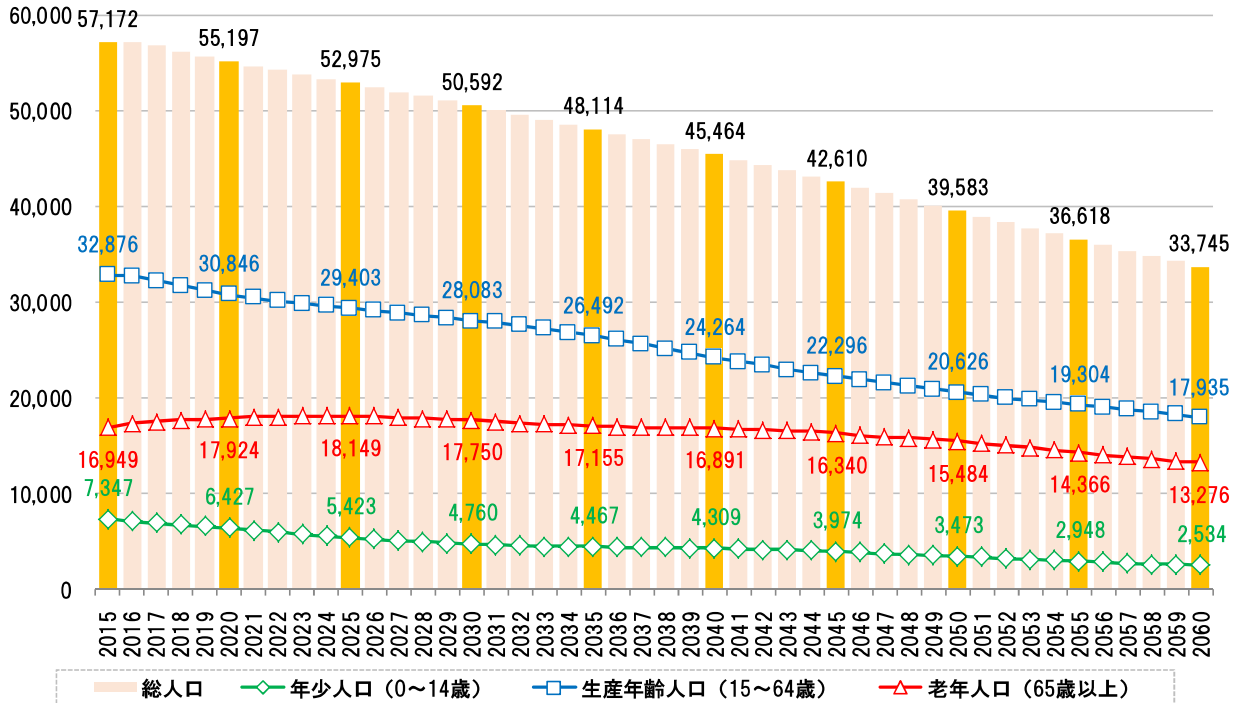
独自推計 (岩手県人口移動報告年報) による 2060 年の総人口は、社人研推計を 2,835 人下回る

- ・ 独自推計では国立社会保障・人口問題研究所の推計値に比べて人口減少が大きくなっており、令和 42 年 (2060 年) では、2,835 人下回ります。

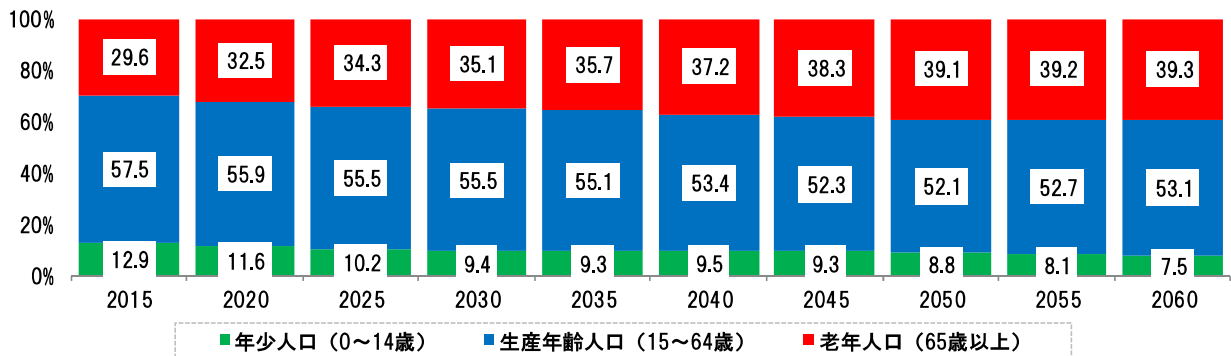
④ 総人口、年齢区分別人口の地区別の推移（独自推計をベースとして推計）

■一関地域

総人口、年齢3区分別人口の推計



年齢3区分別人口の割合の推計

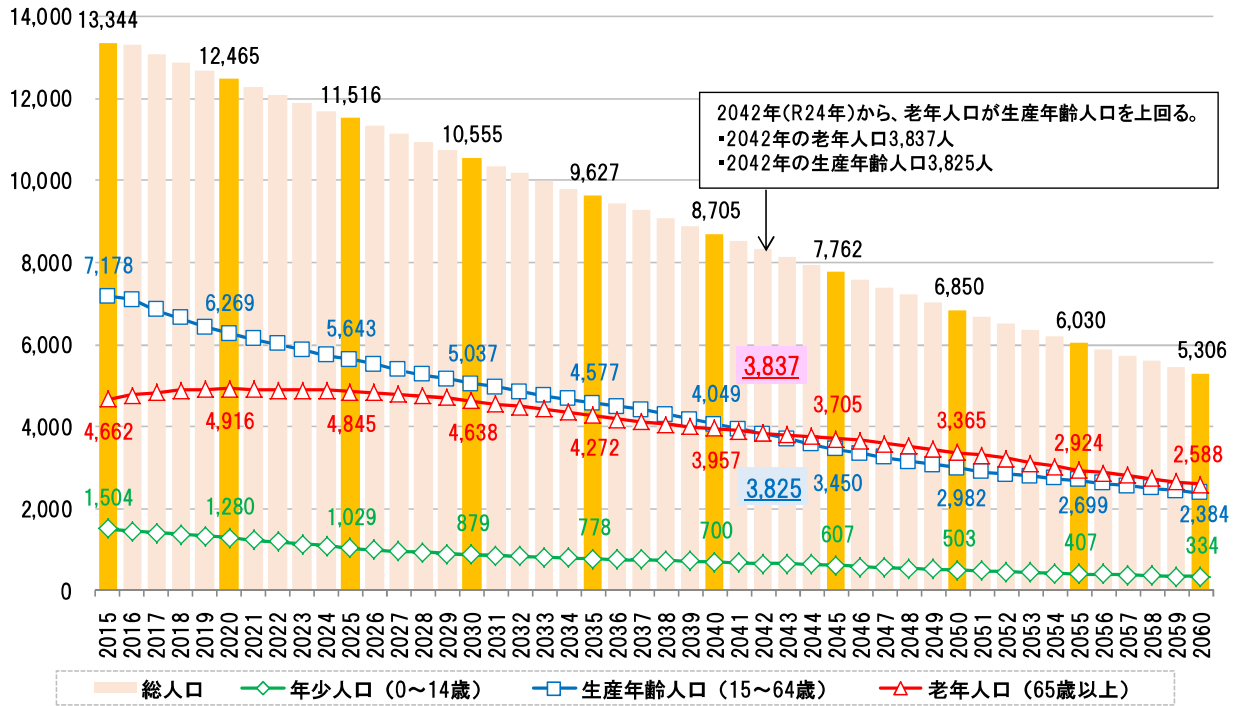


令和42年（2060年）の一関地域の人口は33,745人と推計

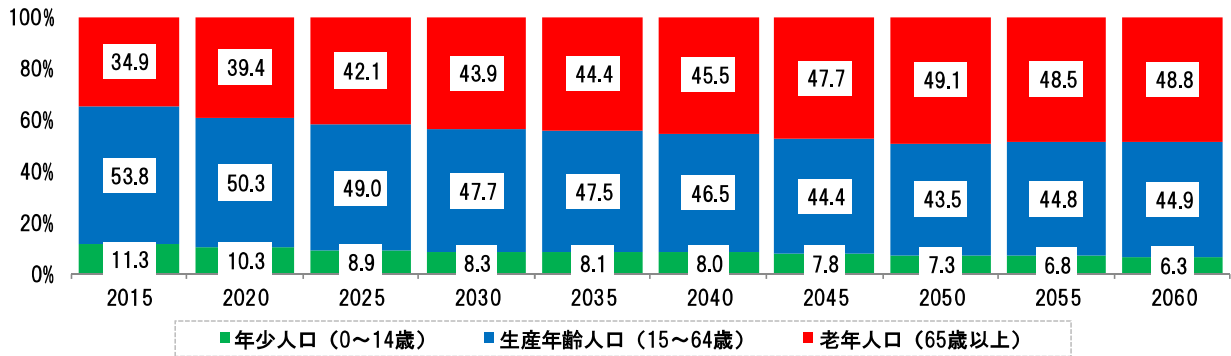
- 一関地域の総人口は減少を続け、令和42年（2060年）に33,745人となります。
- 年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- 老年人口は、2025年（令和7年）ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- 一関地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和42年（2060年）には39.3%となります。

■花泉地域

総人口、年齢3区分別人口の推計



年齢3区分別人口の割合の推計

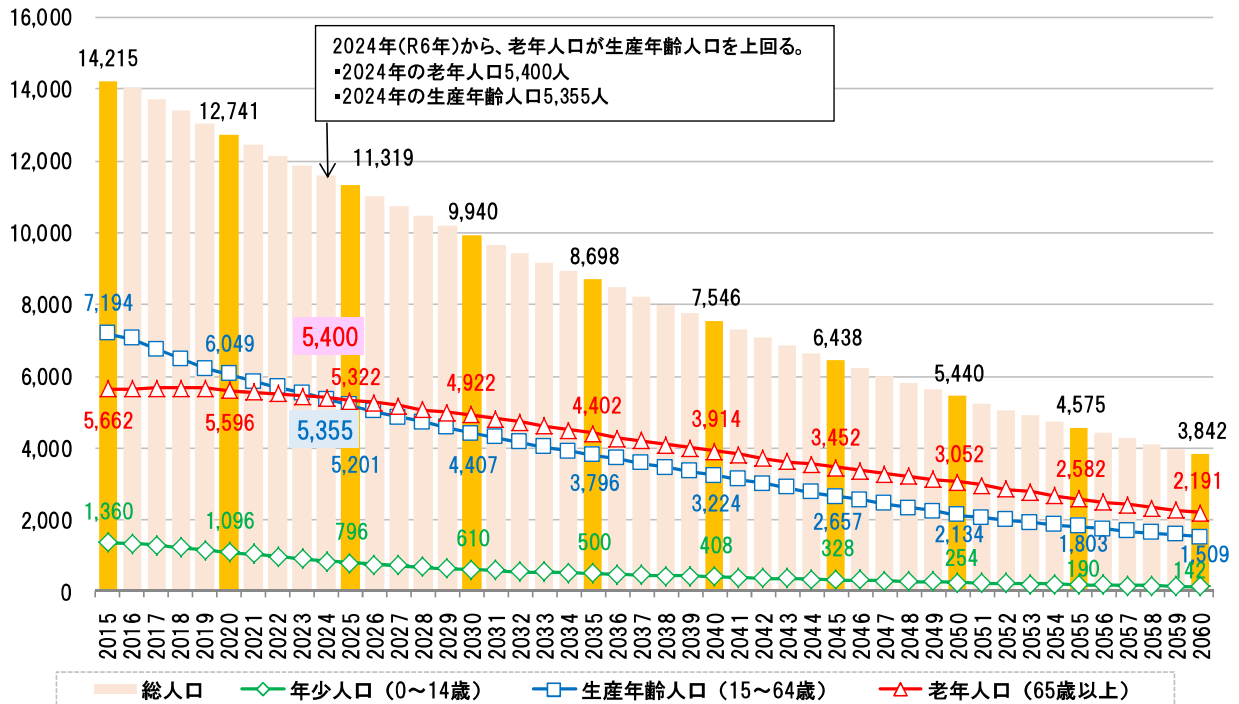


令和42年(2060年)の花泉地域の人口は5,306人と推計

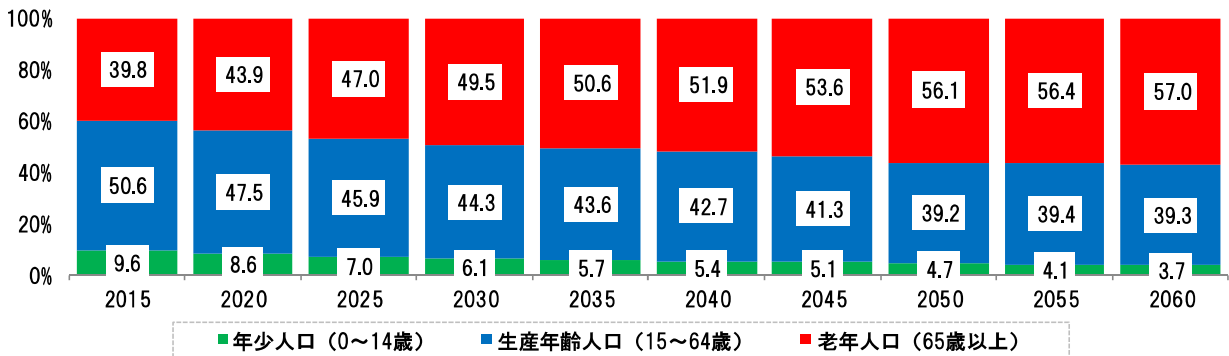
- 花泉地域の総人口は減少を続け、令和42年(2060年)に5,306人となります。
- 年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- 老年人口は、2020年(令和2年)ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- 2042年(令和24年)から、老年人口が生産年齢人口を上回ります。
- 花泉地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和42年(2060年)には48.8%となります。

■大東地域

総人口、年齢3区分別人口の推計



年齢3区分別人口の割合の推計

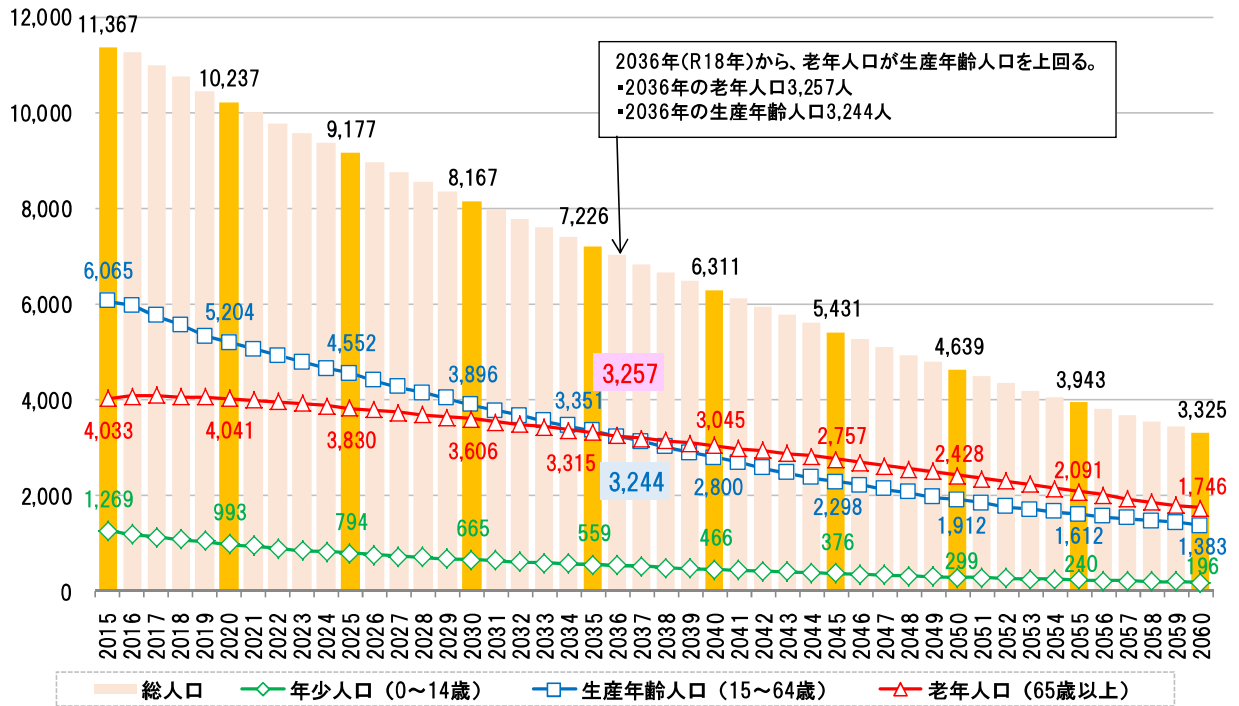


令和42年(2060年)の大東地域の人口は3,842人と推計

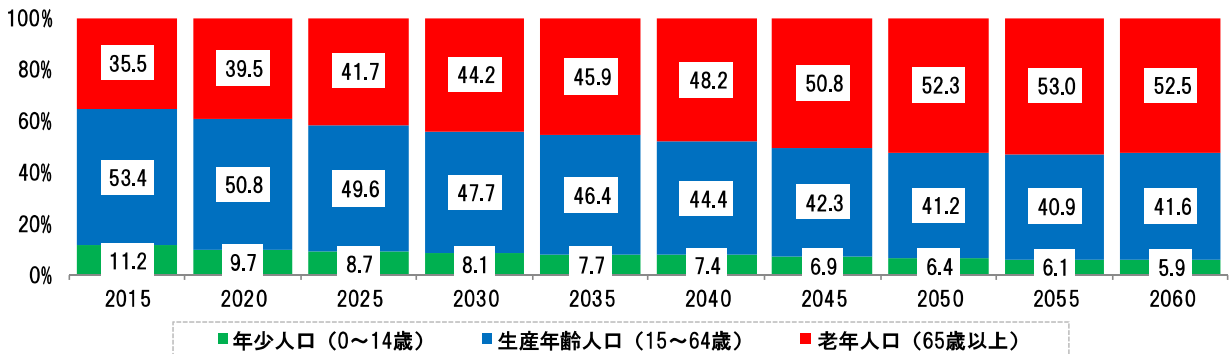
- ・大東地域の総人口は減少を続け、令和42年(2060年)に3,842人となります。
- ・年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- ・老年人口は、2020年(令和2年)ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- ・2024年(令和6年)から、老年人口が生産年齢人口を上回ります。
- ・大東地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和42年(2060年)には57.0%となります。

■千厩地域

総人口、年齢3区分別人口の推計



年齢3区分別人口の割合の推計

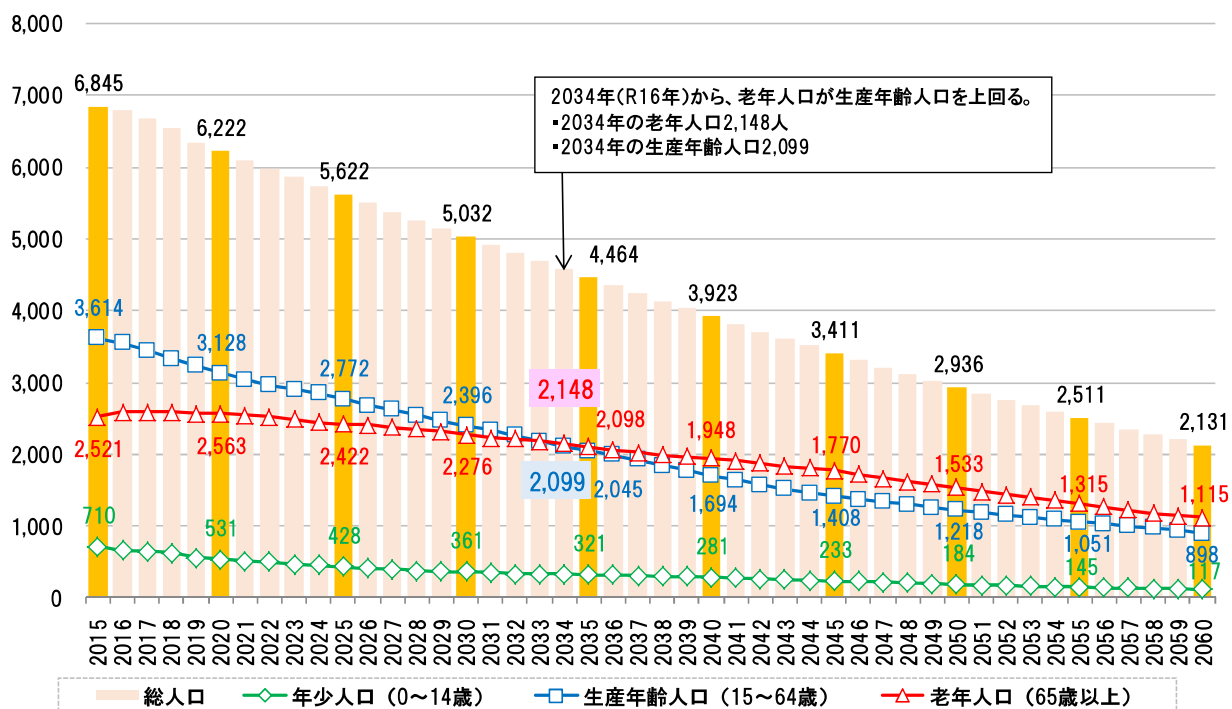


令和 42 年 (2060 年) の千厩地域の人口は 3,325 人と推計

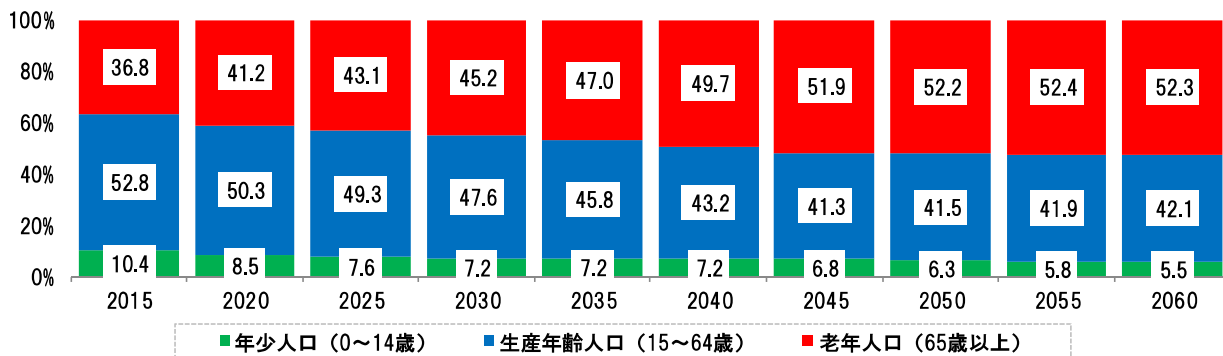
- ・千厩地域の総人口は減少を続け、令和 42 年 (2060 年) に 3,325 人となります。
- ・年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- ・老年人口は、2020 年 (令和 2 年) ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- ・2036 年 (令和 18 年) から、老年人口が生産年齢人口を上回ります。
- ・千厩地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和 42 年 (2060 年) には 52.5% となります。

■東山地域

総人口、年齢3区分別人口の推計



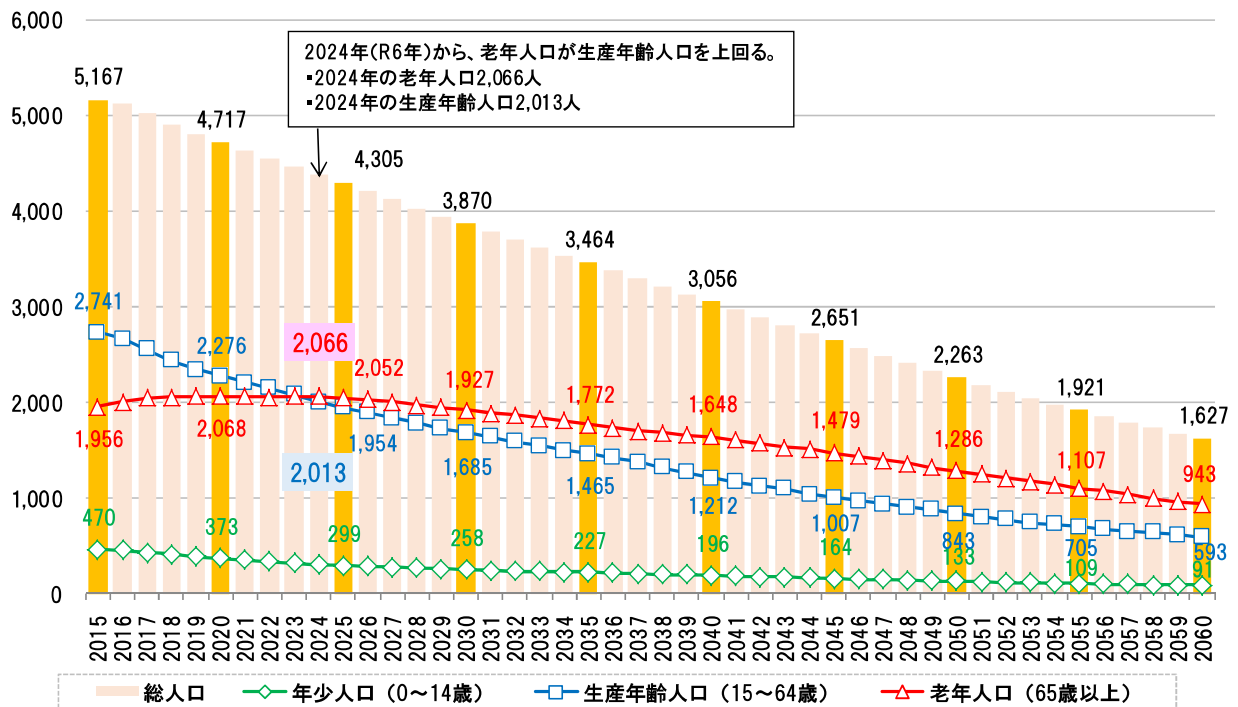
年齢3区分別人口の割合の推計



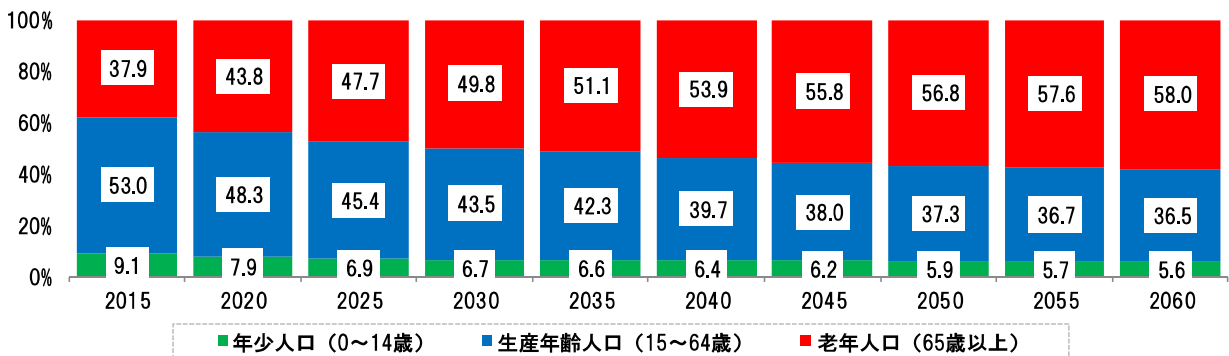
令和 42 年 (2060 年) の東山地域の人口は 2,131 人と推計

- 東山地域の総人口は減少を続け、令和 42 年 (2060 年) に 2,131 人となります。
- 年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- 老年人口は、2020 年 (令和 2 年) ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- 2034 年 (令和 16 年) から、老年人口が生産年齢人口を上回ります。
- 東山地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和 42 年 (2060 年) には 52.3% となります。

総人口、年齢3区分別人口の推計



年齢3区分別人口の割合の推計

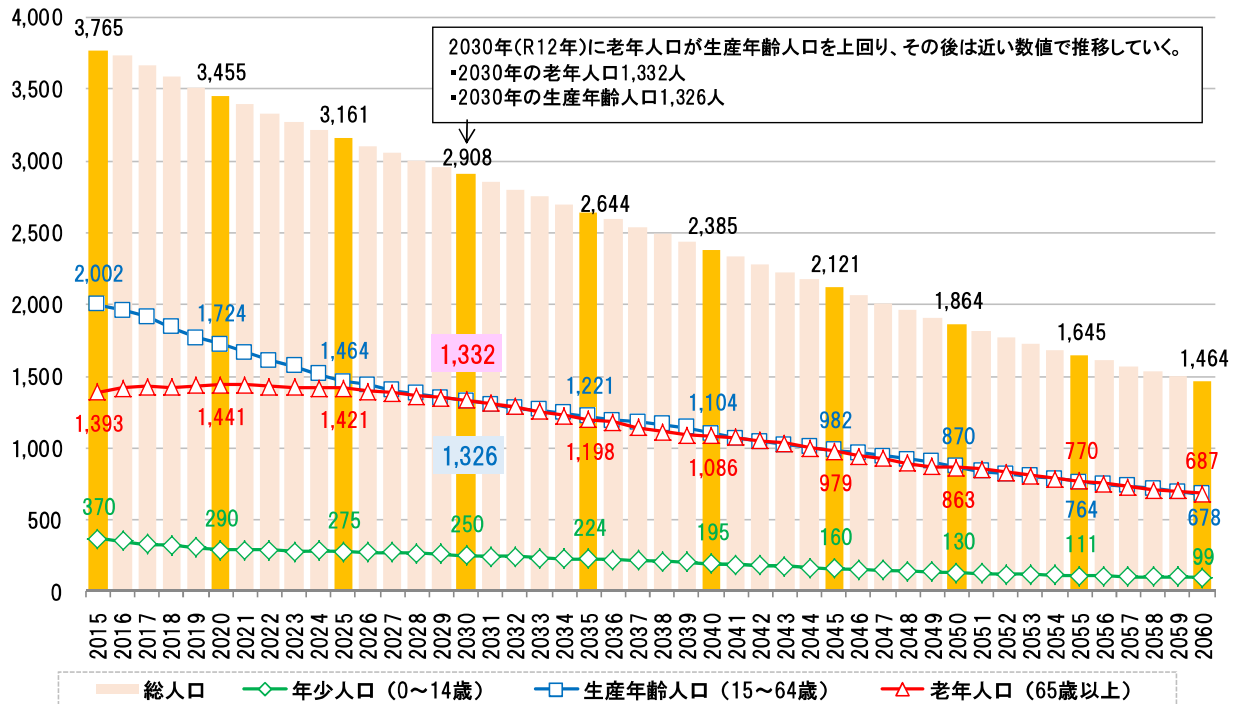


令和42年(2060年)の室根地域の人口は1,627人と推計

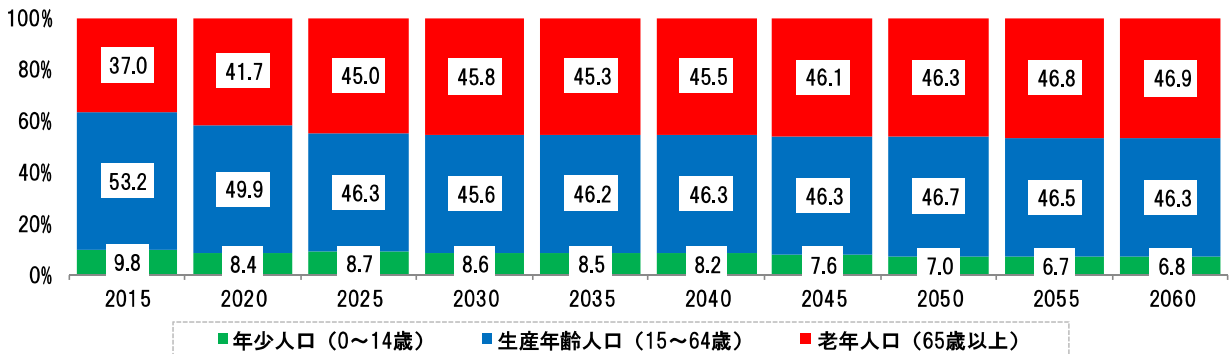
- ・室根地域の総人口は減少を続け、令和42年(2060年)に1,627人となります。
- ・年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- ・老年人口は、2020年(令和2年)ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- ・2024年(令和6年)から、老年人口が生産年齢人口を上回ります。
- ・室根地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和42年(2060年)には58.0%となります。

■川崎地域

総人口、年齢3区分別人口の推計



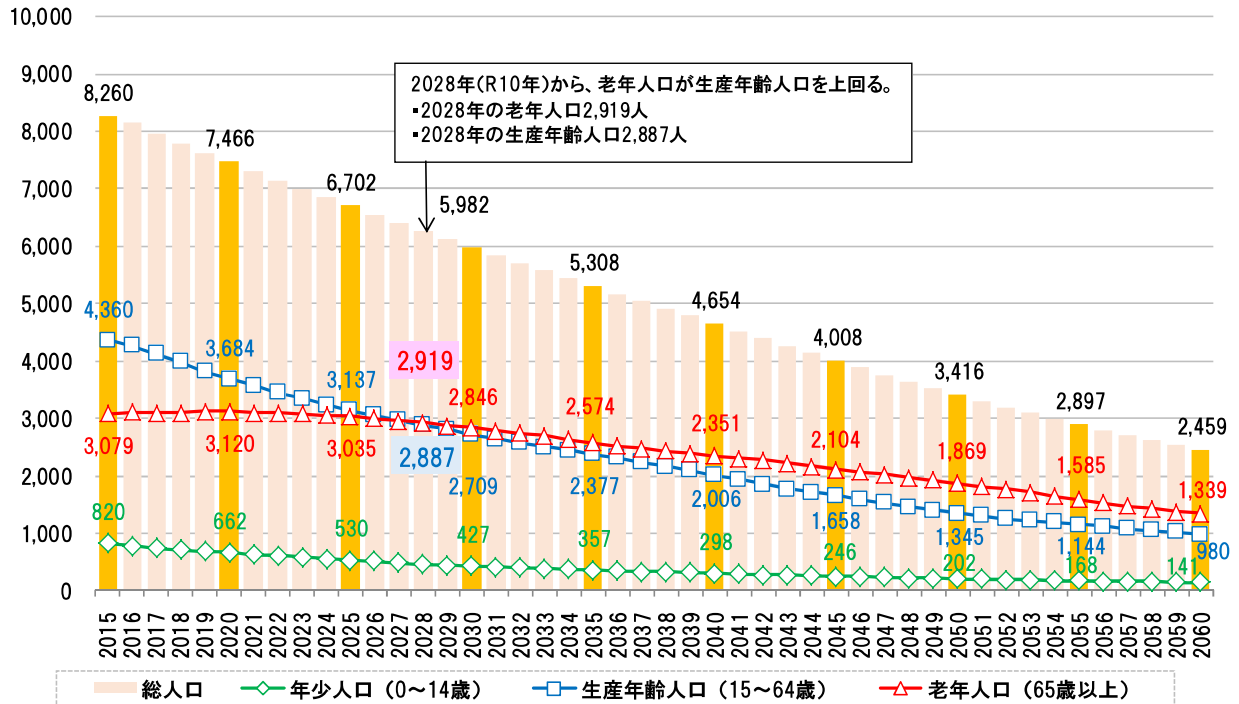
年齢3区分別人口の割合の推計



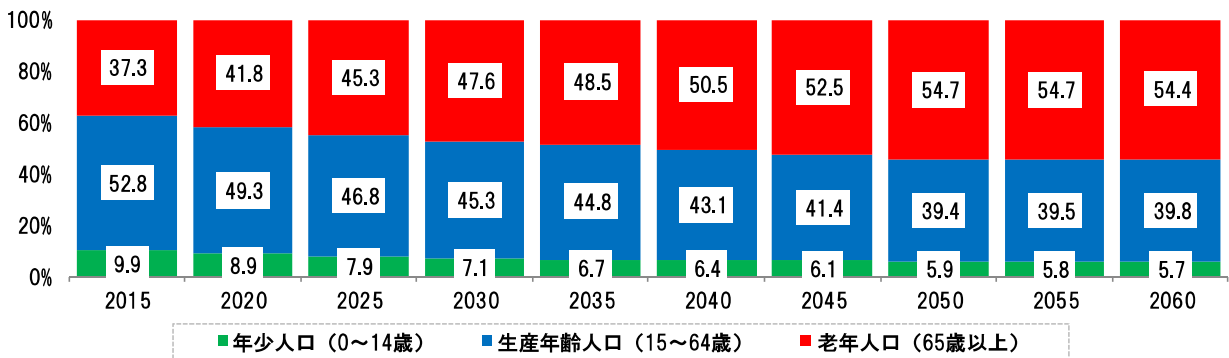
令和 42 年 (2060 年) の川崎地域の人口は 1,464 人と推計

- ・川崎地域の総人口は減少を続け、令和 42 年 (2060 年) に 1,464 人となります。
- ・年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- ・老年人口は、2020 年 (令和 2 年) ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- ・2030 年 (令和 12 年) に老年人口が生産年齢人口を上回り、その後はこの 2 つの人口は近い数値で推移していきます。
- ・川崎地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和 42 年 (2060 年) には 46.9% となります。

総人口、年齢3区分別人口の推計



年齢3区分別人口の割合の推計



令和 42 年 (2060 年) の藤沢地域の人口は 2,459 人と推計

- 藤沢地域の総人口は減少を続け、令和 42 年 (2060 年) に 2,459 人となります。
- 年少人口と生産年齢人口は、年々減少し続けます。
- 老年人口は、2020 年 (令和 2 年) ころにピークとなりますが、その後は減少し続けます、
- 2028 年 (令和 10 年) から、老年人口が生産年齢人口を上回ります。
- 藤沢地域の総人口に占める老年人口の構成比は増加し、令和 42 年 (2060 年) には 54.4% となります。

一関市のまちづくりを考える高校生ワークショップ

- 1 開催日時 令和2年1月13日（月・祝）13：30～16：30
- 2 開催場所 なのはなプラザ3階 一関市民センター大会議室
- 3 参加者 市内の高校生及び一関高専生（2年生または1年生） 33名
⇒参加校：一関第一高等学校、一関第二高等学校、一関工業高等学校、花泉高等学校、大東高等学校、千厩高等学校、一関学院高等学校、一関修紅高等学校、一関工業高等専門学校
- 4 内 容 総合計画、総合戦略が目指す将来の姿について、次世代を担う高校生等の考えを参考とするため、「将来、仕事を選ぶときに大事にしたいことは？」「10年後、あなたが一関市で生活しているとしたら、どんな暮らしをしたいと思う？」という2つのテーマについて、ワークショップ形式で話し合った。

5 ワークショップで出された意見

テーマ① 「将来、仕事を選ぶときに大事にしたいことは？」

■ 収入

- ・給料が高い。
- ・生活していく金額のお金を得ることは、最低必要。
- ・自分の趣味にもお金が必要。
- ・生活が不自由なくできる。余裕を持って生活をしたい。
- ・ほしいものがそのときに買えるように、お金がたくさんもらえる仕事。
- ・子どもができたときに、経済的な余裕があるとよい。
- ・自分たちの定年は今の60歳よりもっと上になるのではないか。
- ・老後に2000万円が必要と聞いたので、老後が心配。
- ・安定した給料がもらえるかどうか。給料が高いより安定を重視する。

■ 安定した仕事

- ・定年退職まで長く続けられる仕事。
- ・安定して続けられる仕事。収入が高い職業を選んでも、安定した収入がないと後々生活できないから。

■ 労働環境

- ・一番大事なのは、「労働環境」。ブラック企業や過労死をするような職場は嫌。
- ・各種保険が整っている。
- ・各種手当が充実している。

休暇

- ・休みが取りやすい。
- ・週に2日は休みたい。
- ・有給休暇が取得しやすい職場環境。
- ・有給休暇制度があっても取得しづらい職場だと困る。

勤務時間

- ・勤務時間が6～8時間。
- ・勤務時間は短いほうがいい。
- ・国の規程を守った仕事環境
- ・労働時間が長過ぎない。朝から晩まで働くのは嫌だ。
- ・残業がなく（少なく）、定時に帰れる。
- ・そもそもの勤務時間が短ければ、残業があってもさほど気にならないのではないか。

(休暇や勤務時間を重視する理由)

- ⇒ プライベートの時間が取れ、仕事と両立できる。
- ⇒ どちらかといえば給料より、自分の時間を重視したい
- ⇒ 趣味や自分の時間に使いたい。
- ⇒ 仕事のことを考えず、疲れを取ったり、リフレッシュすることが必要だと思う。
- ⇒ 子どもや家庭があったら、家族との時間を大切にしたい。
- ⇒ 家族との思い出の時間をつくる。
- ⇒ 子どもができれば、子どもの行事に参加したい。
- ・夜勤は体に負担がかかるので、健康を悪くする。
- ・夜勤があってもいいが、日勤と給料が同じだとどうかと思う。

産休・育休

- ・産休や有給休暇制度が整備されているか
- ・産休、育休が取れる（取りやすい）。
- ・育休は、女性はもちろん男性もとれる環境がよい。
- ・育休後、仕事に復帰できる（しやすい）。
- ・育休を取るのが、職場に言いやすい。
- ・育児で休んでも、自分の仕事をサポートしてくれる職場。

■ 適性・やりがい

- ・自分に向いている、性格に合っている仕事かどうか。
 - ⇒ 自分に合った仕事かどうか。嫌な仕事は長続きしない。
- ・自分の得意なこと、好きなことが生かせる仕事か。
 - ⇒ 地元企業だけ見ると選択肢が少ない。選択肢がない。 ⇒ 首都圏に就職したい
- ・長く続けられる仕事か。
- ・自分が持っている技術が十分に発揮できる仕事。
- ・学校で学んだことを活かせる仕事。
 - ⇒ 地元企業だけ見ると選択肢が少ない。選択肢がない。 ⇒ 首都圏に就職したい
 - ⇒ たくさんの種類の仕事があるといい。若い人が地元に残るために、沢山の種類の仕事

があれば良い（選べるように）

- ・測定機器などの設備が整っている（理学療法士志望）。
- ・やりがいを感じられる仕事。
- ・やっていて楽しいと思える、自分の興味のある分野の仕事をしたい
- ・自分がやりたいことが実現できる仕事。
- ・自分が満足して働ける仕事か。
- ・自分がその仕事を途中で辞めることがないか。
⇒ せっかく就いた仕事なら続けていきたい。
- ・人に感謝される仕事。「ありがとう」と言われる仕事。
- ・困っている人を助けたり、人に貢献する仕事がしたい。
- ・一関の良いところを全国に発信する（ような仕事をしたい）
- ・自分の為になるものであるか。
- ・達成感が得られる仕事がしたい。
- ・成果が目に見える仕事。自分が仕事を続けるモチベーションになる。
- ・会社の規模ではなく、そこに自分のやりたい仕事があるかが重要。
- ・給料が高いというのも、仕事のやりがいになるのでは。
- ・やる気のある人が周りに多くいる職場環境。
- ・この仕事を選んで良かったと思える充実した職場。
- ・同じ業種でも機材や設備が充実した職場

■ 職場の雰囲気・人間関係

- ・職場の雰囲気、人間関係がよい。
- ・人間関係でトラブルを起こさないか。職場での上司・同僚との良好な関係が大事。
- ・ストレスのかからない環境。
- ・パワハラがない。
- ・意見を言いやすい職場か。
⇒ 言いたいことも言えないでいると不満が溜まり、健康に良くない。でも、言われたことをやるのは楽。無理なことでなければ…。
- ・家庭と仕事を両立できる環境。職場がこのような仕組みをつくる。
- ・女性が働きやすい環境か。特に女性が少ない職場（工業系など）は、女性同士の関係が良好であること。
- ・自分の意見・考えを尊重してくれる。
- ・自分のやりたいことを意見したり、話し合いができる。
- ・働いた成果を評価してもらえるか。
- ・職場の年齢構成も気になる。
⇒ 年配者だけの職場より、同年代の社員のいる職場。取引相手の年齢も同様。

■ 会社の規模

- ・有名な企業。他人に誇れる企業がいい。
- ・資本金が多い企業がいい。

- ⇒ 会社の安定性があり、設備投資が充実しているから。
- ・長く続けられる仕事に就きたい。

■ 勤務先と住まいの近さ、通勤手段

- ・住居と職場の距離が近く、通勤しやすい。
- ・家から近いこと（通勤時間は、30分程度まで）
 - ⇒ 何時間かけて通勤したくない。
 - ⇒ 通勤時間が多いと自分の時間が少なくなる。
 - ⇒ 一関市から仙台へ通勤するのは、大変。
 - ⇒ 朝はゆっくりしたい。
- ・職場までの交通の便はよいか。多様な交通手段があるか。
- ・バスや電車などの公共交通機関で通勤することができるか。
 - ⇒ 自家用車以外で通勤したい。
 - ⇒ バスや電車だったら、疲れているときや体調悪い時に自分で車を運転しなくてよい。
 - ⇒ その日の状況により、自家用車以外の通勤手段が確保できる。
 - ⇒ 自家用車は税金等の経費が掛かる。
- ・でも、車はほしい。
 - ⇒ 仕事以外の旅行や遠いところへ出かけるときに車は必要。自分の好きな時間で移動できる。雪が降ると仕事に遅れる。
- ・寮があるといい。地方だと通勤の際に電車1本逃すと大変だから。

■ 地元で働きたい

- ・家族とのコミュニケーションを大切にしたい。
- ・家族や友達とすぐに会える、コミュニケーションが取りやすい地元で仕事をしたい。
- ・お世話になった地元に貢献したい。

■ 自然との共生

- ・自然が多い場所で暮らし通勤したい。
- ・自然とふれあう生活をしたい。
- ・自然豊かな場所に暮し、子どもと一緒にキャンプを楽しみたい。

■ 都会で働きたい

- ・東京のほうが給料は高いから。
- ・交通や買い物で利便性のよい都会で仕事をしたい。
- ・電車や地下鉄があるので、通勤に車が必要ないから。
- ・都会に出て選択の幅を広げたい。
- ・東京にはやりたい仕事があるが住みたくない。住むなら仙台に住みたい。

■ 抽象的なイメージ

- ・楽しく暮らしたい。
- ・大変なこともあると思うが、楽しく幸せに暮らしたい
- ・のんびり暮らしたい。
- ・健康にのんびり生きたい。
- ・家族と友達と関わりながら楽しみたい。
- ・運動、仕事、自分の時間をバランスよく過ごす。
- ・趣味を楽しむ。友達と遊ぶ。家族と暮らす。自分のやりたい仕事をする。リフレッシュするなどが、楽しく暮らすことにつながる。

■ 仕事と家庭、プライベートの両立

- ・仕事と家庭を上手く両立させた暮らし
- ・どちらかという仕事を重視
- ・結婚していたら、家庭を重視
- ・結婚していても、仕事と家庭の両立
- ・自分の時間をつくれる。
- ・働きながらも自分の好きなことをして過ごしたい。
- ・家族や子どもに合わせた仕事に就く（家族や子どもが優先）
- ・家庭のために休みを取れるような（取りやすい）仕事が良い
- ・仕事ばかりではなく、プライベートを重視したい。
- ・円満な家庭をもって、仕事と家族のことを両立できるプライベートを充実した暮らしにしたい。
- ・プライベートを大事にすることにより、仕事が充実する。
⇒ 充実イコール幸せ（家庭、趣味、やりがい、収入、好きなことを仕事に生かす）
- ・趣味を通してリフレッシュするのは、自分のためだけではなく、家族のためにもなると思う。
⇒ ストレスを抱えて家族に接してもよいことはない。）

■ 趣味を楽しみたい

- ・週末（休日）は趣味に時間を使いたい。平日は仕事で難しいかも。
- ・平日も仕事だけでなく、趣味やスポーツを楽しみたい。
- ・自分の趣味を続けたい
- ・スポーツをしたい。（体を動かすのが好きなので）
⇒ ランニング（景色を見ながら）、ソフトボール、バドミントン、バレー
- ・競技スポーツをして、大会にも出場したい。
- ・週末はアウトドアをする。（キャンプ、トレッキング）
- ・犬を飼って、散歩をしたい。

- ・音楽を聴く。
- ・音楽フェスを楽しみたい。
- ・ゲームで遊ぶ。
- ・麻雀を楽しむ。
- ・サバイバルゲームをしたい。
- ・読書をする。
- ・本屋巡りをする。
- ・漫画、アニメを楽しむ。
- ・長期休暇には遠出（旅）をしたい。
- ・趣味を楽しむために働きたい。
- ・趣味を楽しみながら一人暮らしをしたい。

■ リフレッシュ

- ・週末は仕事を忘れてのんびりと（散歩など）
- ・寝る。
- ・心の余裕をつくる。
- ・自分のリセットできる時間と場所があるとよい。
- ・時間をつくるには、休みが取れることが必要。

■ 友達と遊ぶ

- ・地元の友人達と仲良く遊びたい。
- ・友達と一緒にご飯やカラオケに行きたい。
- ・友達と車で出かけた。
- ・友達とお酒を飲んで楽しみたい。

■ 家庭を築いている

- ・運命の人と付き合っている。
- ・結婚をして充実した暮らしをしたい。家庭を築いていたい。
- ・10年後なら結婚して、子どももいるかもしれない。
- ・10年後はまだ結婚はしていないのでは。
- ・マイホームを持ちたい。
- ・家は建てていない。（10年後では、まだ早い）
- ・犬を飼いたい。
- ・家庭を持ってのびやかに暮らしたい
- ・休日は、家族とのんびり過ごす。
- ・充実したスポーツ施設や子どもと遊べる場所があり、子どもと休日を過ごしたい。
- ・子供が行きたいところや猫カフェへ子どもと出かけた。
- ・家族ができれば、自然と触れ合う。キャンプに行く。

⇒ 川遊び、栗拾い、山遊び、釣り、木登り、スキー、ウィンタースポーツ、かまくら作り、雪合戦、天体観測（流星群）

■ 自分の家がほしい

- ・自分が好きなように過ごせる時間と場所ができる家がほしい。

■ 休日には、一関市以外に出かける

- ・子どもだけではなく、大人も楽しめる場があるとよい。
- ・大人も楽しめる場所は、一関市にはないが、都会にはある。
- ・自動車でおでかけして、買い物などを楽しむ。
- ・盛岡、仙台、北上に出かけて、映画やショッピングなどをして休日を過ごす。
- ・音楽フェス、映画、ラウンドワンなどは一関市にない。
- ・一関市の映画館に行ったことはない。
- ・休日は映画観賞や買い物をして過ごしたい。行き先は、盛岡か仙台。
- ・どんな物か分かっているものであれば、ネットで買えるが、それ以外では実際に確かめたい。
 - ⇒ 服は自分に似合うか、生地質感などはネットでわからない。本もネットのレビューではなく、実際に読んで買うか決めたい。
- ・洋服やおしゃれなものなどを買える店が一関市では、自分で行ける範囲にない。
- ・都会では、店が集まって、買い物できる種類が多い。歩きながら買い物を楽しめる。

■ 地元で暮らす

- ・自然に囲まれたところで生活したい
- ・スキーや川下りなど自然を生かした遊びをしたい。
 - ⇒ 一関市の強みは「自然」と思う。
- ・農業に参加してみたい
 - ⇒ 広報等を見ていると一関市の農業が衰退していると感じる。田園風景が好きなので、保持していけるように活動に参加したい。
- ・静かに平穏に暮らしたい。
- ・騒音のない静かな環境でのんびり過ごす。
- ・近所トラブルが少ない生活をしたい。
- ・地元へ貢献し、やりがいに溢れた充実した生活を過ごしたい。
- ・親にも地元にも恩返しをしたい。

■ 就職、仕事

- ・自分のやりたい仕事をしている。
- ・目標に向かって進んでいる
- ・自分のやりたい仕事に就いて、続けられていたらよい。
- ・国家試験に合格して看護師か介護士として働いていたい。
- ・自分に合った職に就きたい。(同じ仕事を続けていきたい。)
- ・安定した収入を得ることができる職場に就いている。
- ・休みが取れたり、社会保険制度が整っている職業に就く。

- ・地元企業に就職している。
- ・自分に合った職につき、平穏に暮らしたい
- ・中学や高校の友達と遊びたいので、就職は管内を希望したい
- ・地元の土木関係の会社で働きたい。
- ・一関市で公務員になって働く。
- ・地域に貢献できる仕事をしている。
- ・自分の考えや意見を職場で反映させたい。
 - ⇒ 学んだことを生かしたい。一関のためになればいいと思っている。
- ・I L Cの研究に貢献したい。
- ・一度市外に出てファッションを勉強し、戻ってきて自分がつくった服を売りたい。
- ・家は一関、仕事は一関市外になりそう
- ・一関に住み、新幹線、電車で通勤する。
- ・研究機関に通勤。→火山研究
- ・大手企業が一関に進出していれば、働きたい。
- ・農業を継承しない暮らし（農業は大変なところがあるので、継ぎたくない）

■ 起業している

- ・親に「将来は一関市に戻って」と言われたので、一関市以外で働き、ノウハウを得て、ゲームのプログラミングの会社を立ち上げ、社長になりたい。
- ・一関市にはないような、子どもから高齢者まで世代関係なく楽しめるVRやARの技術を活用したゲームを開発したい。
- ・一関高専だと起業家育成講座があるので、起業したいと考えている生徒がいる。

■ 社会参加

- ・一関のイベント、農業、ボランティアに参加したい。
- ・地域のボランティア（地域全体でできるもの、自治会活動など）に参加し、地域貢献したい。
 - ⇒ 一関の活性化、地域課題の解決に繋がればいい。
 - ⇒ 他人のためだけでなく、自分の喜びになる（刺激になる）。そのほうが住んでいて、気持ちが良いのでは。
 - ⇒ 楽しい、役に立っているという実感が得られる。
 - ⇒ 友人同士の参加してみたら。
 - ⇒ 家族で参加することにより、家族の繋がりができるかも。
- ・地域で健康に向けた取組等に参加（ボランティア）。
- ・いろいろな人（地域の人やお客さん）とのが大事。
- ・仕事場のあるまちの環境（店など）→飲食店や仕事帰りに買い物をしたい。

■ 社会環境の整備

- ・公共交通機関が充実している暮らしがあるといい。
- ・災害が発生してもライフラインが確保されている。

- ・仕事も生活も安全な暮らし（犯罪がない）
- ・犯罪被害やトラブルが少ない治安の良い暮らし
- ・買い物など不自由を感じない生活
- ・車がなくても近くに買える店がある利便性が高ければいい。

■ ICT技術の進歩

- ・VR（※1）やAR（※2）の技術が進んだら、場所に制限なく、人がつながることができるので、一関市も変わっているのでは？

※1 VR（仮想現実）：リアリティを高めた視覚情報を投影させる技術

※2 AR（拡張現実）：実在の風景にバーチャルの視覚情報を重ねて表示する技術

■ 人との交流

- ・地域の人との交流ができる。
- ・気仙沼市や奥州市など、地域内外との交流。

【結婚・出産・子育てアンケート】

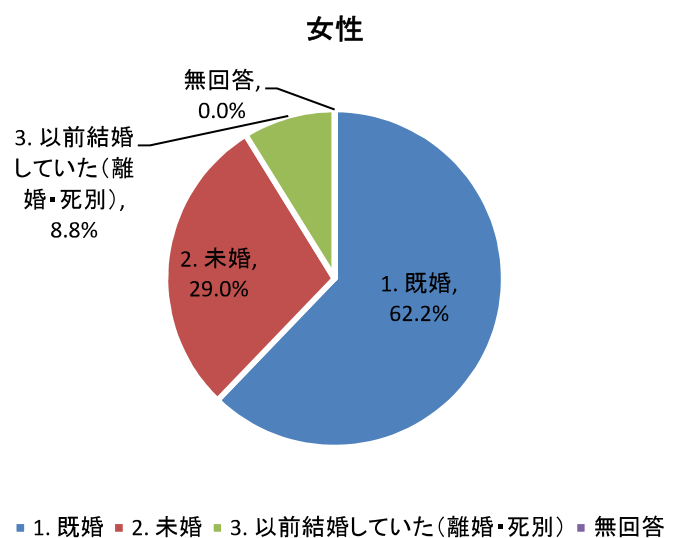
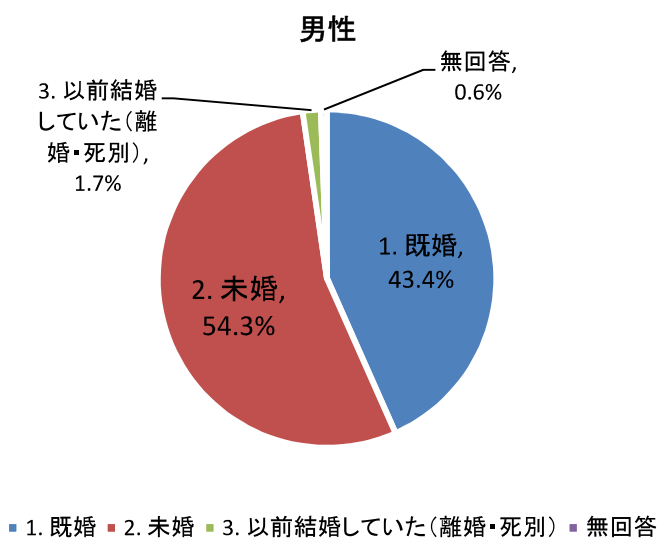
問4 【全員】あなたは、現在結婚されていますか。(1つ選択)

問4で尋ねた現在の結婚状況について、男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答数 男性=173, 女性=238

男女別の結果を見てみると、男性では未婚者の割合が既婚者を上回り、一方、女性では既婚者の割合が未婚者を上回る結果となっています。



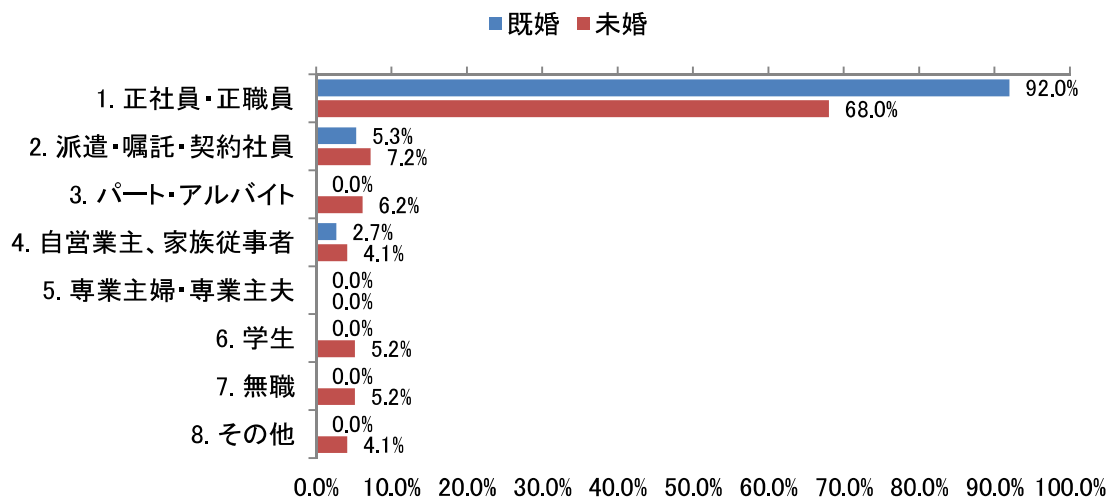
問 10 【全員】 あなたの就労状況を教えてください。(1つ選択)

回答者の就労状況について、男女別、問4で尋ねた結婚状況ごとに示しています。

(1) 男性

有効回答数=173

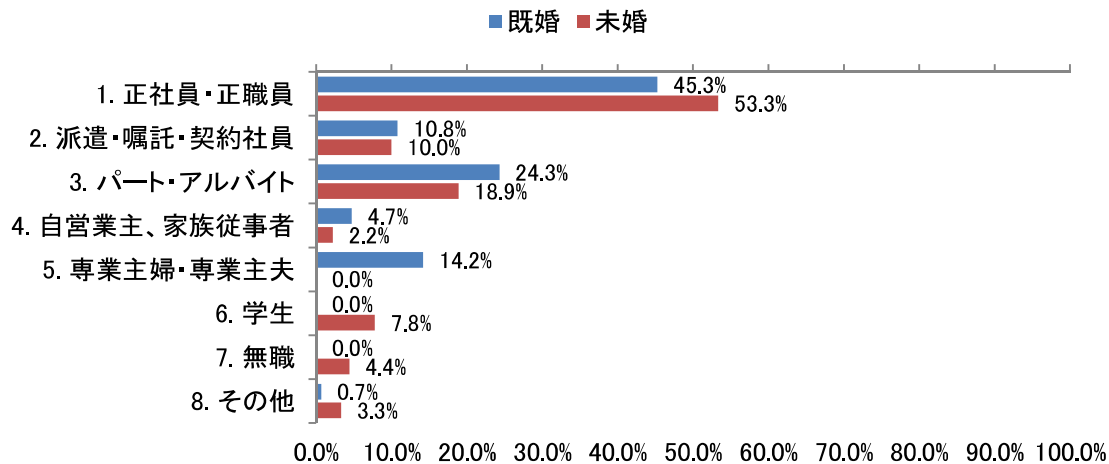
未婚者に比べ既婚者は、「正社員・正職員」の割合が多くなっています。一方、既婚者に比べ未婚者は、「派遣・嘱託・契約社員」、「パート・アルバイト」、「無職」の割合が大きくなっています。



(2) 女性

有効回答数=238

未婚者に比べ既婚者は、「パート・アルバイト」、「専業主婦・専業主夫」の割合が大きくなっています。一方、既婚者に比べ未婚者は、「正社員・正職員」の割合が多くなっています。

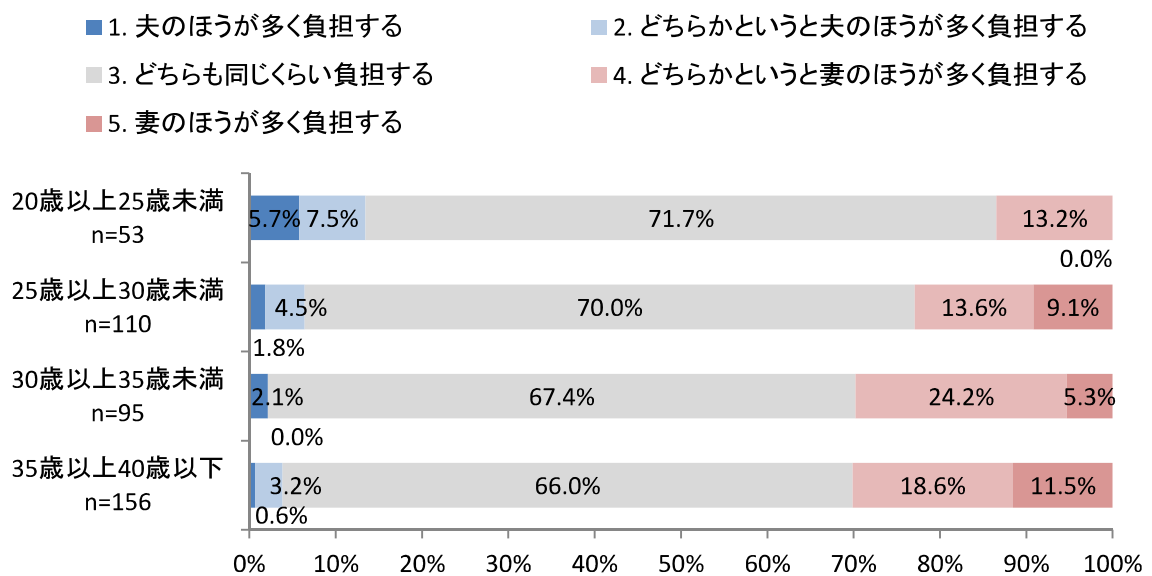


問 14 【全員】あなたは、夫婦間での家事や育児の負担は、どのようであればよいと思いますか。 ※配偶者がいない方は、いると仮定してお答えください。（1つ選択）

夫婦間での家事や育児の負担の回答割合について、年齢別（5歳階級別）に示しています。

(1) 年齢別（5歳刻み）

年代が上がるごとに、「夫の方が多く負担する」の割合が減り、「妻の方が多く負担する」の割合が増えている傾向にあります。

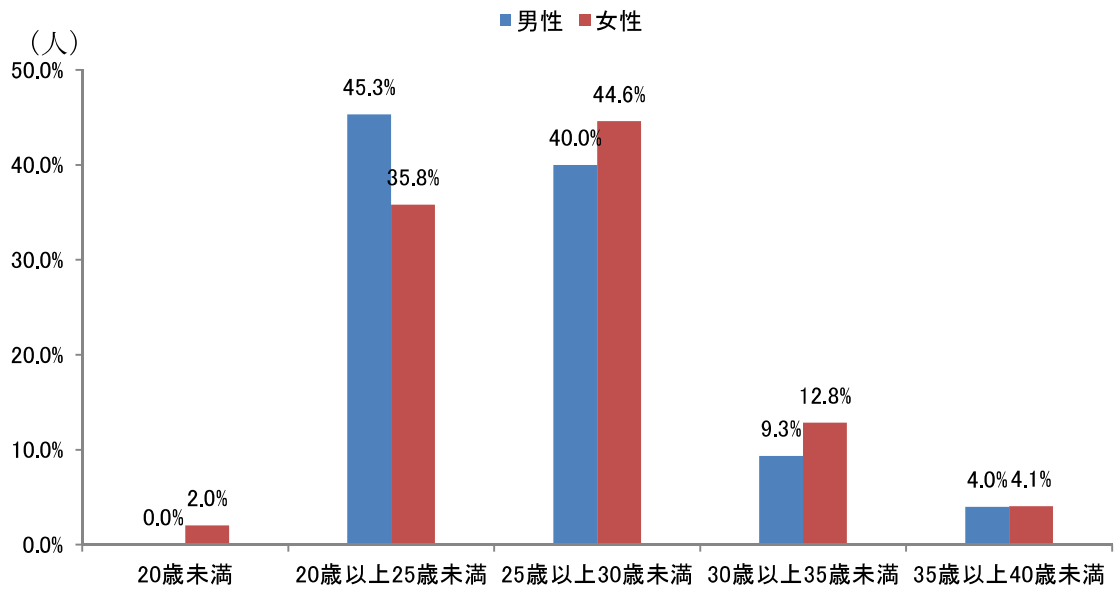


問 16 【既婚者】結婚されたのは何歳のときですか。その年齢をお書きください。

回答者の結婚された年齢について、男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答数 男性=75, 女性=148



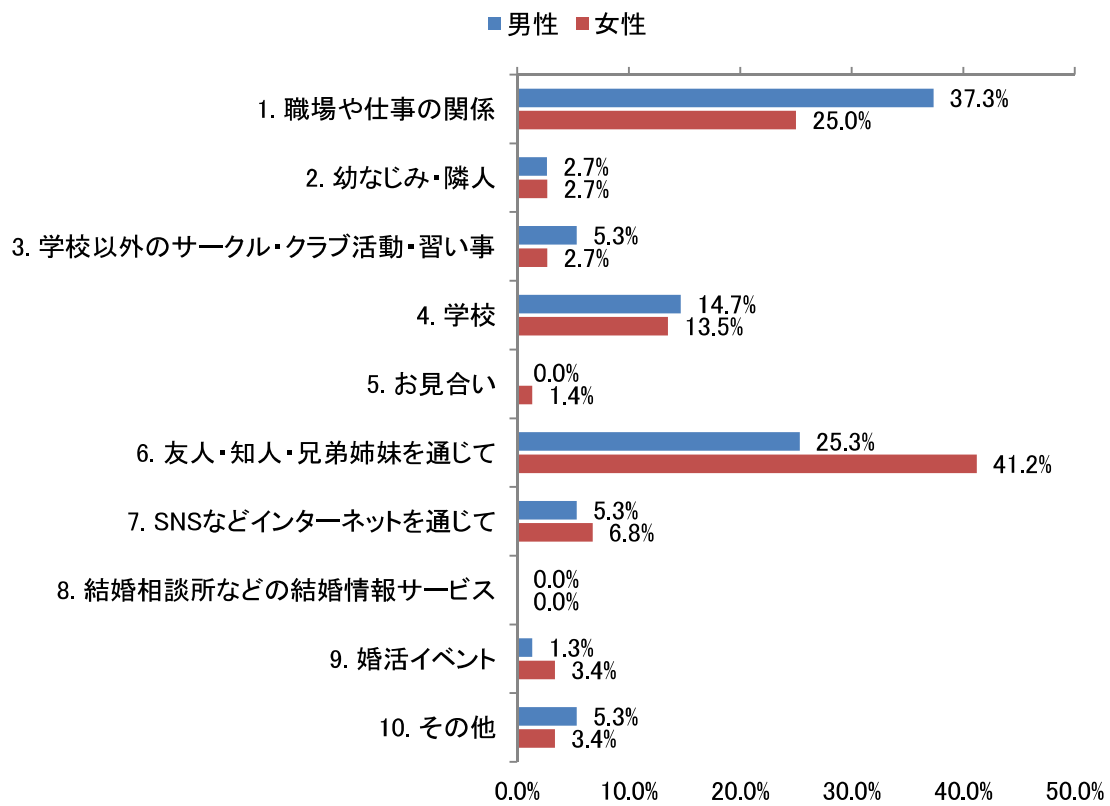
問 20 【既婚者】現在の配偶者とはどのようなきっかけで知り合いましたか。(1つ選択)

回答者の現在の配偶者と知り合ったきっかけについて、男女別、年齢別(5歳階級別)に示しています。

(1) 男女別

有効回答数 既婚男性=75, 既婚女性=148

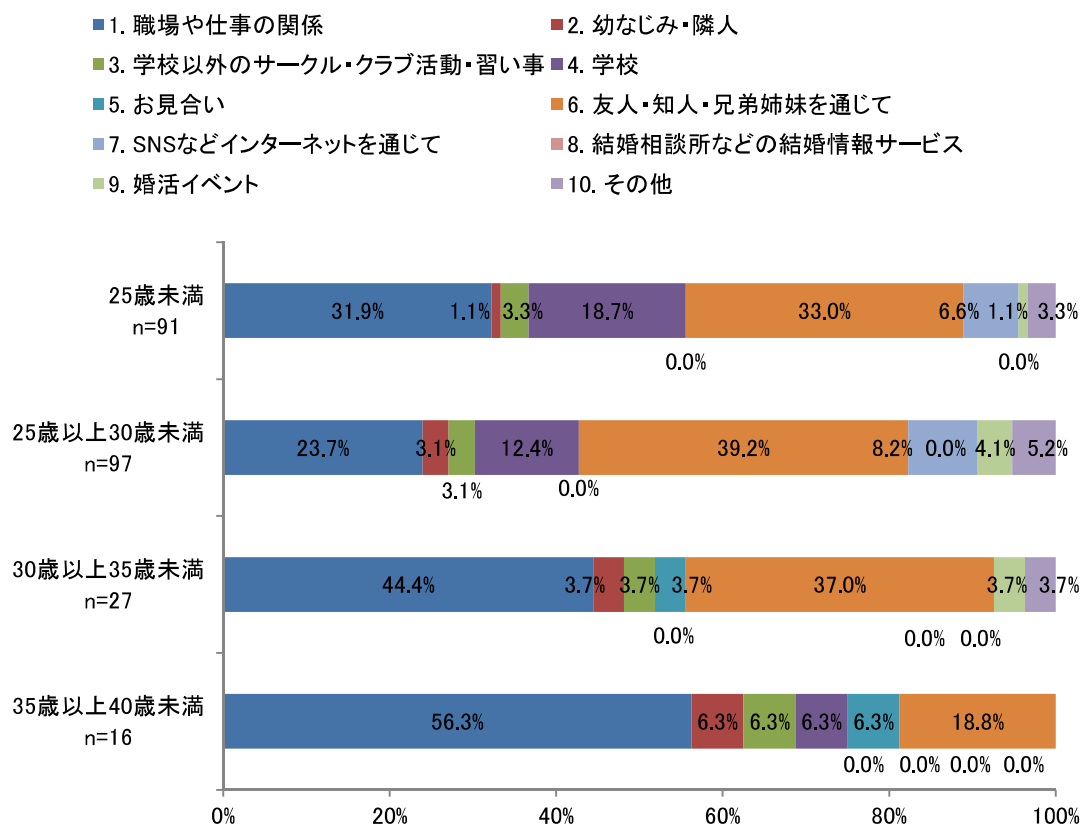
男女別の結果を見ると、「職場や仕事の関係」と回答された方は男性が多い一方で「友人・知人・兄弟姉妹を通じて」の割合は女性の方が多い結果となっています。



(2) 5歳階級別

5歳階級別の結果を見ると、年齢が低いほど「学校」が現在の配偶者と知り合ったきっかけとなっている割合が大きくなっています。

30代では、「職場や仕事の関係」がきっかけとなっている割合が多く、30代後半では「友人、知人、兄弟姉妹を通じて」の割合が小さい傾向となっています。



問 25 【未婚者, 離婚・死別】現在、あなたが結婚（再婚）していない理由を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

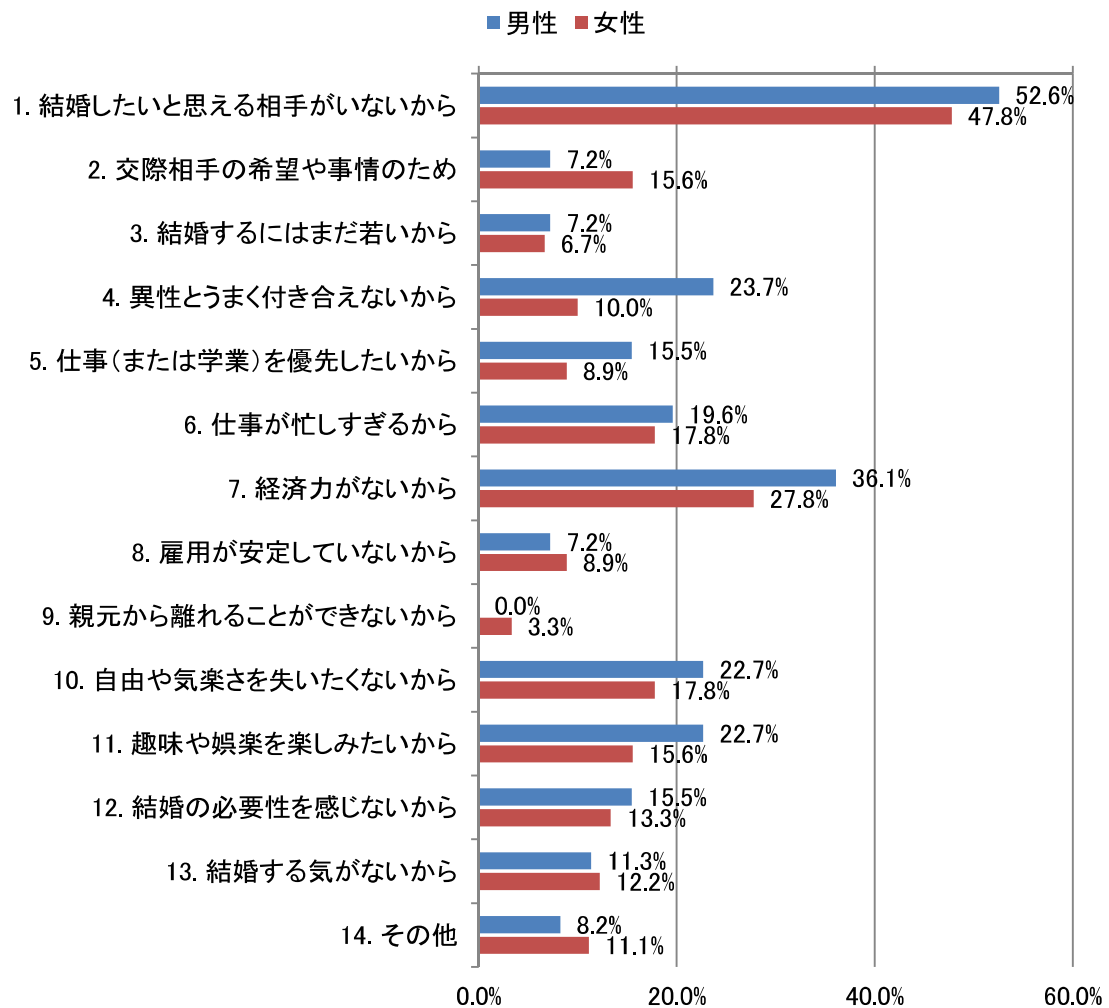
回答者の結婚（再婚）していない理由について、男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答数 男性=97, 女性=90

男女とも「結婚したいと思える相手がないから」が最も多い理由となっています。

男女別の結果を見ると、「経済力がないから」「異性とうまく付き合えないから」という理由は、女性に比べて男性の割合が大きく、その差が大きいものとなっています。



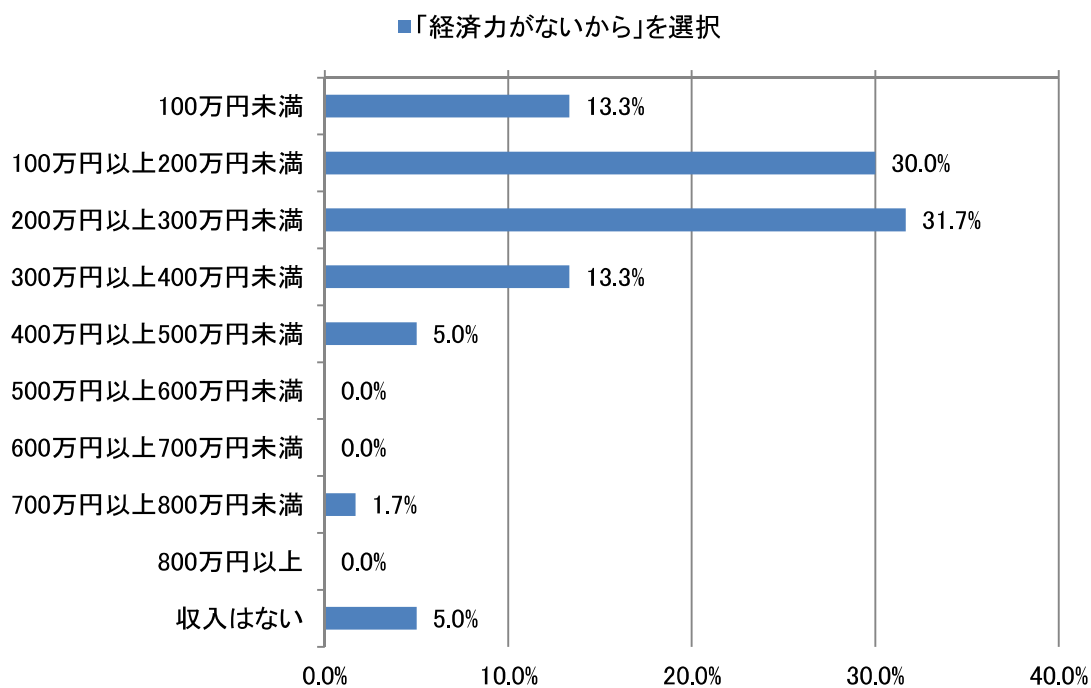
※複数回答のため、合計は100%にならない

(3) 「7. 経済力がないから」×「問9 自分の収入」

問27で「7. 経済力がないから」を選択した方が問9で選択した年収を示しています。

有効回答数=60

「経済力がないから」を選択した者のうち、本人の収入が300万未満と回答した方が7割を超えています。



※複数回答のため、合計は100%にならない

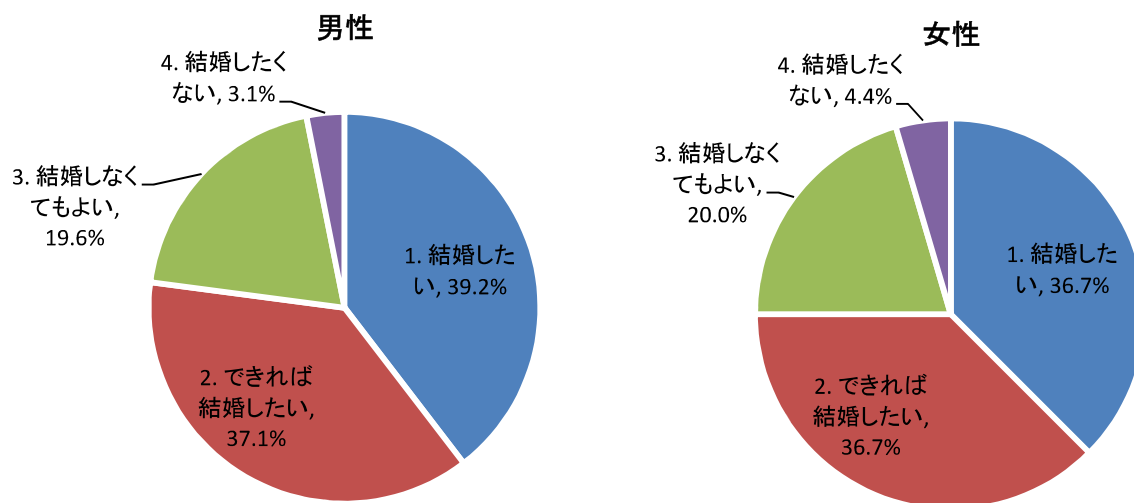
問 27 【未婚者, 離婚・死別】あなたは、結婚についてどのようにお考えですか。
(1つ選択)

回答者の結婚に対する考えについて、男女別、年齢別（5歳階級別）分けた結果を示しています。

有効回答数 男性=97, 女性=90

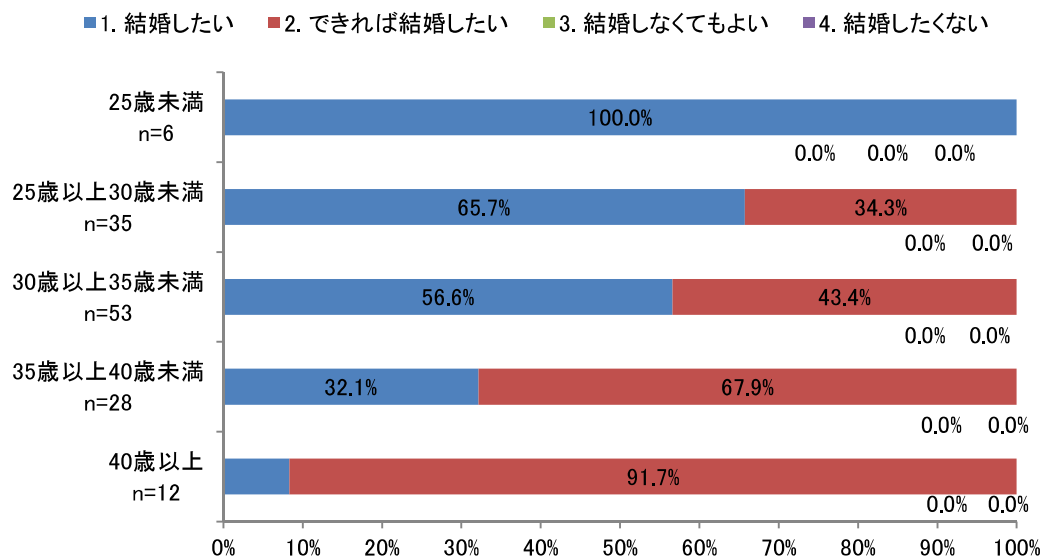
(1) 男女別

男女別の結果を見ると、男女ともに「結婚したい」「できれば結婚したい」と回答した方の割合が7割を超えています。それぞれの回答割合に男女別で大きな差はありません。



(2) 年齢別（5歳階級別）

年齢別（5歳階級別）の結果を見ると、全ての年齢で共通して「結婚しなくてもよい」「結婚したくない」と回答した方の割合は0となっています。また、年齢が上がることに「できれば結婚したい」の割合が増加している傾向にあります。



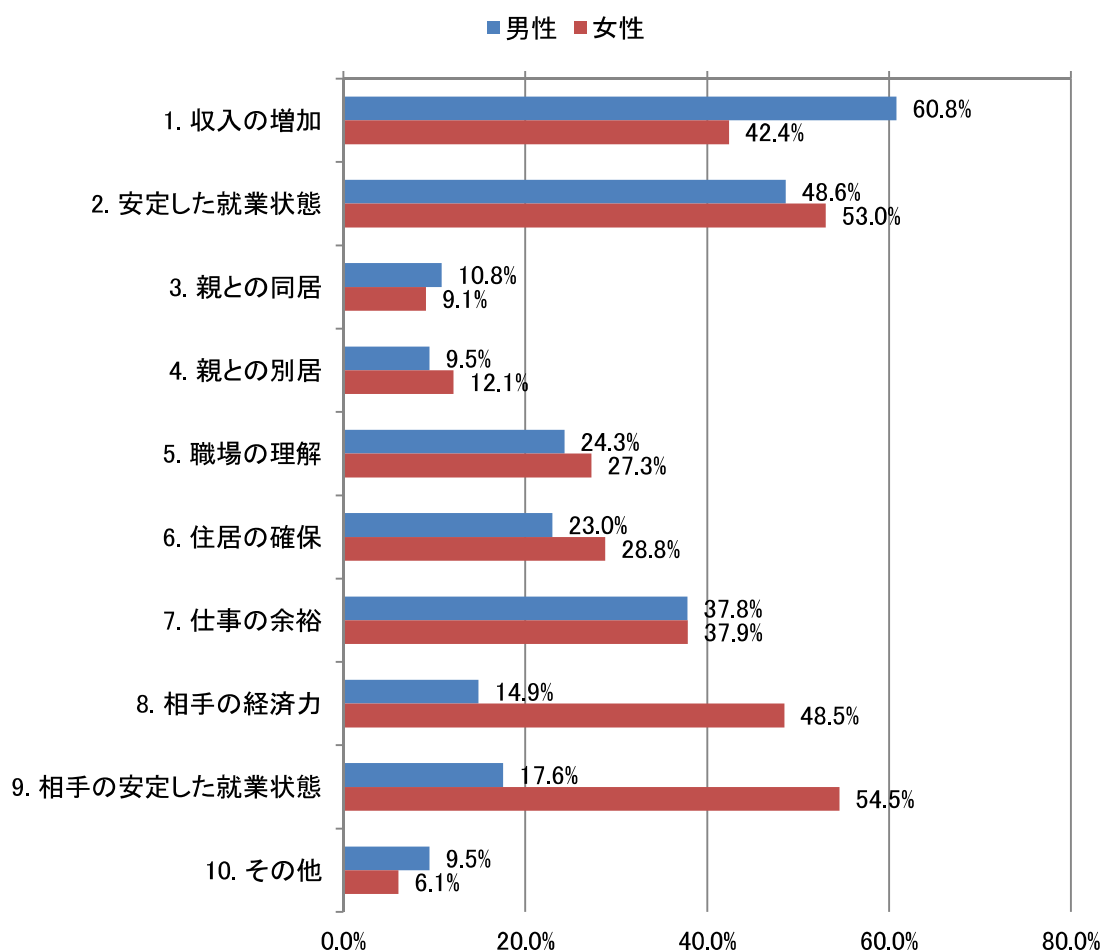
問 29 【未婚者, 離婚・死別】問 27 で「1. 結婚したい」または「2. できれば結婚したい」を選んだ方にうかがいます。今後結婚するとしたら、どのような条件が必要ですか。(あてはまるものすべて選択)

問 29 で尋ねた今後結婚するとしたらどのような条件が必要か、男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答数 男性=74, 女性=66

男女別の結果を見ると、男性は女性に比べて、「収入の増加」と回答した方の割合が大きくなっています。また、女性は男性に比べて「相手の経済力」や「相手の安定した就業状態」を回答した割合が男性の2倍以上となっており、男女差が大きい結果となっています。



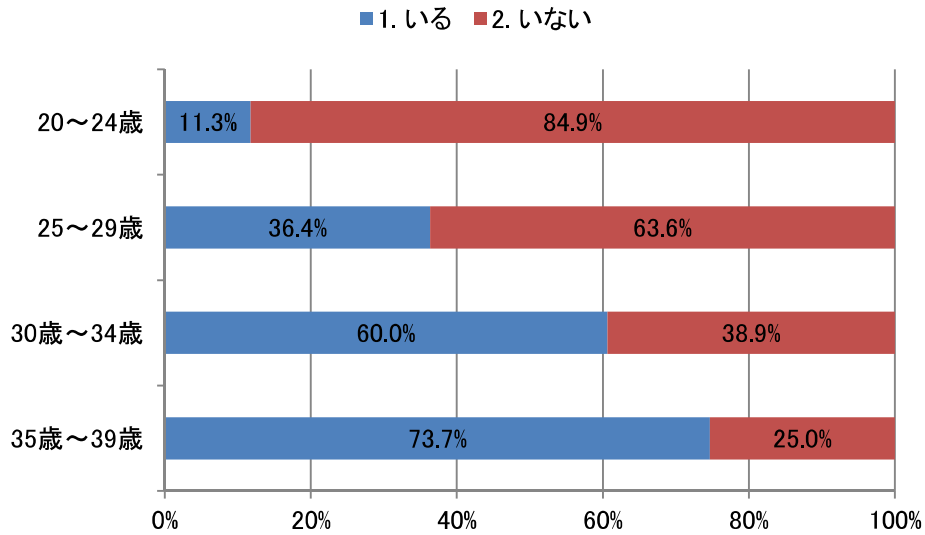
※複数回答のため、合計は100%にならない

問 33 【全員】あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(1つ選択)

回答者のお子さんの有無について、年齢別（5歳階級別）に示しています。

(1) 5歳階級別

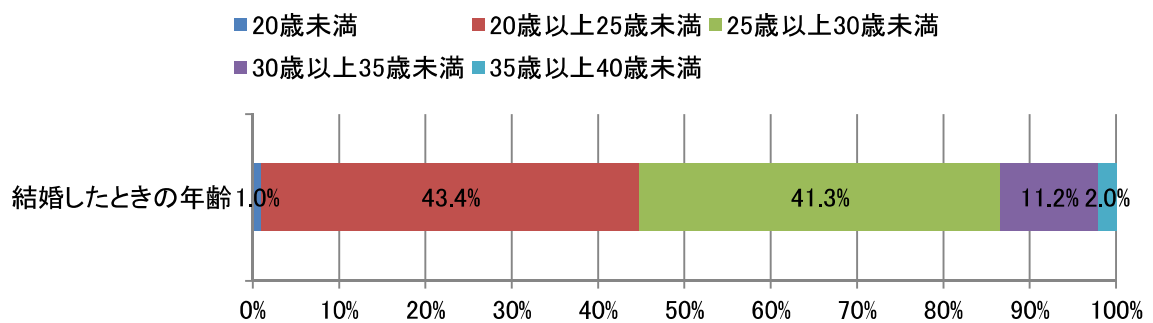
有効回答数=419



(2) 「子どもがいる」と回答した方の結婚した年齢（問 16）5歳階級別割合

有効回答数=219

子どもがいると回答した方の、問 16 で尋ねた結婚したときの年齢を示しています。



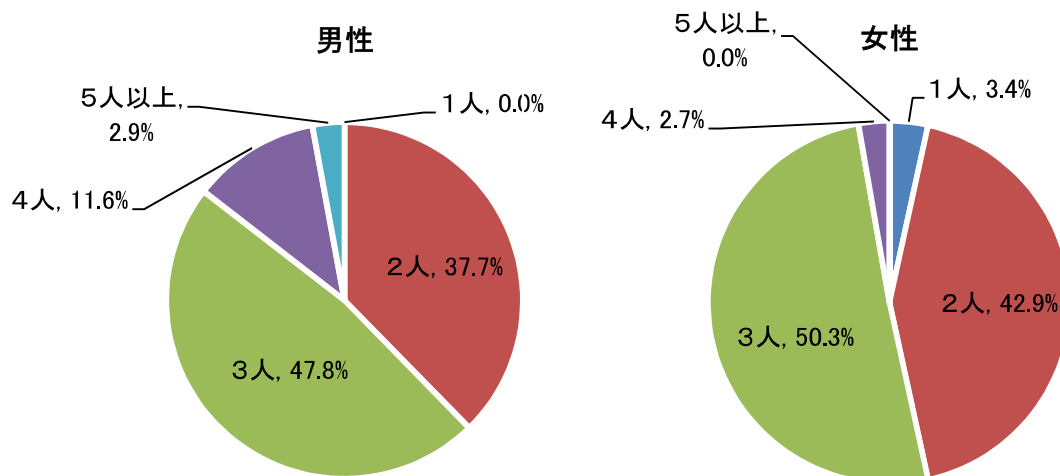
問 35 【子どもがいる】あなたにとって理想の子どもの数は何人ですか。(1つ選択)

回答者の理想の子どもの数を、男女別、問 16 で尋ねた結婚時の年齢別、問 36 で尋ねた第 1 子出産時年齢別に示しています。

(1) 男女別

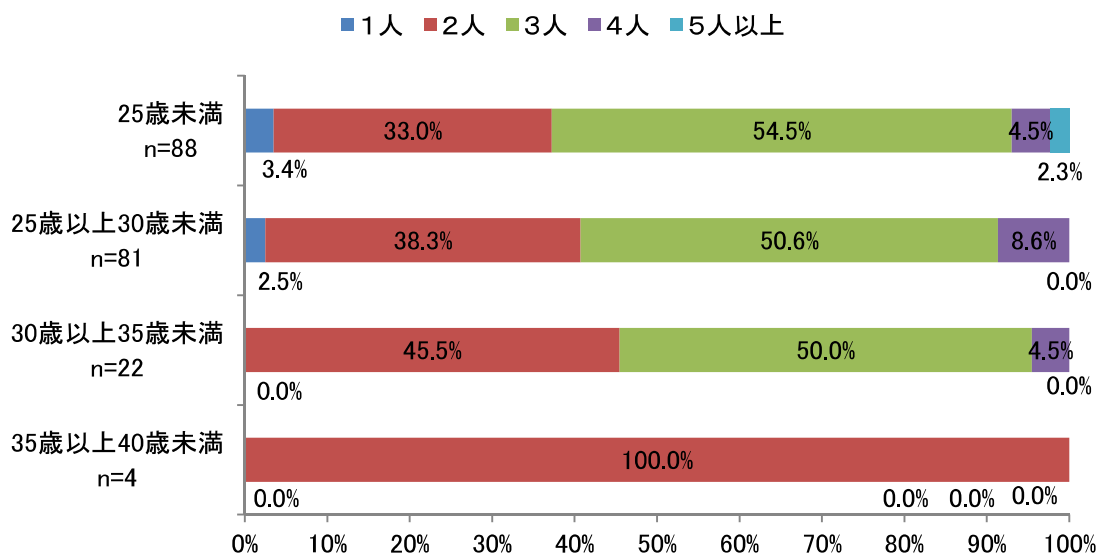
有効回答数 男性=75, 女性=67

男女別の結果を見ると、男女ともに「3人」と回答した割合が最も高い結果となっています。男性のほうが女性に比べて「4人」、「5人以上」を希望する者の割合が大きく、女性との差が見られます。



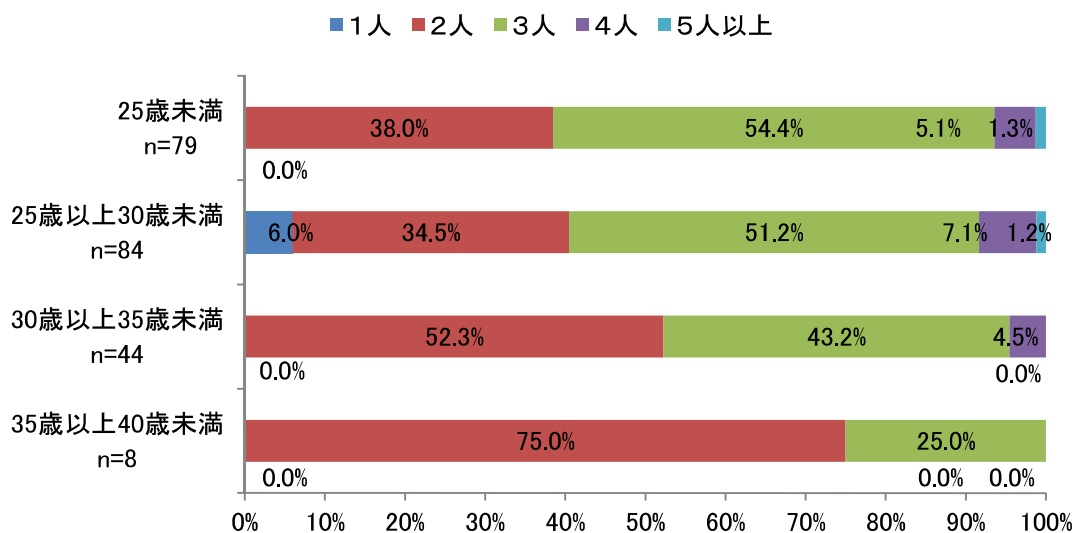
(2) 結婚時の年齢別

「35歳以上40歳未満」を除く年齢で共通して、「3人」と回答した割合が最も高い結果となっています。



(3) 第1子出産時年齢別

30歳未満の年齢では「3人」と回答した割合が多い一方、30歳以上の年齢では、「2人」と回答した割合が多い結果となっています。



問 38 【子どもがいる】 2人目以降のお子さんについてうかがいます。お子さんが1人の方は2人目以降の出産について支障になると想定されること、2人以上お子さんがいる方は出産前に支障だと感じていたことはどのようなことですか。(あてはまるものすべて選択)

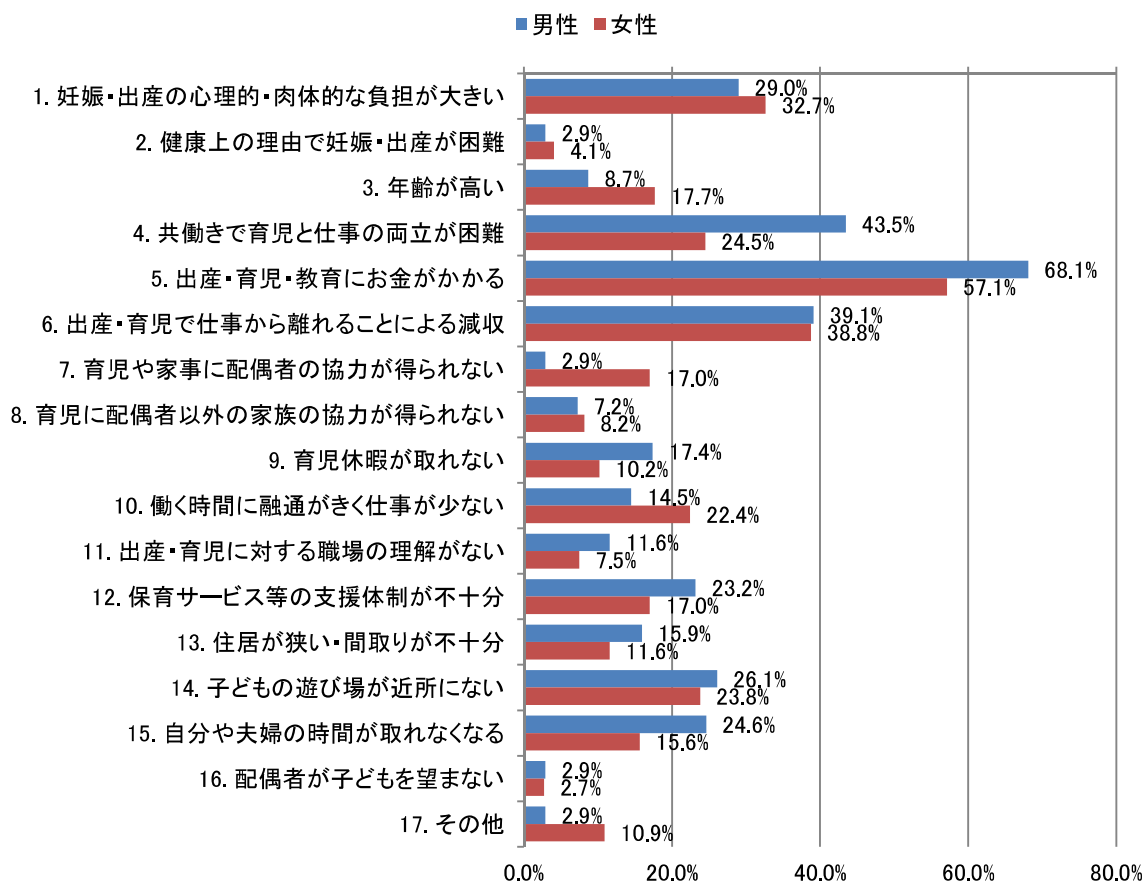
回答者のお子さんが1人の方は2人目以降の出産について支障になると想定されること、2人以上お子さんがいる方は出産前に支障だと感じていたことについて男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答数 男性=69, 女性=147

男女ともに「出産・育児・教育にお金がかかる」が最も回答が多くなっていますが、女性よりも男性のほうがその割合が高くなっています。

また、女性に比べ男性の回答割合が大きいのは、「共働きで育児と仕事の両立が困難」、「育児休暇が取れない」、「自分や夫婦の時間が取れなくなる」であり、一方、男性に比べ女性の回答割合が大きいのは、「年齢が高い」、「育児や家事に配偶者の協力が得られない」、「働く時間に融通がきく仕事が少ない」となっています。



※複数回答のため、合計は100%にならない

問 47 【子どもがない】出産や子育てについて、支障になりそうだと感じることはどのようなことですか。(あてはまるものすべて選択)

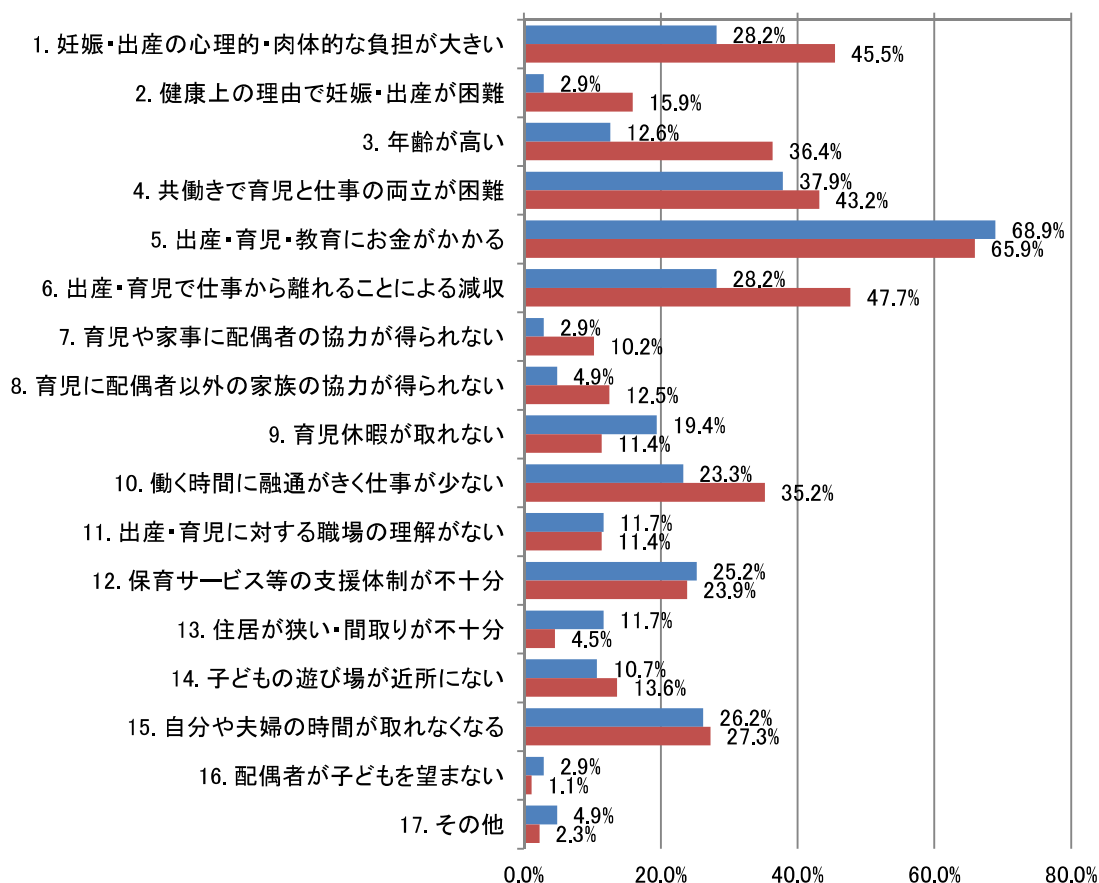
回答者が出産や子育てにおいて支障になりそうだと感じることについて、男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答数 男性=103, 女性=88

男女ともに「出産・育児・教育にお金がかかる」が最も高い割合を示しています。

また、女性に比べて男性の回答割合が大きいのは、「育児休暇が取れない」となっています。一方、男性に比べて女性の回答割合が大きいのは、「妊娠・出産の心理的・肉体的な負担が大きい」、「健康上の理由で妊娠・出産が困難」、「年齢が高い」、「出産・育児で仕事から離れることによる減収」、「働く時間に融通がきく仕事が少ない」となっています。



※複数回答のため、合計は100%にならない

【転出者アンケート】

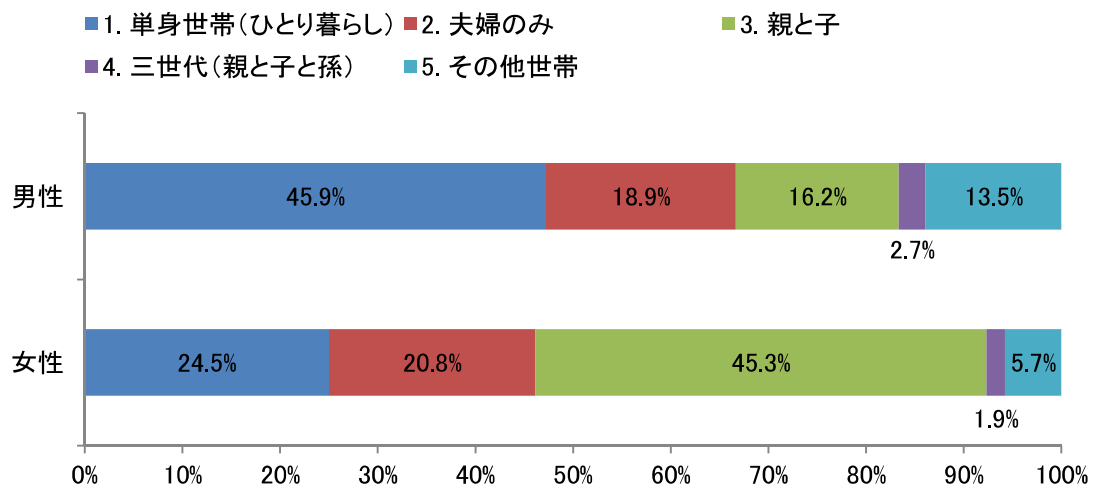
問5 あなたの家族構成を教えてください。(1つ選択)

問5で尋ねた家族構成について、男女別に示しています。

男性では「単身世帯(ひとり暮らし)」が最も割合が高く、女性では「親と子」の割合が最も高い結果となっています。

(1)男女別

有効回答者数 男性=37, 女性=53



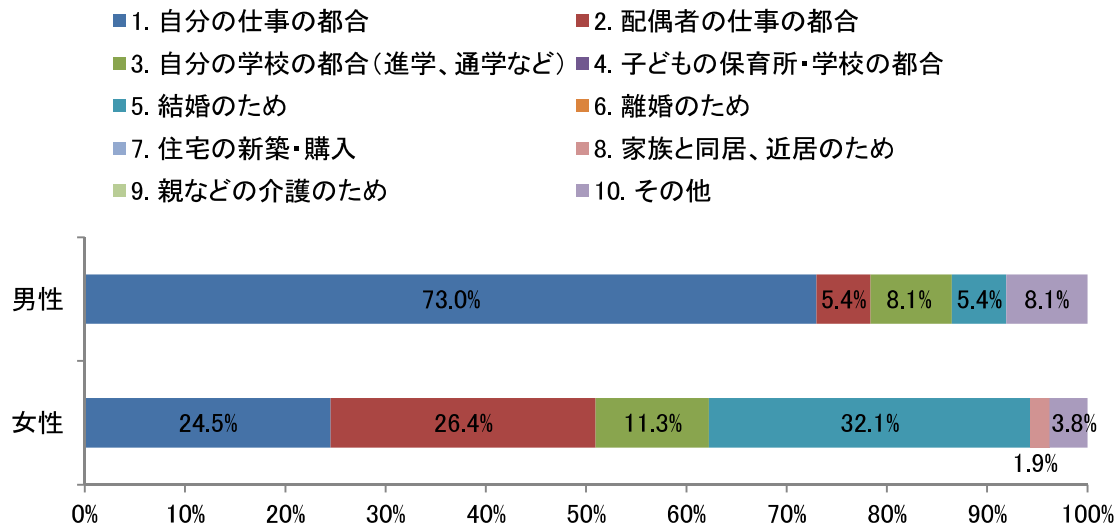
問 13 一関市から転出された主な理由は何ですか。(1つ選択)

問 13 で尋ねた転出理由について、男女別に示しています

(1) 男女別

有効回答者数 男性=37, 女性=53

男性では「自分の仕事の都合」が最も割合が高い一方、女性では「結婚のため」が最も高い結果となっています。



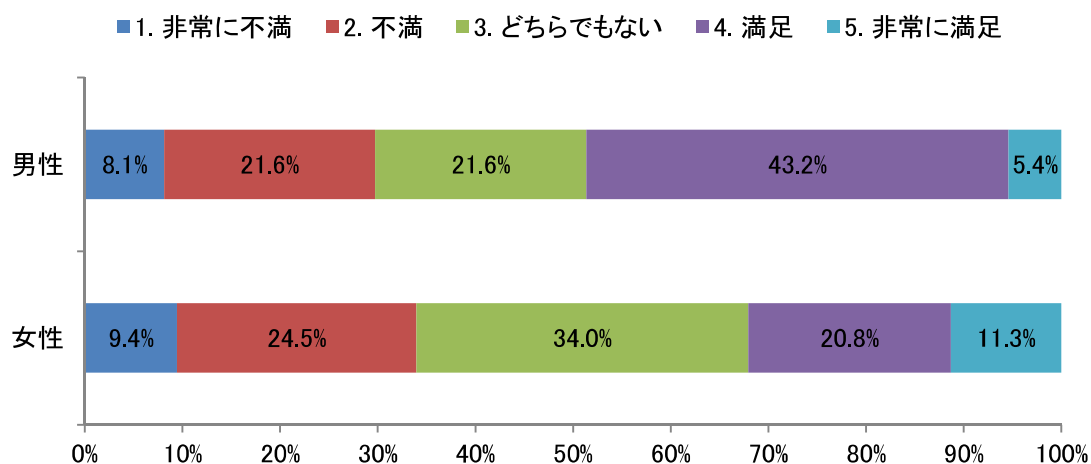
問 19 一関市の満足度 現在お住まいの市区町村と比べて、一関市の生活環境の満足度をうかがいます。次の各項目について、1「非常に不満」～5「非常に満足」の5段階評価で、あてはまる番号を1つ選択してください。

問 19 で尋ねた一関市の満足度について、男女別に示しています

男性は、「非常に満足」と「満足」の割合が 48.6%であるのに対して、女性は 32.1%となっています。

(1)男女別

有効回答者数 男性=37, 女性=53



問 23 一関市が若者から住んでみたいと思われるまちになるためにどのような分野に力を入れればよいと思いますか。(あてはまるもの3つまで選択)

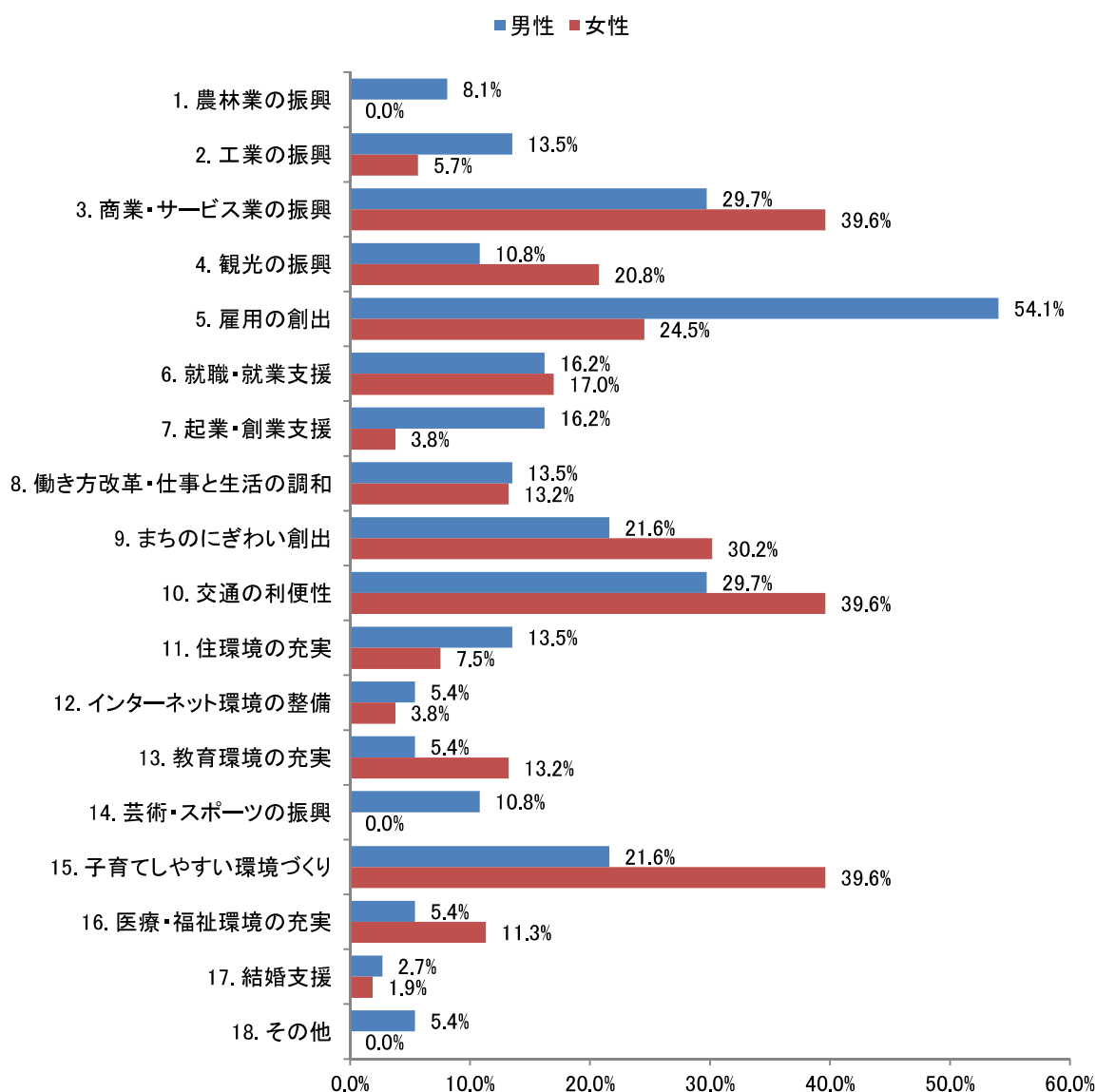
問 23 で尋ねた若者から住んでみたいと思われるまちになるために力を入れたほうがよい分野について、男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答者数 男性=37, 女性=53

男性では、女性に比べて「工業の振興」、「雇用の創出」の回答割合が2倍となっています。

一方、男性に比べて女性の回答割合が大きいのは、「商業・サービス業の振興」、「観光の振興」、「まちのにぎわい創出」、「交通の利便性」、「教育環境の充実」、「子育てしやすい環境づくり」となっています。



【転入者アンケート】

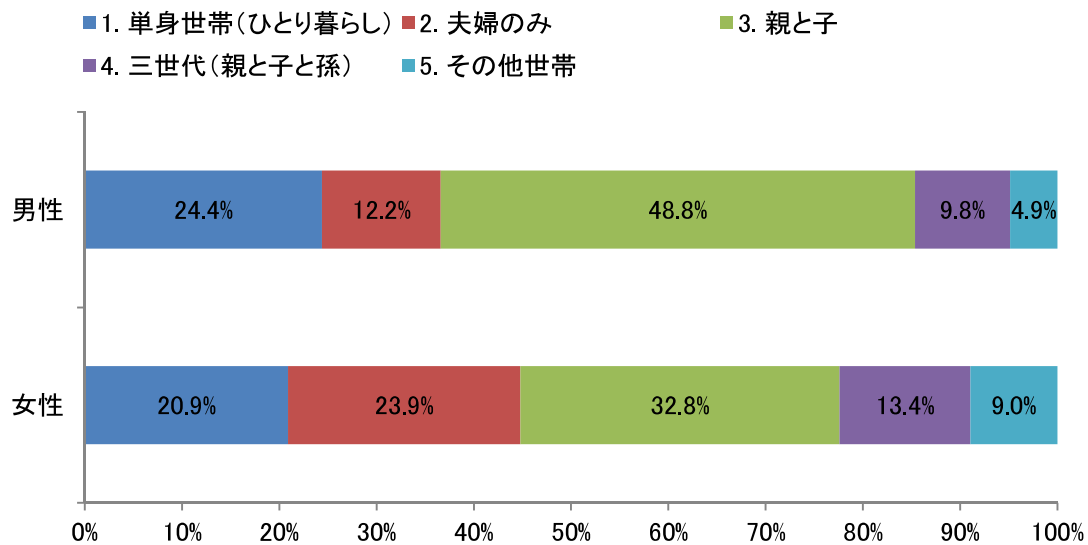
問5 あなたの家族構成を教えてください。(1つ選択)

問5で尋ねた家族構成について、男女別に示しています。

男女共に「親と子」の割合が最も高い結果となっています。

(1) 男女別

有効回答者数 男性=41, 女性=67



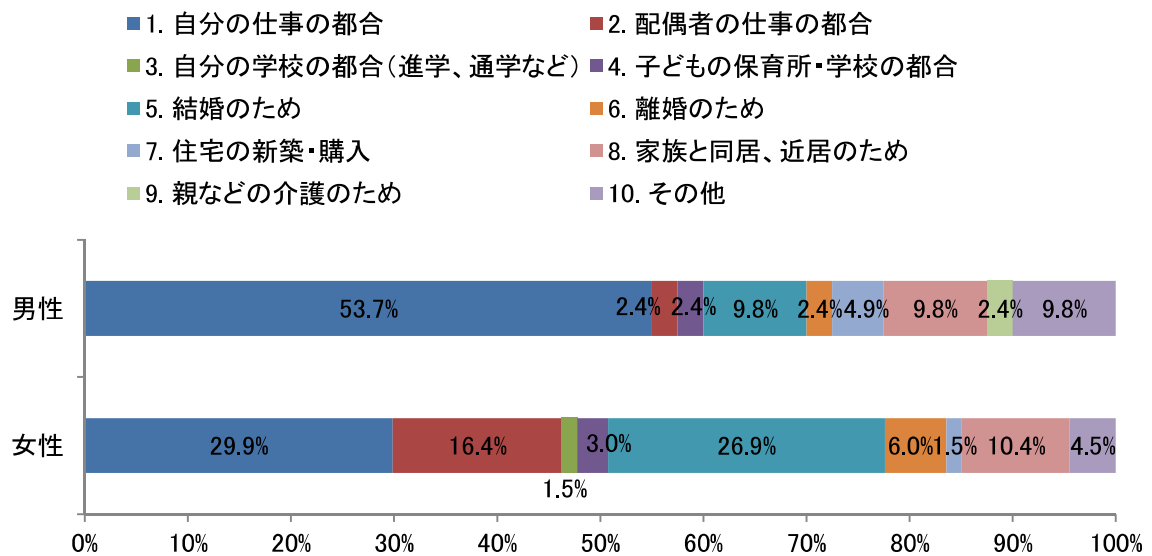
問 13 一関市に転入された主な理由は何ですか。(1つ選択)

問 13 で尋ねた転入理由について、男女別、問 12 の以前一関市に住んでいた・いない別に示しています。

(1) 男女別

有効回答者数 男性=41, 女性=67

男性では、「自分の仕事の都合」最も割合が高い一方、女性では、「結婚のため」が最も高い結果となっています。



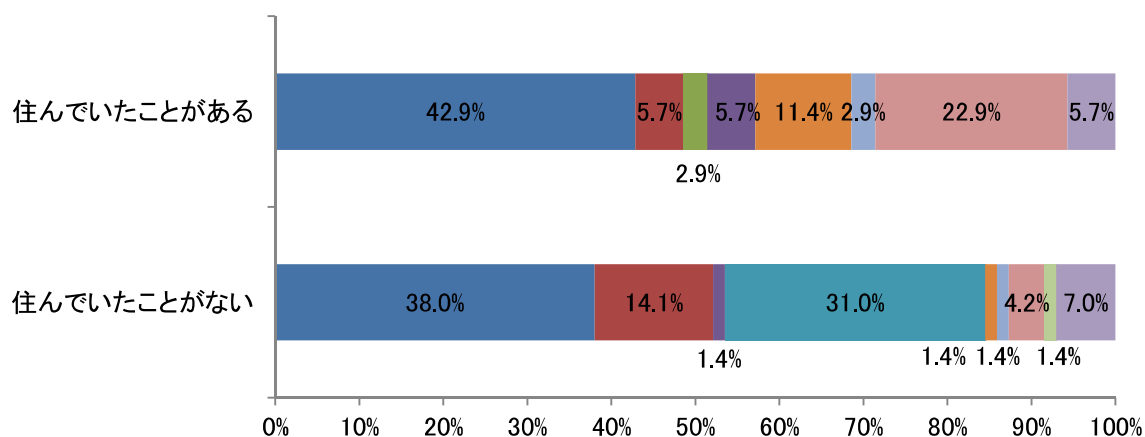
(2) 問 12 の以前一関市に住んでいた・いない別

有効回答者数 住んでいたことがある=35,住んでいたことがない=71

「住んでいたことがある」人では、「住んでいたことがない」人に比べて、「離婚のため」、「家族と同居、近居のため」の割合が高い結果となっています。

一方、「住んでいたことがない」人では、「住んでいたことがある」人に比べて、「配偶者の仕事の都合」、「結婚のため」の割合が高い結果となっています。

- 1. 自分の仕事の都合
- 2. 配偶者の仕事の都合
- 3. 自分の学校の都合(進学、通学など)
- 4. 子どもの保育所・学校の都合
- 5. 結婚のため
- 6. 離婚のため
- 7. 住宅の新築・購入
- 8. 家族と同居、近居のため
- 9. 親などの介護のため
- 10. その他

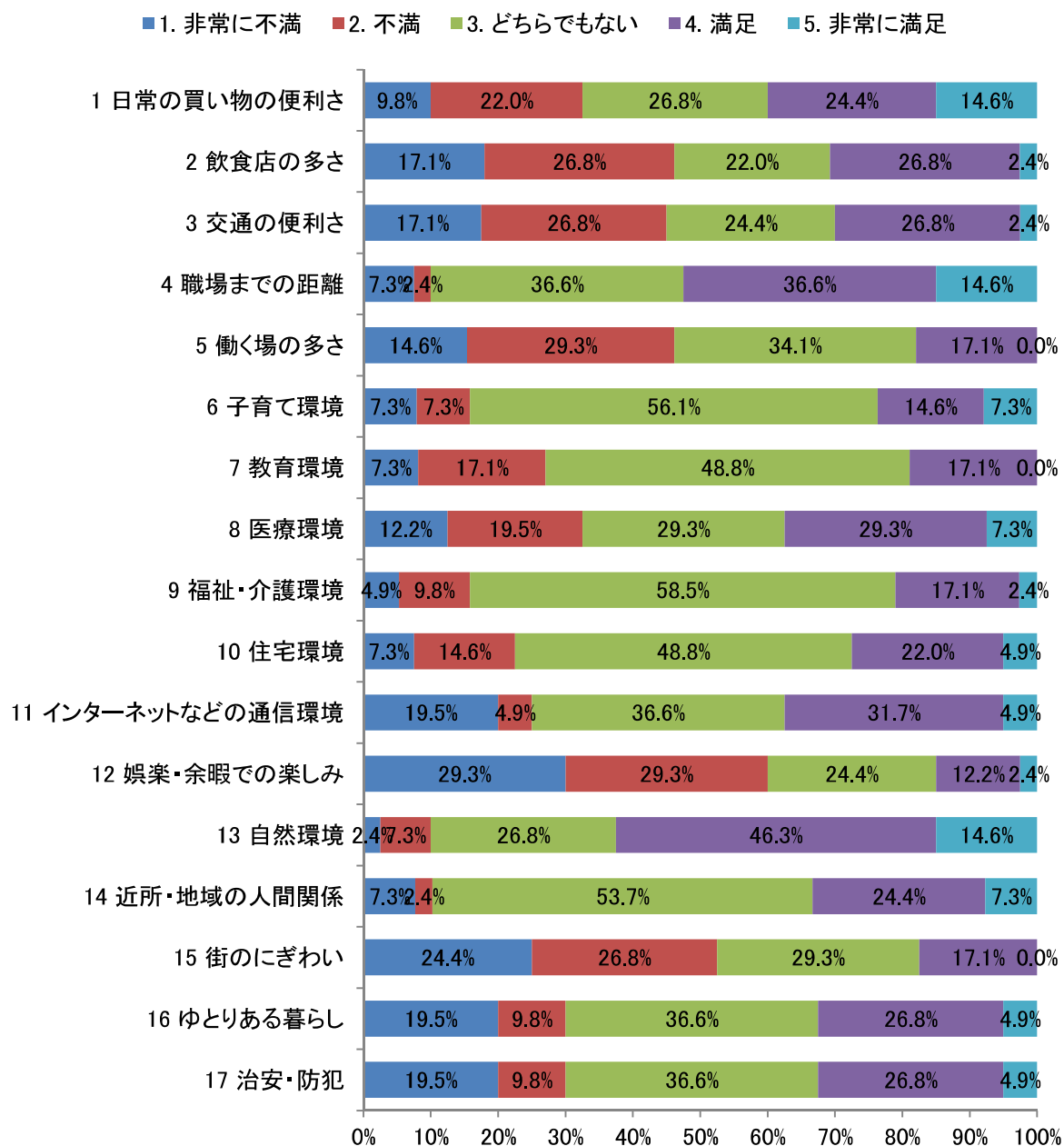


問 26 以前にお住まいの市区町村と比べて、一関市の生活環境の満足度をうかがいます。次の各項目について、1「非常に不満」～5「非常に満足」の5段階評価で、あてはまる番号を1つ選択してください。

問 28 の満足度について尋ねた結果について、男女別に示しています。

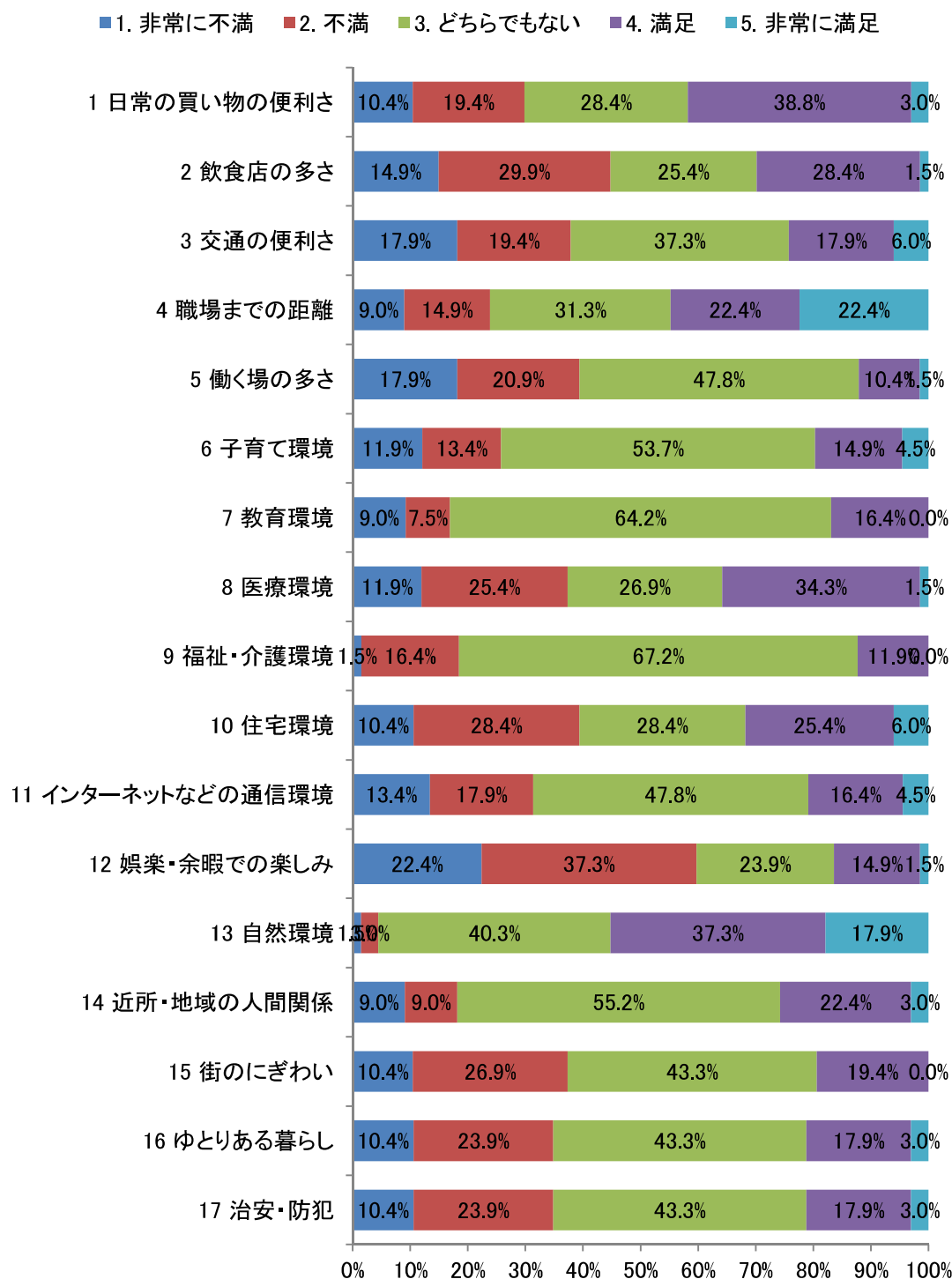
(1) 男性

有効回答者数 男性=41



(2) 女性

有効回答者数 女性=67



問 27 一関市が若者から住んでみたいと思われるまちになるためにどのような分野に力を入れればよいと思いますか。(あてはまるもの3つまで選択)

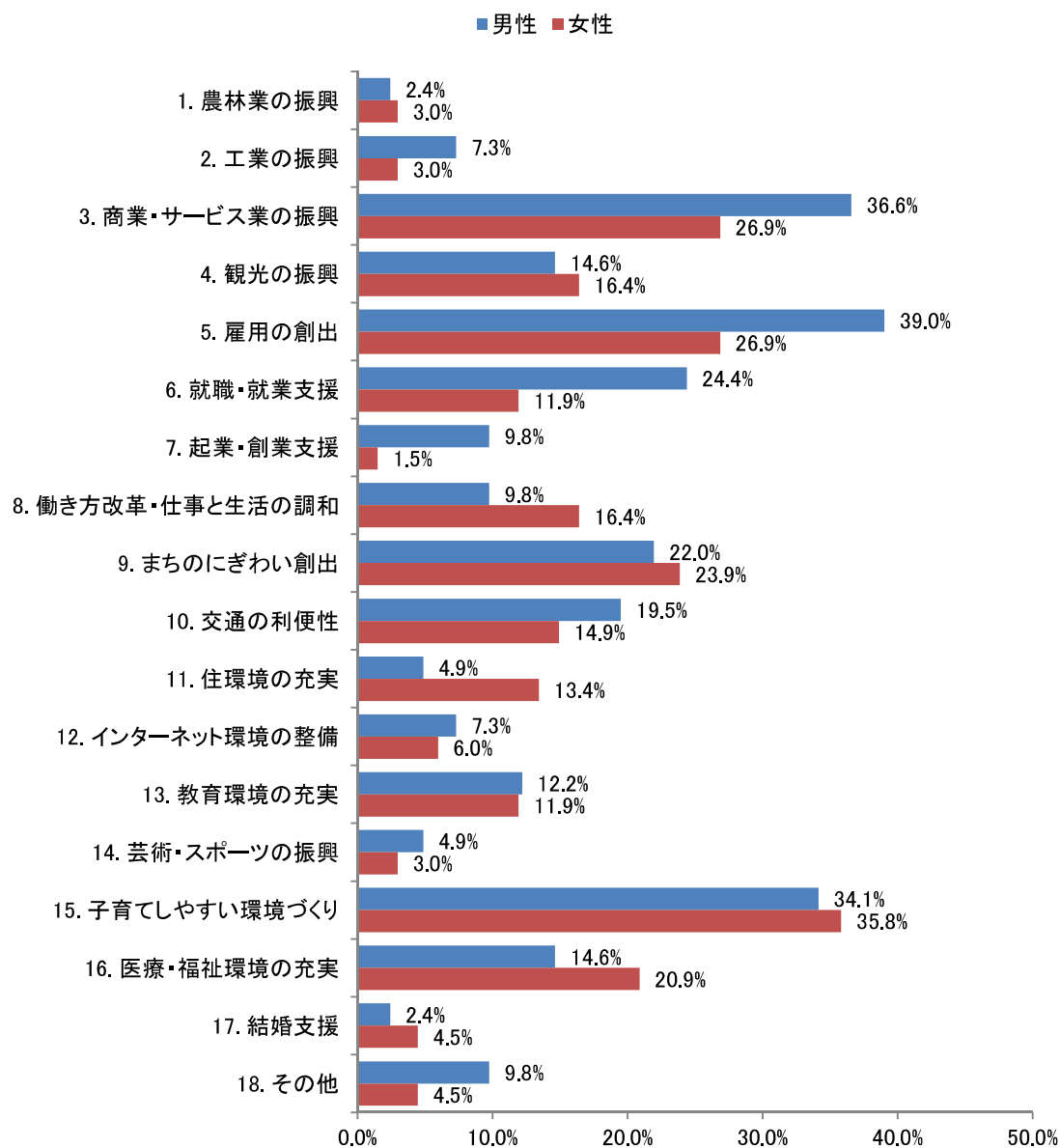
問 23 で尋ねた若者から住んでみたいと思われるまちになるために力を入れたほうがよい分野について、男女別に示しています。

(1) 男女別

有効回答者数 男性=41, 女性=67

女性に比べて男性の回答割合が高いのは、「商業・サービス業の振興」、「雇用の創出」となっています。

一方、が最も高い割合となっている一方、女性では「働き方改革・仕事と生活の調和」、「住環境の充実」となっています。



第1回市民ワークショップの結果

コミュニティ

令和2年1月30日(木)
第4回まち・ひと・しごと創生有識者会議【参考資料】

	感じる		感じない	
一関	三世同居の家庭は孫がコミュニケーションのきっかけになっている	家族との関係	男同士で親と二人暮らしだと会話は少ない	家族との関係
	子供が就職などで遠くに暮らしていても連絡手段はたくさんある		仕事をしていると生活の違いでコミュニケーションがとれない	
	介護が必要になった時のことは元気うちに子供たちに話している			
	地域の中で役割が与えられているのでつながれている	地域社会とのつながり	役がなくなるとつながりがなくなる	地域社会とのつながり
	市民センターがあるから集まっているのだと思う		区長や民生委員で見回りをしているのが家の把握が難しい	
	他地域から引っ越してきたが、地域や住民との距離が近いと感じる		仕事をしていると地域の情報が入ってこないし、気にする余裕がない	
			家族の中で情報が止まっている	
			情報を得ようとしても何から調べたらいいかわからない	
			自主防災が若者とつながれていない	
			冠婚葬祭のやり方も変わって、つながりも減ってきた	
旧一関のまちばは選択肢がある	住まいの快適	まちばから離れると生活環境は不便になる	住まいの快適	
生協の配達などもあるから、今は困っていない		運転ができなくなったら不安が多くなる		
仙台やインターネットで買い物ができる		買い物は配達があるが、病院は交通手段が必要		
必要最低限のインフラ、インターネットはそろっている		交通体系は乗り継ぎなどが分かりにくい		
		高齢者はバス停までが遠い		
		下水が通っていない地域は不便を感じる		
		中山間地域は冬場の道路や急こう配などの改善が必要		
		草刈りや環境整備に出てくる人が減って大変		
		空き家が増えて、防犯、防災の面で心配		
		高齢者の一人暮らし世帯は、クーラー等住環境が整っていない		
	施設に入れないのであれば、住環境整備補助ができないのか			
		新しいアパートは入るが、古くなると入らなくなる		
趣味や友達と会ったりしている	余暇の充実	自分のやりたいことがどこにあるのかわからない	余暇の充実	
地域ではなく、同じ趣味で楽しめる仲間とのつきあいがある		若者の遊び場が少ない		
		必ずしも人との交流を求めているわけではない		
家族全員が一緒にの時間にご飯を食べている	家族との関係	仕事の関係で一緒に食事は難しい	家族との関係	
		嫁ぎ先のおじいちゃんが難しく、感覚が違う		
		家族間でも言いたいことが言える環境ではない		
		老後のたくわえが少なく、楽しみが減るのでは？		
		子育て環境は充実しているが、親子のコミュニケーションが少なくなった		
近所で炊き出しを行うと、子どもを含めて参加がある	地域社会とのつながり	近所同士のお茶のみは少なくなった	地域社会とのつながり	
新規就農支援で若い人が室根に来るようになった		昔から自治会と協働体とのつながりは弱いと感じている		
気仙沼から室根に来たが、地域から声がかかると嬉しい		あて職が多く、役という点ではつながりになるが、それ以上の関係にはなっていない		
藤沢きのみっくらぶは、地域で子供を見てくれるので良い		地域に関わる人がいない		
曾慶の夏祭りを復活させ、子どもたちが参加するようになった		働き方改革で役のなり手がますます高齢化		
猿沢は、水沢や江刺、一関へ行ける	住まいの快適	車がない人は周りに店がないので大変	住まいの快適	
産直で新鮮野菜が買える		スタバなどの自分好みの店がない		
		商品のラインナップが多すぎる		
		藤沢には電車もバスもないため、へき地だからこそ先に取り組んでほしい		
充実している	余暇の充実	忙しすぎて充実していない	余暇の充実	
		やることがあるから生きがいがになり、余暇だけではなく日々の充実がないと幸せではない		

健康・福祉・子育て

		感じる	感じない	
一関	関心を持ち続けている	心や体の健康	漠然とした不安	心や体の健康
	健康に関する資格などを取得した		周囲に弱ってきている人が増えているし不安	
	自立できているという点で健康だと思う		市内の病院では解決できず県外に行っている	
	好きなことをしていると健康でいられる気がする		かかりつけ医というが個人病院には限界がある	
	社会とのつながりを持ち続けることが精神的な健康には大事		個人病院の数は多いが、診療レベルに限界がある	
			個人病院の接遇にも問題がある	
			信頼できるホームドクターの存在が心の健康にもつながる	
			通院したくても足が足りない	
			デマンドでは緊急時に対応できない（救急車を呼ぶまででもないとき）	
	一関は介護施設等には恵まれている方だ	介護のしやすさ	施設はあっても入所までに時間がかかる	介護のしやすさ
			施設はあっても費用が高額で簡単には利用できない	
			介護は経済状況によって大きく変化する	
			介護認定が担当者によって差が大きい	
			介護認定基準の曖昧さ	
	順番待ちと言われているが、いつになったら順番がくるか目途がたらず不安			
	介護施設もビジネスで利用者を選び、大変な人ほど受け入れない			
	一人暮らし世帯が増え、介護してもらえない人の存在がある			
	地域として協力しようにも情報が少ないためサポートできない			
	地域に住んでいる専門職の人達との連携が必要			
しやすいとまでは言えないが、不便とは感じない	子育てのしやすさ	地域で子育てする意識の低下	子育てのしやすさ	
三世代同居が理想であり、地域柄そうした世帯も多い		地域の子供たちに何かしてあげたいが、機会がないのと拒否される		
同居はしていないが100km圏内に住んでいるため同居同様にサポートできている		保育士不足により待機児童問題は未だにある		
児童相談所への相談件数は少なく、その分フォローがしっかりしている		不登校の増加		
		発達障害の子どもたちが増えてきて、先生たちの負担も大きくなっている		
		支援学校と普通学校の連携はもっとできる		
		ひとり親家庭など、子どもの貧困が市内にもある		
	子育てにける費用は、親の健康状態にも大きくかわる			
千厩	地域の人と距離感が近いので、近場だとどこに行っても知り合いということが多い	心や体の健康	今は健康だが、将来的に医療をスムーズに受けられるか心配	心や体の健康
			若者は、距離感が近いのを嫌がって外に遊びに行く	
			高齢者の運転が心配	
			受診時間や救急車の利用、かかりつけ医など市民の意識がよくない	
			仕事をしていても日中に受診できる雰囲気や環境が整っていない	
			医療の現場は人手不足で、病院も国や県の方針などしらがみがある	
			在宅医療スタッフの確保が必要	
	子どもが結婚して、夫や妻がいても自分の実の子を頼ることが多い	介護のしやすさ	施設に入れないし、在宅でも仕事があって大変	介護のしやすさ
			どちらにしてもお金がかかる	
			核家族、高齢独居が増え対応が難しくなった	
		子育てのしやすさ	子どもたちが外で遊べる場所が減ってきている	子育てのしやすさ
			外で遊びたいが熊が出る	
			車、バスでの送迎が多く、子どもが歩かなくなっている	
			放課後に見守ってもらえるサポートはほしい	
	仕事中的子どもの通院が難しい			
	40～50代のニートが心配			
	子どもも将来、そうならないようにしたい			
	制度や地域から外れた人、孤立した人への支援をどうするか？			
	フリースクールがない			
	発達障害などの人への支援も必要だが、その親へのサポートも必要			

安心・安全

	感じる		感じない	
一関		自然に恵まれているか？	公園を管理している自治会や人が高齢のため整備がされていない	自然に恵まれているか？
			釣山をウォーキングコースで整備してほしい	
			平泉でしているライスアートを一関ではしていないが、新幹線に乗っている人にはPRするチャンス	
			外から見ると緑豊かな土地に見えるが、住んでいる人は不便を感じる	
			緑が大切と言うが二酸化炭素を吸うのは若い木で、ある一定の時間が経過した木は機能しない	
			空き家や森林の所有者が高齢化もしくは亡くなっていることが多く活用できないため、所有権が移動できる仕組みが必要	
			川も整備をしないと荒れてしまうため、川の整備も大事	
		お住まいの地域は安全ですか？	地域の特性もあるかもしれないが、家や車のカギをかけない	お住まいの地域は安全ですか？
			外灯が少ない	
			空き巣の被害が地域で多数発生していたが、地域内で声がけをしたおかげで被害はおさまった	
			蓋なしの側溝があるので雪の日は危険	
			道路沿いや山の中にある電柱近くに手入れがされない木があり、台風などの倒木で心配になる	
			夜の消防署に待機している職員が5~6人ほどなので、災害や緊急なことが同時に起こると対応しきれない	
			歩行者の信号無視を見かけることがある	
	信号のない道路で道路幅も同じところがあるが、どっちが優先かわからない			
	交差点で加速する人を多く見るが、危険と感じる			
	携帯電話のために停車している車があるが、はっきり言って迷惑行為であり危険行為			
	右折、左折するところに木や店があると見えづらい			
	狭い道や住宅地をダンプが通るが、スピードを落とさずに走ることがよくある			
	獣害問題は深刻な問題			
	外国人労働者や観光で訪れる外国人が多くなってきているが、風習の違いで問題が起きないか心配			
千厩	何もない=自然しかない	自然に恵まれているか？	草刈り等環境整備をする場所が多すぎる	自然に恵まれているか？
	山、川、木が豊富		農地の転用、農地の貸し出しに様々な条件がある	
	フクロウなど動物がたくさんいる		震災による放射能の影響で山が荒れてきた	
	山菜取りができる		獣害の増加（熊、イノシシ、シカ）	
	狩猟ができる		川が多いため、水害も頻繁に発生	
	人間はアナログな要素で作られている			
	そもそも人が少ないので変質者等には気づきやすい	お住まいの地域は安全ですか？	安心して暮らしてはいるが安全とは言い切れない	お住まいの地域は安全ですか？
			安全であることに越したことはないがハード面に限界がある	
			近年の自然災害への不安は大きくなっている	
			地域によっては頻繁に水害が起きている	
			ペットを飼っている人は多いが、避難所の仕組みが作られていない	
			医療ケアが必要な人への対応へのノウハウ不足	
			指定避難所に避難するルートの中に水害箇所が含まれていた	
			空き家は動物の住処になってしまうことの不安	
	空き家が犯罪者の拠点になってしまうことの不安			
	学校統合でスクールバスの運行による通学路がなくなったため未整備状態			
	夜道が暗い			
	スクールバスが当たり前になり肥満児が増加			
	ネット犯罪の被害者は市内でも発生し、子どもたちもSNSの利用でターゲットになりうる			
	登校時の声掛け事案、不審者に間違えられる			
	スピード超過の車が多い			
	コミュニティの希薄化に伴う不安			

教育・文化

	感じる		感じない	
一関	子どもの頃から文化や歴史に触れる場はある	地域の文化や歴史に誇りを感じるか？	地域芸能分野は盛んであるが、集落ごとの継承には限界が見えてきている	地域の文化や歴史に誇りを感じるか？
	地域柄人とのつながりが深い、つながりという文化は素晴らしいものだと思う		小学校での取り組みが継承の一つであったが統合により継承できなくなっている	
	協働体の事業を通し、地元の歴史など再発見する機会ができています		保存会という新たな仕組みが必要	
	自分の地域を知りたいという人が多く、歴史研修会事業などは需要が高い		守るぞという集落の連携が薄れてきている	
			仕事、子育てがひと段落して地域文化に関わろうと思うが、入り口が分からない（相談する場がない）	
			歴史はあるけど、昔の書き物が残っていない	
			情報の受け手の市民のキャッチ力が弱い	
			市広報を見ても欲しい情報がない、見つからない	
			市広報はマガジン化され、市民が欲しい情報が少ないため、分野別だったり市民が欲しい情報を整理	
一関	市民センターの放課後の居場所づくりでボランティア登録をしている	子どものためになる教育	近くに子どもがいないので、どんなことが行われているのか分からない	子どものためになる教育
	集落行事が盛んで子どもたちとの交流を図っている		学校統一バス通学により子どもとの接点なくなった	
	企業が自然体験の場を提供しており、お米ができるまでの環境を整えている		家に子どもがいないと最近の子ども達の様子は全く分からない	
	自然環境がいいのは、子どもたちの学習環境にも良い		学校から地域に情報が来ないため接点がない	
			スクールバス利用前は、草刈りや雪かきなどの時にあいさつを交わすことができていた	
			集落行事に小さいうちは参加するが、高学年になるにつれ参加しなくなる	
			スポ少はなぜ忙しいのか？	
			参加できる環境は整っているのに参加が少ない	
			学校の勉強より、生きていくための学習環境が必要	
			新採用職員は電話対応もできていないくらい現代病	
一関	図書館などの施設が充実している	あなた自身が学習する環境	ユーチューブなどで学ぶことができる時代だが、人と話し交流しながら学ぶ意識が低下している	あなた自身が学習する環境
	図書館は、ない本も調べて取り寄せてくれるので助かる		情報は発信されているが、キャッチ力が不足	
	図書館は、別の地域でも返却できるので良い仕組み		市広報は内容を見直し、分野別で市民に必要な情報を発信してほしい	
	スマートフォンで学習できる時代なので、場所を問わず自分が学びたいことの学習はできている			
	農業関連の研修は充実しており、案内があれば参加している			
	小学生限定の市内企業巡りはとても良い			
	大人版があればぜひ参加してみたい			
千厩	知らないだけで、たくさん史跡がある	地域の文化や歴史に誇りを感じるか？	市民がいろんな史跡を知る機会やアプローチが少ない	地域の文化や歴史に誇りを感じるか？
	自然豊かな史跡や景勝地がある		地域資源を大人たちが教える状況になっていない	
	歴史や文化が色濃く残っていて奥が深い		関係性と役割があいまい	
	学校で地域の歴史を学ばせている		子どもたちが地域の歴史を知る機会が少ない	
			子どもが減っており、伝統行事の子どもが担う役の子ども集めが大変	
			室根大祭など役によって出るのにお金がかかり、継承の支障になっている	
千厩	小規模保育園で少人数でも見てくれる環境がある	子どものためになる教育	施設より人と人とのつながりがないとダメ	子どものためになる教育
	温水プールでいつでも泳げる環境にある		一関市の奨学金が利用されていない	
	プールやグラウンドが各地にありスポーツが盛ん		医療関係は奨学金を使って早くから人材確保した方がよい	
	スポーツ関係の施設が整っている		高校生の職場体験がない	
	子どもの医療費無償化		教える大人と子どものつながりが少ない	
	市内の小学校6年生すべてに経済を学ぶ機会の案内を出す取り組みをしている		父兄以外の一般の方も・・・になっておらず子どもと触れ合う機会が少ない	
	地域の特産品を扱うことで地元の商品を知る機会になっている		スクールバスで移動するため地域に子どもの姿が見えない	
			地元での子どもとの触れ合いがない	
			小学校で英語を教える先生のスキル不足	
			子どもに挨拶しても不審者扱い	
	スポ少の負担が多い			
千厩	ネット環境が整っており、調べものがネットでできる	あなた自身が学習する環境	施設の方からの案内がない	あなた自身が学習する環境
	市民センター講座など自分がやろうと思えばできる環境はある		自分の居住地はネット環境が整っておらず、スマホの圏外なので情報的に孤立している	
	職業訓練協会でも講座を開催している		無料の講座に参加したくても上司がOKを出さない	
	図書館はリクエストすれば早く対応してくれる		女性が活躍することに対する男性の嫉妬 社会人が学べる場としての大学がない	



一関市総合計画後期基本計画策定に向けて
始まった市民WS＝市役所本庁

暮らし満足度へ意見

市・後期 基本計画 策定向け2カ所でWS

一関市総合計画後期基本計画（2021～25年度）策定に向けた第1回市民ワークショップ（WS）は14日、市内2カ所で開かれた。「一関の暮らしの満足度」をテーマに参加者が意見交換し、働き方や生活の多様化による地域住民のつながりの希薄化や防災意識の高揚、就労の選択肢確保などが今後のまちづくりに向けた課題として挙がった。次回WSでは、同日出された課題の解決策について話し合う予定で、市政企画課は「WSの結果を踏まえた計画の素案を審議会に示し、意見を頂きたい」としている。

市は19年度、市の最上位計画となる総合計画の前期基本計画が20年度で終了することから、21年度を初年度とする後期基本計画の策定作業に着手した。社会・経済情勢の変化や前期計画の成果などを踏まえ、後期5カ年における市政運営の基本方針とする考えで、持

続可能なまちづくりを展開するため、26年度からの次期総合計画を見据えつつ、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を生かした内容で策定する。

同日は一関、花泉、東山、川崎各地域を対象にしたWSを市役所本庁で、千厩、大東、室根、藤沢各地域対象のWSを同市千厩町の千厩農村環境改善センターでそれぞれ開催した。

このうち、市役所本庁では無作為抽出などで選出された市民と市総合計画審議会委員合わせて21人が参加。▽コミュニティ・暮らし▽安心安全▽健康・福祉・子育て▽教育・文化▽産業の各課題について意見を出し合った。

このうち、コミュニティ・暮らしでは、人口減少や少子高齢化を背景に地域のつ

ながり、人のつながりが弱く、さらに働き方や生活リズムの変化で住民同士のコミュニケーションの機会が不足していることが話題になった。地域防災にも関係してくることから「いかに負担にならない程度のつながりをつくっていきけるかが大事だ」と指摘していた。産業では「働く選択肢が

少ないのではないかと。せっかく大学で勉強しても、それを生かせる仕事、職場が少ない」という意見が出された。

市民WSの2回目は、同じメンバーで来年2月8日に開催。課題を踏まえた改善策や解決に結びつくようなアイデアについて意見を交わす予定だ。